

平成 27 年度
事業報告書

社会福祉法人クムレ

平成27年度 社会福祉法人 クムレ 法人事業報告

1 総括

今年度、社会福祉法人クムレは「ともに育ち ともに生きる」という理念の更なる追求の為、法人の向かうべき方向性を示した「第2期中期経営計画」

（平成27年4月～平成32年3月）をスタートさせました。計画のポイントである、「相談からサービスまで切れ目のない利用者支援の実現」のため、組織改革と併せ、事業グループごとに以下の大切にしたい支援の考え方（価値観）を示しました。

子育て支援事業グループ :「育ちあって未来につながる」

発達支援事業グループ :「地域で育む子どもと子育て」

自立支援事業グループ :「夢・将来をともに考え、かなえていく」

現在、クムレでは子育て支援や障がい児者支援を中心に27事業所、約400人のスタッフが日々福祉サービスを提供しています。それは、ビジョンを実現するための計画に基づいた日常活動です。職員一人ひとりが価値観を共有し、理念の実現へ向けて計画を実行する体制を整えました。

2 制度・報酬改定への対応

（1）子ども・子育て支援新制度

「小さくら保育園」が平成27年4月から「幼保連携型認定こども園 小さくら保育園」となりました。幼稚園の機能が加わることで保護者の就労の有無に関わらず、継続して保育を受けられる体制を整え、地域保育の課題に取り組みました。

（2）障害福祉サービス等報酬改定及び介護報酬改定

平成27年度障害福祉サービス等報酬の改定率は±0%となり、月額+1.2万円相当の福祉・介護職員待遇改善加算の拡充を行うとともに、各サービスの収支状況や事業所の規模等に応じ、メリハリを付けた改定となりました。

また、介護報酬改定においては、介護職員の待遇改善、物価の動向、介護事業者の経営状況、地域包括ケアの推進等を踏まえ、△2.27%の改定率とされました。

自立支援事業グループにおいては、これらの改定に対応する体制整備が遅れ、収益減少の要因となりました。年度後半には、実施した対策の効果が見られ始めており、平成28年度の収益確保に向け、それぞれの事業に求められる機能を更に高めていくとともに、収益性の向上に努めています。

3 新規事業

水島拠点に「ひろばにじいろ」を4月1日に開所いたしました。子育て中の保護者が、我が子の姿を理解し、受容していくためには、保育園や療育機関だけではなく、親子で気軽に行くことのできる場が必要となります。また、地域住民が主体となって交流し合える場としての機能を充実させてきました。クムレ職員のみならず、地域の方々、行政関係者等様々な方々が集い、信頼関係による相互扶助の場となるよう、継続して取り組んでいます。

4 60周年記念事業

平成27年度は法人創設60周年にあたり、関係者の皆様に対してこれまでの支援に感謝の意を表すとともに、先人が築いてきた功績に思いを馳せ、歴史と伝統を誇りに本法人の更なる飛躍の契機とするため、創立60周年記念式典を4月18日に倉敷国際ホテルにて開催しました。

また、法人の歴史を記す史書として編纂、発行し、本法人の歴史を共有するとともに、後世に引き継ぐために記念誌「クムレ60年の歩み」及びDVD版を制作しました。

5 最後に

平成29年4月（一部は平成28年4月）施行の改正社会福祉法は、昭和26年に社会福祉法人制度が創設されて以来、66年ぶりの抜本的改革となります。公益性の徹底と強力なガバナンスによる国民への説明責任、地域社会への貢献、税制優遇法人にふさわしい地域包括ケアシステムへのチャレンジ等、社会福祉法人の内部留保の積極的な地域社会への再投資は「期待から要求へ」変わることになります。平成28年度は準備期間として、制度対応に向けての手続き等を慎重かつ確実に進めていきます。

また、平成28年度4月に新規事業として水島に「小さくら小規模保育園」、栗坂に「ひろば 栗の家」を開設いたします。地域社会の要請に応え、「切れ目のない利用者支援体制の実現」を目指してまいりますので、ご理解とご支援をお願いいたします。

（法人事務局）

職員の状況

単位：人

	H28.3.31	H27.3.31	増減	H26.3.31	H25.3.31
正規	201	196	5	205	193
A	24	27	-3	23	25
B	125	141	-16	150	160
派遣	11	10	1		
合計	361	374	-13	378	378
平均年齢	32.8歳	32.0歳		31歳	36歳
平均勤続年数	5.1年	4.7年		4.2年	

※平均年齢、平均勤続年数の対象者は正規職員のみとする。

設備投資

事業所	内容	金額
ひろば 栗の家	建設資金（B型事業所増設）	66,035千円
小ざくら3園	無線AP取付工事	1,173千円
あしたば	2階改修工事	1,749千円
小ざくら保育園	遊具：ティノワールド2	6,987千円
クラシス	送迎用・公用車	1,825千円

※1,000千円以上の案件に限る。

※ひろば 栗の家：平成28年4月1日開設

資金調達

平成27年度は新たな借入はありませんでした。

平成28年度は「ひろば 栗の家」建設資金として、25,000千円を4月に借入実行します。

新規事業

(1) ひろばにじいろ開設

平成 27 年 4 月 1 日開始した事業の内容は以下の通り。

① 事業名：指定特定相談支援・指定障がい児相談支援、地域子育て拠点

② 事業所名：てとて・小さくら地域子育て支援センター

③ 住 所：〒712-8062 岡山県倉敷市水島北幸町 2-5

TEL 086-476-2016

④ 敷地面積：505.58 m²

⑤ 建築面積：118.95 m²

⑥ 延床面積：225.24 m²

人財育成

①リクルート活動

内容	開催日
新卒者向け法人説明会	平成 27 年 6 月 13 日（土）
新卒者採用 1 次試験（夏期）	平成 27 年 7 月 5 日（日）
新卒者採用 2 次試験（夏期）	平成 27 年 7 月 12 日（日）
内定者懇親会	平成 27 年 10 月 10 日（土）
新卒者採用 1 次試験（秋期）	平成 27 年 10 月 18 日（日）
新卒者採用 2 次試験（秋期）	平成 27 年 11 月 15 日（日）
内定式	平成 28 年 1 月 9 日（土）
新採用職員宿泊研修	平成 28 年 2 月 17 日（水） ～2 月 20 日（土）

② 法人内研修

・階層別研修

マネジャー、サブマネ・チーフ、リーダー・キャップ、一般、新卒者
職員のキャリアに応じ、必要な知識を身につけるため、それぞれ年 2 回
実施している。

・専門研修

子育て、発達、自立（障がい分野・高齢分野）各事業で、業務を遂行する上で、必要な知識等の研修を実施している。

・各事業所内研修

専門研修との相互補完を目的とし、各事業所で計画した事業所単位の特性に応じた研修を実施している。

③ 実践研究発表会

目的：日常業務の中の問題や課題を整理し、問題解決を行う自己研鑽及び発表の場とする。

日程：平成 28 年 2 月 14 日（日）10：00～16：20

会場：水島愛あいサロン

参加対象者：全正規職員

発表：35 題（平成 26 年度 37 題）

（子育て支援事業グループ 11 題・発達支援事業グループ 11 題・
自立支援事業グループ 13 題）

④ 5 法人研修

目的：約半年に 1 回クムレを含む、友好 5 法人が、それぞれ行ってい
る先駆的な取り組みについて発表し、自己研鑽及び双発の場とする。

i. 日程：平成 27 年 7 月 14 日～7 月 15 日

主催：クムレ（岡山県）

ii. 日程：平成 28 年 1 月 15 日～1 月 16 日

主催：青山里会（三重県）

⑤ 韓国（韓国子ども財団 チャイルドファンドオブコリア）研修

日程：平成 27 年 9 月 13 日～9 月 19 日

目的：例年行っている、韓国子ども財団との交換研修。韓国での児童、
障がい者、高齢者福祉事情の視察及び情報交換。

※韓国子ども財団側より、交流研修の目的と事業活動を総合的に判断し
た結果、事業方針と異なるとの判断があり、本年度で終了となりました。

理事会・評議員会の開催状況

回数	開催日・場所	内容
第1回	平成27年5月23日 倉敷学園 2階会議室	第1号議案 平成26年度事業報告の件 第2号議案 平成26年度決算の件 第3号議案 評議員選任の件 第4号議案 なないろ・倉敷地域生活支援センター移転の件
第2回	平成27年8月22日 倉敷学園 2階会議室	第1号議案 平成27年度第一次補正予算の件 (上期賞与支給について) 第2号議案 ひろば栗の家新築に伴う工事業者選定の件 第3号議案 小ざくら保育園小規模保育事業の件 第4号議案 障がい児者複合型施設の件 第5号議案 諸規程の改廃の件
第3回	平成28年1月23日 倉敷学園 2階会議室	第1号議案 平成27年度第二次補正予算の件 (下期賞与・保育処遇改善等加算給付について) 第2号議案 監事・評議員選任の件 第3号議案 新組織の件 第4号議案 諸規程の改廃の件 第5号議案 定款変更の件
第4回	平成28年3月26日 倉敷学園 2階会議室	第1号議案 平成27年度第三次補正予算(案)の件 第2号議案 平成28年度法人事業計画(案)の件 第3号議案 平成28年度法人予算(案)の件 第4号議案 平成28年度新組織の件 (施設長任免について) 第5号議案 役員改選の件 第6号議案 ひろば栗の家新築に伴う借入れの件 第7号議案 諸規程改廃の件 第8号議案 定款変更の件

法人行事

- (1) 辞令交付式 平成27年4月 1日(水)
- (2) 新年互礼会 平成28年1月5日(月)

現況に関する重要事項

(1) 地域公益活動について

子育て支援事業グループ

- 地域における子育て支援活動の実施（水島地区子育てカフェの開催・育メンひろばの開催）
- 健康サロン・オレンジカフェを通じた三世代交流の実施
- 地域行事（祭り）へ参加（和太鼓・夢kōi・警備ボランティア）
- エコキャップ収集
- 清掃活動（事業所周辺、公園）
- 出張相談（児島児童館、水島児童館への出張相談）
- ボランティア受け入れ

発達支援事業グループ

- 清掃活動（事業所周辺、公園）
- 地域住民へ啓発活動（子育て応援講座）
- 地域人材派遣職員の受け入れ
- ボランティア受け入れ
- 実習生の受け入れ

自立支援事業グループ

- 清掃活動（町内、事業所周辺、公園）
- 地域行事（祭り）へ参加
- 公民館での花の植え替え
- ボランティア受け入れ
- 地域住民へ啓発活動（フォーラム・座談会開催・講演会実施）
- クラコト フェスティバル開催
- 無料血圧測定
- 安全パトロールへの参加

余裕資金使途について

今後、主な使途は次の通り予定しております。

施設整備関連

事業名	時期	概算費用	その他
小ざくら保育園 厨房改修工事	未定	50,000 千円	
あしたば改修工事	未定	200,000 千円	平成 5 年竣工 築 22 年経過
児童発達支援センタークムレ、児童家庭支援センタークムレ改修	未定	400,000 千円	築 40 年経過
グループホーム増設	未定	40,000 千円	あしたば改修に 伴う受け入れ先 確保
きらり倉敷、玉島、 児島移転	未定	3,000 千円	

地域公益活動関連

- ※無料又は低額料金でのサービス
- ※生活困窮者支援
- ※人財育成勉強会開催（社内・社外向け）
- ※地域の休耕田活用（地域の高齢者に代わり障がい者支援をかねて実施）
- ※地域住民・利用者・保護者の憩いの場を提供（ひろば栗の家）

子育て支援事業グループ

平成 27 年度事業報告書

【事業所名：幼保連携型認定こども園小ざくら保育園】【事業所責任者：財前 亘】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

子育て支援事業グループの重点目標を、「子どもの主体性を育み支える子育て支援」「子育て力を高めるための保護者と協働」「地域と共に育む子育ての環境づくり」の3つの柱とした。子育て支援を進める中で、職員・保護者・地域という視点にもとづいた事業の運営を行った。

小ざくら保育園では、こども園に移行に伴い、保育内容を深め、子どもに即した保育環境づくりを各園と連携しながら行った。

重点目標	子どもの主体性を育み支える子育て支援
目標（値）	施策及び結果
① 小ざくら保育の構築 ○子どもが主体的に活動できる環境づくり	3月・3上会議を実施し、情報の共有を行いながら、保育感や気づきの共有ができた。
① -1 環境・音楽・運動PTによる保育内容の強化	年間を通じてプロジェクト活動として取り組み実践研究発表にて報告
①-2 3歳児未満・3歳児以上の連携や保育理解を進める会議の開催	① 同様
② 職員の役割に応じた知識と技能の向上	階層別研修と専門研修と通じて実施
重点目標	子育て力を高めるための保護者との協働
目標（値）	施策及び結果
③ -1 ペンチマークの実施 (三法人研修、リトミック等)	3 法人研修（白鳩会）保育内容の充実と人材育成 7人参加 成光苑第二愛育園
②-2 階層別研修への参加	年間計画に基づき実施及び参加
② -3 専門研修の実施	
②-4 事業所研修の実施	
②-5 発達事業Gとの勉強会	きらりとの一体化会議、3者懇談の実施
③ -6 気になる子どもの環境構築	
重点目標	地域と共に育む子育ての環境づくり
目標（値）	施策及び結果
①地域における子育て支援の充実	水島地区「子育てカフェ」の開催 育メンひろばの開催

②地域の様々な人が集える場 (ひろばにじいろ) の提供	伝承行事への参加推進、子育て講座への協力
③地域貢献活動の充実	生活困窮者の情報収集 生活困窮者の利用料減免
④地域住民との交流	もちつき会の開催

② 第2期中期経営計画に対する今年度の取組み

27年度は、子ども子育て支援新制度導入初年度は、制度理解に時間を費やしたが、園内の保護者対応については、準備をしながら順序立てて実施した。

今後の課題としては、制度にのっとった園運営のための環境づくり人材育成への取り組みである。

また、保育三園体制の中で今後の事業展開については、28年度検討し、5か年の新制度移行期間内に次の展開について検討すべきである。

目標（値）	施策及び結果
・子ども園移行と体制強化	・保育システムによる情報の共有・請求の一元化については、システムを導入し、現金引き落とし等により、現場から集金業務の切り離しを行った。 ・子ども園制度への対応の実施
・ワークライフバランスの推進	・保育システムの導入による業務の効率化 ・夢KOIサークルによる港まつりへの参加

2. 行事報告

27年度行事については下記のように実施した。

行事名	実施予定月	内容	結果
入園式	4月	入園式	新人・途中入所対象に実施
春の遠足	4月	遠足	
花まつり会	5月	仏様の誕生日を祝う	
参観日・保護者会総会	5月	参観日	日ごろの様子を知ってもらった。
プール開き	7月	プールの開始	プールの使い方、安全管理について。
七夕会	7月	七夕について	季節の行事を知る
お泊り保育	7月	雪組子どもが園に泊まる	子どもたちの自立心を培った。

港祭りへの参加	8月	港祭りでの雪組鼓隊による演奏	地域への貢献して実施
お月見会	9月	お月見	季節の行事を知る
参観日	9月	参観日	作品展なども同時に行う
運動会	10月	運動会	子どもたちの保育活動を保護者に参観してもらった
秋の遠足	10月	遠足（月・花・星組）	お弁当を持って、地域に親しんだ
卒園旅行	10月	バスによる親子遠足	雪組としての思い出づくりを行う。
発表会	12月	3歳児の発表会	
クリスマス会	12月	クリスマスについてしり。友達と楽しんだ。	クリスマス会wぱ
もちつき会	1月	おもちつき	季節の行事を知る
音楽会	1月	保育内容の成果を披露する	
節分会	2月	節分を楽しんだ	季節の行事を知る
ひな祭り	3月	ひな祭りを楽しんだ	季節行事を知る
卒園式	3月	雪組の卒園式	
個人懇談	年2回	保護者との懇談	子どもの成長課題を共通化するため

3. 利用者・職員状況

新制度になり、子どもの受け入れについても1号認定の受け入れなど変化をしている。実績についても年度途中での受け入れは、年齢が上がるほど少なくなっている。3歳児くらいでの員数体制を整え、また出産等の変動も見据えながら受け入れと職員体制の両立を図る必要がある。

利 用 者 数	定員 255名	1号 定員15名		2・3号 定員240名						計	
				2歳定員60		3歳定員60		4歳定員60			
		3歳	4上	標準	短時間	標準	短時間	標準	短時間		
年間 延人數	47名	2名	607 名	178 名	663 名	92 名	593 名	36 名	672 名	3,095 名	
開所日 数	293日										

月	職員数	
	配置 基準	現員
合計	22.	22

4. 保護者（家族）との交流事業

保護者会と協同して、秋祭りを開催するなどコミュニケーションを図りながら、年間を通じて計画通り実施した。今年度共済事業として子育て講演会を計画したが、調整できず次年度の課題とする。

5. 第三者評価に対する改善計画

研修の機会を通じて、子どもの権利擁護等について学ぶ機会を持った。
情報の開示について、保護者会と協力しながら取り組んだ。

6. 地域公益活動計画

育メン広場や子育て支援の集いをつうじて地域の子育て支援に取り組んだ。
(事業グループ共通活動)

7. 事業所研修計画

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
・基礎研修	4月5月	新人	職員としての基礎姿勢を学ぶ
マニュアル・連絡帳・保護者対応・日案・月案・当番	年間	新人	マニュアルに沿った支援や現場対応について
遊びについて	4月	全員	運動遊びや音楽遊び並びに環境の構築について

・職員間コミュニケーション	5月	新人	職場での言葉づかい
---------------	----	----	-----------

8. 防災・安全・衛生活動

○災害・防犯訓練の実施状況

毎月一回開催 火災7回 地震4回（うち津波1回）不審者対応1回

消防署による指導（10月）

次年度への課題として、避難経路の検討や、

○衛生に関する勉強会の実施状況

アレルギーの勉強会（5月） 手洗い研修（6月）

9. 設備工事及び高額什器備品購入

総合遊具の更新（2月）

老朽化していた総合遊具を保護者会および県の補助金を活用して更新しました。

厨房の回転釜の更新（11月）

老朽化していた回転釜を、更新しました。

10.その他特記事項

特になし

11.次年度の課題

- ・新制度にのっとった運営体制の整備
- ・乳幼児の一体的な保育づくりへの連携の強化
- ・職員の育成（中堅層の育成及びフォローアップの強化）
- ・保育計画のP D C Aの流れの再点検

平成 27 年度事業報告書

【事業所名：小さくら乳児保育園】 【事業所責任者： 山本己晴】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

子育て支援事業グループの大切にしたい価値観「育ちあって 未来につながる」とし、職員・保護者・地域という視点を大切にしながら様々な意見や考え方を学び視野を広げより良い人間関係を築いていくことが大切と考え、発達支援事業グループとの繋がりを強化し、子どもや保護者の気持ちに寄り添った支援を行うようにした。

その中で、3末・3上会議を実施し、キャップ・リーダー以上の職員が一緒に情報の共有や課題について話し合う場を設けた。又、特別な配慮の必要な子どもへの対応については体制等が十分とはいえないが、グループ全体での取り組みをしっかりと行なっていくと考えている。

重点目標	子どもの主体性を育み支える子育て支援
目標（値）	施策及び結果
小さくら保育の構築	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもが主体的に活動できる環境づくり ・3歳未満児クラスの情報共有や課題について話し合う機会を定期的に行なうことで、状況の把握などができる。又、進級に向けて発達段階に応じて段階的に進めしていくことができた。生活や遊びの内容については今後の課題とした。 ・ベンチマークについては、三法人研修やリズム研修等でクラスキャップを中心に参加した。研修で得たことを部分的には実践したが、現状と見比べながら計画的に取り入れていくことが必要である。 ・公開保育は、年2回実施し、園内だけでなく、他事業所にも声掛けをして行った。保育を見ていくポイントを決めておくことで、反省会でも良いところと課題を明確にすることができた。
職員の役割に応じた知識と技術の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づいた階層別研修、事業グループの専門研修、外部研修、事業所内研修の実施と参加によって学び、役割に応じて必要な知識や技術は何かということに気づくことはできている。 学んだこと実際の仕事に生かし、振り返りと課題・対策を考えしていくことが課題である。

重点目標	子育て力を高めるための保護者との協働
目標（値）	施策及び結果
保護者とのコミュニケーションの強化	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て講座、秋祭りの開催 ・保護者会を中心に子ども達も参加できる講座を開催した。年齢的に幅を持たせたり内容も選べるなど選択肢を増やしてもよかったです。 ・秋祭りは、時期や時間・内容について検討する期間が少なく、慌ただしく決めてしまったため保護者会の方とのコミュニケーションが少なかった。お祭りは子ども達がちびっ子音頭を踊ったり、職員の和太鼓やガチャバンドなどで盛り上がったが、次年度は内容をしっかり検討することが課題である。
重点目標	地域と共に育む子育ての環境づくり
目標（値）	施策及び結果
地域における子育て支援活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○育メンひろばの開催 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援のイベントへの参加や開催を行った。 ○伝承行事への参加 <ul style="list-style-type: none"> ・伝承行事には、地域の方に少しでも園の様子や行っていることを知ってもらえる機会になればと思い、地域の親子や年度途中から入園して来られる方に声掛けを行った。又、会の後に季節を意識したサロンも行った。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

小さくら保育園が幼保連携型認定こども園に移行し、新たな保育支援システムを導入した。登降園管理や集金管理については効果的な運用ができている。第三者評価を受審後の取り組みは、保育3園、子育て支援センターの共通課題から取り組んでいる状況である。

*共通課題：専門職の配置・情報の共有、認識を合わせることについて

目標（値）	施策及び結果
保育支援システムの導入	<ul style="list-style-type: none"> ・登降園、利用料等の説明会を事前に行うことで、管理運用ができている。
サークル活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・秋祭り、地域の祭りへの参加はできたが、継続的な活動が課題。

2. 行事報告

- ・計画に沿って、担当者が行事計画書、報告書を写真等入れてわかりやすくしている。
- ・誕生会：毎月第2水曜日実施

行事名	実施月	内容	結果
入園式 平成26年度途中入園 平成27年度新規入園	4月 3日	26年度途中入園児及び27年度新入園児の入園式	小さくらの取り組みを理解してもらう
花まつり	5月 8日	花御堂を飾りお参りする	お釈迦様の誕生をお祝いする
七夕会	7月 7日	由来を聞き催しを楽しむ	伝承行事を地域の親子と楽しむ
お月見会	9月25日	由来を聞き催しを楽しむ	伝承行事を地域の親子と楽しむ
運動会	10月12日	親子で参加	親子で身体を動かすことを楽しむ
クリスマス会	12月25日	由来を聞き催しを楽しむ	伝承行事を地域の親子と楽しむ
もちつき	1月15日	もちつきの様子を見る	地域の方と日本古来の行事に親しむ
節分会	2月 3日	由来を聞き催しを楽しむ	伝承行事を地域の親子と楽しむ
ひな祭り会	3月 1日	由来を聞き催しを楽しむ	伝承行事を地域の親子と楽しむ
参観日	5月 9日 8月 8日 9月12日 2月 6日	親子で遊んでもらったり日頃の園の様子や成長の様子をみてもらったりする	園の取り組みを理解してもらったり親子で触れ合ったりして同年代の親子とのコミュニケーションの場とする

3. 利用者・職員状況

母親の出産・育児休暇等で退所する園児（1歳児）も見られたが、0歳児の受け入れを随時行い、全体的にはほぼ計画通り推移した。

職員については、潜在保育士（一度退職した職員への声掛け）の確保や嘱託職員の時間調整を行った。

利 用 者 数	定員 90 名	0 歳		1 歳		計
		標準	短時間	標準	短時間	
	年間 延人数	351 名	109 名	570 名	140 名	1,170 名
開 所 日 数		295 日				

月	職員数	
	配置基準	現 員
	0歳児 3：1 1歳児 6：1	
合計	297	340

4. 保護者（家族）との交流事業

○保護者会交通安全

- ・保護者会役員さんを中心に降園時の車のマナーについて啓蒙活動を実施。

○秋祭りの実施

- ・保護者会役員さんやお手伝いの保護者、地域のボランティアさんと一緒に実施。

○伝承行事とサロンの実施

- ・七夕、お月見、クリスマス、節分、ひな祭りの実施と季節等に関連したサロンの実施。

5. 第三者評価に対する改善計画

○マニュアルの整備については、既存の内容を整理して行く必要があり、事業所で進めていくものと、法人全体で整備していくことを確認しながら行つていただきたい。
次年度引き続きの取り組みとする。

6. 地域公益活動計画

○水島港まつりへの参加は、夢kōiや和太鼓、ボランティア活動を実施。

○中学、高校生を中心に、チャレンジワークや夏休みのボランティア体験の受け入れを実施。

○エコキャップの収集

7. 事業所研修計画

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
<ul style="list-style-type: none"> ・育児マニュアル、要領書 OJT、日案、月週案 プラン書について ・報、連、相について ・当番業務、保護者対応 電話対応、連絡帳の書き方 	4、 随時	新人職員、 全職員	・保育内容、日常業務などについて知識の習得や情報共有の場となった。又、わからないことや確認したいことなど意見交換ができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・わらべうた ・粗大遊びについて ・玩具援助手引きについて ・絵本について ・リスクマネジメント (KYT)について 	5、6、 7、8、 随時	新人職員 全職員	・保育の具体的な内容を知ることで、実践しやすくなっている。リスクについても実際に図を用いて具体的にすると理解できていた。気づきの視点も高まっている。

・公開保育 (年間計画に沿って 各クラス年2回)	5~3	全職員	・チェック項目を決めて行うことで、良い所と課題が明確になった。前期1回目の反省をふまえて後期2回目を実施し、反省会でもしっかりと意見交換ができていた。
--------------------------------	-----	-----	-----------------------------------------------------------------------------

8. 防災・安全・衛生活動

- 防災 • 避難訓練の実施（毎月1回）
 - 消火器模擬訓練、避難誘導訓練の実施
- 安全 • 事業所内外の安全点検
 - 不審者対応訓練
 - 保護者への送迎時の交通マナーの啓蒙、車両管理の注意喚起
- 衛生 • 環境衛生（害虫駆除、樹木の消毒）の実施
 - 事業所内の消毒、玩具消毒の実施の徹底
 - 感染予防（園児への手洗い、消毒指導）、感染症に対する情報提供

9. 設備工事及び高額什器備品購入

- 特になし

10.その他特記事項

- 特になし

11.次年度の課題

- ・子どもが主体的に活動できる遊びと学びの環境をつくっていくために、日課の中で朝夕の運動遊びを年齢に合わせて行えるように見直し実践していきたい。
子どもが生き生きと遊びや生活をしていくためには職員自身が子どもの手本となることが大切であることを認識し、「職員の心構え」の実践を繰り返し伝え、確認していきたい。
特別な配慮の必要な子どもの支援については、支援チームをつくり担当者を中心に発達支援事業グループと一緒にチームプレーで進めていきたい。
- ・保護者・家族との協働では、初めて保育園に通う子どもと母親に対して親子での慣らし保育（4月にウエルカム保育とする）を進めていく中で、親子の愛着形成について時に触れて話をしたり、この時期にこの年齢に大切なことを伝えたりしながら子育ての大変さや楽しさを共有できる場をつくっていきたい。
- ・地域支援については、職員に地域の子育て支援に目を向けていく機会をつくり、視野を広くもつことや色々な考え方や取り組みがあることを知り、イベント等へ参加できるようにしていきたい。
- ・第三者評価に対する取り組みについては、既存のマニュアルを整備する必要があり、法人全体のものとグループのものを整理していきたい。
目標に向けて、どうしたらできるかを考えて進めていくことは少しずつできるようになってきているが、さらにチームで取り組むことを繰り返し伝え実践に結び付けていきたい。

平成 27 年度事業報告書

【事業所名：小さくら夜間保育園】

【事業所責任者:中谷成美】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

事業グループ全体で協力し合って、概ね計画に沿っての活動は実施できた。

小さくら保育の構築については、定期的な保育の確認会を通して情報の共有ができた。

各種保育計画の立案等に具体的に反映させ、ねらいを意識して現場の保育実践につながるようにしていきたい。地域における子育て支援活動では、職員が実際に関わる機会をもつことができた。

重点目標	子どもの主体性を育み支える子育て支援
目標（値）	施策及び結果
小さくら保育の構築	3歳未満児、3歳以上児の定期的な会議、ベンチマーク、公開保育への参加などを通して、子どもが主体的に活動できる環境作りについての情報共有ができた。こうした情報を、より具体的に各種保育計画の立案に反映させ、ねらいを意識した保育実践につながるようにしていきたい。
職員の役割に応じた知識と技能の向上	計画に基づいて、階層別研修・専門研修への参加、事業所研修の実施を行った。各種研修で知識や技能は少しずつ習得できてきてている。事業所での各自の役割や保育でより意識して活かしていくことが引き続きの課題である。
重点目標	子育て力を高めるための保護者との協働
目標（値）	施策及び結果
保護者とのコミュニケーションの強化	子育て講座の開催については内容等含め、保護者会との共催を予定していたが、話し合いの機会をもつのが遅くなり、教養講座に協力ということでの参加となつた。保護者や保護者会の方々とは各種行事やイベント、年度末の親睦会などを通しての関わりがもてた。次年度は、話し合いの機会を適切な時期にもち、企画段階から一緒に考え、関わりがもてるようにしていきたい。

重点目標	地域と共に育む子育ての環境づくり
目標（値）	施策及び結果
地域における子育て支援活動の充実	地域の子育て支援のイベントの開催準備、参加等を通じて地域の子育て家族の方々と触れ合い、関わることができた。いろいろな職員に参加の機会を増やしていくことに努めたい。
地域の様々な人が集える場（ひろばにじいろ）の提供	各種伝承行事の機会を利用し、職員も園児も地域の方々と触れ合うことができた。次年度は、より関わりや触れ合いがもてるよう計画を立て、機会をもっていくようにしたい。
地域貢献活動の充実	生活困窮者情報収集は、保護者との懇談会やコミュニケーションの中で行ってはいったが、実施につながるような情報の収集には至らなかった。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

新たな保育支援システムを導入し、出席状況・利用料管理を一元化することができた。また、働きやすい職場・労働環境の整備の一環として職員間のコミュニケーションの推進を図る為、子育て支援事業グループでサークル（夢k o i サークル）を立ち上げた。

目標（値）	施策及び結果
保育支援システムの導入	・登降園情報をシステム管理することで、出席状況・利用料管理を一元化することができた。登降園情報については、一部、問題もあり、業務の効率に繋がっていない面もあり、改善を要する。
サークル活動の実施	・職員間のコミュニケーションを図る為、夢k o i サークルを立ち上げた。初年度ということもあり、今後の積極的な活動や職員への浸透及び活動内容の充実に努める必要がある。

2. 行事報告 及び4. 保護者（家族）との交流事業

園児や卒園児、保護者、地域の方などと関わりをもちながら、各種行事を楽しむことができた。

行事名	実施月	内容	結果
入園式	4月	26年度途中入園児及び27年度新入園児の入園式	途中入園児8名が対象だった。参加者はいなかった。
親子遠足	5・10月	5月は雨天の為、中止。10月は笠岡の恐竜公園・カブトガニ博物館へ出かけて一緒に遊び、お弁当を食べた。	子ども、職員と保護者、保護者同士の交流がもてた。

花祭り	5月	花御堂を飾りお参りした。	楽しい雰囲気の中でお釈迦様の誕生をお祝いできた。
参観日	5・9・1月	親子で遊んでもらいながら日頃の園での様子をみてもらつた。	園での子どもの様子や活動を理解してもらうことにつながった。
懇談会	5・1月	園の取り組みや担任の保育に対する思い、子どもたちの園での様子を伝えた。	園と保護者との情報交換ができる。意見・要望を伺うことができた。
七夕会	7月	由来を聞いたり、催しを楽しんだりした。	伝承行事に親しむことができた。
親子キャンプ	7月	「長船美しい森」で実施。自然の中で遊んだり食事を作って食べたりした。	子ども、職員と保護者、保護者同士（卒園児やその保護者）の交流がもてた。
港祭り見学	8月	地域の行事を親子で楽しんだ。	地域の行事を楽しみながら、子ども、職員と保護者、保護者同士（卒園児やその保護者）の交流がもてた。
お月見会	9月	由来を聞いたり、催しを楽しんだりした。	伝承行事に親しむことができた。
運動会	10月	親子で参加	親子で体を動かすことを楽しむことができた。
クリスマス会	12月	クリスマスに関する話や催しを楽しんだりした。	季節ならではの行事に楽しく参加することができた。
もちつき	1月	もちつきの様子を見たり、ついたりした。 地域の方と一緒に遊んだり、食事を食べたりした。	伝承行事に親しみ、地域の方と触れ合うことができた。
節分会	2月	由来を聞いたり、催しを楽しんだりした。	伝承行事に親しむことができた。
ひな祭り会	3月	由来を聞いたり、催しを楽しんだりした。	伝承行事に親しむことができた。
誕生日会	毎月	誕生児のお祝いをした。	楽しい雰囲気の中で、成長を喜び合うことができた。
クッキング (試食会含む)	2~5歳児 年に2回	親子でクッキングを行い、一緒に作ったものを食べた。 園での食事・食事の様子・食育の取り組みなどを伝えた。	親子で楽しみながら、食への興味や食の大切さを理解してもらうことにつながった。
試食会	0、1歳児 年2回	園での食事・食事の様子・食育の取り組みなどを伝えた。	園と保護者の情報交換や保護者に食の大切さを理解してもらうことにつながった。

た。

○保護者会と一緒に交通安全バッドマナー追放運動や秋祭りを行った。

○個人懇談、参観日（週間）・懇談会、家庭訪問を行った。

○日曜、祝日開催の親子参加の園外保育行事に卒園児やその保護者を招き（7月親子キャンプ、港祭り見学、秋の親子遠足など）、交流をもった。

3. 利用者・職員状況

各年齢、概ね、計画通りの利用人数であった。（利用人数合計の4%が短時間認定、96%が標準時間認定）職員は年度途中で派遣職員の契約が切れたが、他の嘱託職員の勤務調整により、業務に支障はなかった。

利 用 者 数	定員30名	0歳		1・2歳		3歳		4歳上		計
		標準	短時間	標準	短時間	標準	短時間	標準	短時間	
	年間 延人数	29名	3名	158 名	4名	62名	5名	129 名	3名	393 名
開 所 日 数		294日								

月	職員数	
	配置 基準	現員
合計	92	104

5. 第三者評価に対する改善

各種マニュアルの整備については、優先順位の高いものから改善提案を反映させ、見直しを行っていった。引き続き検討の必要なものについて、計画的に実施していくようとする。保育については、戸外での活動や表現活動、社会体験や生活体験の機会を多く取り入れていくようにした。

6. 地域公益活動

水島港まつりへの参加（夢kōi、和太鼓）、エコキャップの収集、近隣道路の清掃活動の実施、学生ボランティア（研究協力）の受け入れなどを行った。

7. 事業所研修報告

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
子どもの発達と生活、遊びの援助と環境構成	毎月	正規職員全員 嘱託職員（長時間）	年齢に応じた生活援助と遊びの提供について学ぶ中で職員

			間のコミュニケーションが深まり、子どもの姿や必要な援助について共有することができた。
育児マニュアル、要領書、OJTについて	毎月	新人 嘱託職員	業務の基礎を身につけ、適切な援助の大切さを理解し、少しずつ意識してできるようになっている。
連絡帳、保護者対応、電話対応について	4、5月	新人 嘱託職員（短時間）	少しずつ意識してできるようになっている。
KYT（危険予知） 緊急時の対応について	年3回 毎月	全職員	日常の保育での気付きの視点や危機管理、防犯についての大切さを学び、保育環境の整備に活かすことができた。

8. 防災・安全・衛生活動

○防災・避難訓練の実施（毎月1回）

- ・消火器模擬訓練、避難誘導訓練（2次避難訓練含む）の実施

○安全・事業所内外の安全点検

不審者対応訓練

園児への交通安全指導、保護者への送迎時の交通マナーの啓蒙・車両管理の注意喚起

○衛生：環境衛生（害虫駆除、樹木の消毒）の実施と事業所内の消毒、玩具消毒の実施の徹底

感染予防（園児への手洗い・消毒指導）、感染症に対する情報提供

○研修の実施と研修会への参加

9. 設備工事及び高額什器備品購入

園庭のレイアウトと再構成を行い、28年3月新しい総合遊具を設置。

10. その他特記事項

特になし

11. 次年度の課題

小さくらの保育については、情報の共有を図りながら、具体的な各種保育計画の立案と計画に基づく保育実践に努めたい。職員の育成については、基本をしっかりとおさえながら丁寧な指導を行い、学んで気づいたことが業務の中で実践できるようにしていくことが引き続きの課題である。嘱託職員についても引き続き、OJTを基本とした指導を業務の中で意識してしていくようにし、知識と技能の向上につながるようにしたい。第三者評価を受けての改善については、マニュアルの整備も含め、法人全体で取り組む必要のある事項もあるので、具体的に検討を行っていくことが課題である。

平成 27 年度事業報告書

【事業所名：小さくら地域子育て支援センター】【事業所責任者:岡本 初江】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

27 年度から施行された子ども・子育て支援新制度に伴い、認定子ども園と地域子育て拠点事業の 2 拠点での事業実施が求められるようになり、ほっとサロン・にじいろサロンの場を活用してのセンター事業の展開、ならびに一時預かり事業の実施となった。職員・子ども・保護者・地域という視点を大切にし、相互のよりよい関係づくりと小さくら保育の実践に努め、地域住民と子育て親子、さらには保育園の子ども・職員とのつながりを意識し、行事を介して互いの顔が見える機会をもつようにした。また、地域支援に重点を置き、水島・連島地区における高齢者との三世代交流の場をもち、地域での支え合いの仕組みづくりのきっかけ作りとして事業を進めてきた。

重点目標	子どもの主体性を育み支える子育て支援
目標（値）	施策及び結果
0・1・2歳児クラスの情報の共有、3歳児未満会議の実施	一時保育担当者 1 名が 3 未会議に参加し、保育 3 園との情報共有、発達年齢における課題などを学ぶことができた。保育援助マニュアルをベースに園内研修で見直しをしたり、それに基づいての保育援助ができたか等の振り返りを行ったりする中で、保育援助の統一化を図ることができた。
ベンチマークの実施	三法人研修、並びにリトミック研修に参加し、人材育成の視点や保育の大切にしたい価値観を共有することができた。
公開保育への参加	0・1歳児クラスの保育を見せていただき、一時保育での保育援助について振り返る機会をもった。
階層別・専門・事業所内研修への参加	別紙参照
重点目標	子育て力を高めるための保護者会との協働
目標（値）	施策及び結果
子育て講座の開催	従来行っていた外部の専門職を招いての出前講座とお母さん方のエンパワメントを活用してのママパパサロンの実施を図った。また、愛育委員会からの要望で、研修の一環として子育て親子との交流の場の設定や実技

	編を導入したふれあいの場など、新しい取り組みにもチャレンジした。
重点目標	地域と共に育む子育て支援の環境づくり
目標（値）	施策及び結果
水島地区「子育てカフェ」の開催	地域住民の力を引き出すためのきっかけ作りとして、地域の親子と地域住民が触れ合う機会を年3回設けた。その中で、自分にもできる子育て支援があることに気付き、ボランティアとして活躍したいという方も見られている。
育メンひろばの開催	子育て支援グループ職員、あるいは地域の関係機関が一同を介して行うイベントであり、参加者からの要望も高く、人気の高い子育て支援として根付いている。
子育てボランティアの育成支援	倉敷市のボランティア養成講座をはじめ、ひろばにじいろで行ったブチ子育てカフェなどを通して、子育てボランティアの発掘や育成を行った。託児ボランティアとして、園開放に参加してくださる方が2名増えた。
産科からの子育て支援（出前講座）	月1回講座に参加し、出産後の子育て支援についての話や場の紹介をしたりした。
伝承行事・子育て講座の開催	保育園との連携を強化し、子育てサロンを実施した。今までになかった園間での職員との連携が図れるようになってきている。
水島・連島地区の高齢者との交流会開催	水島保健推進室と連携し、各地区のキーパーソンの方と顔見知りの関係ができ、健康サロン、オレンジカフェを通して、三世代交流の機会をもつことができた。また、保育園行事にも招待し、地域の方と園児が触れ合う機会がもてるようになった。
乳幼児の成長に不安をもつ保護者の交流と相談支援事業の実施	発達の気になる親子への相談支援として、なないろ・ゆめいろの場を設けた。先輩ママや現在子育て中の母親が主体的にサポートの役目を担ってくださいり、参加する親子が徐々に増えている。専門相談へのつなぎも必要なケースがあるため、発達支援との連携強化が課題である。
ひろばにじいろを支える人が集う場の開催（実行委員会）	地域のキーパーソン（ピーポーカフェ）、子育てママ支援者（はぴぱる）のメンバーを中心に定例で交流会を開催した。その中で、自分たちのできる子育て支援について話し合い、役割分担をして園開放、カフェ開催、三世代交流の場などで活躍してくださっている。
生活困窮者の情報収集	今年度から小地域ケア会議に参加させていただいている。関係者との話の中で、地域の実情を知る機会となっ

	ている。
--	------

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

地域福祉ニーズにおける先駆的な取り組みとしてひろばにじいろと協働し、子育て支援センターが関係機関や地域住民のコーディネートを行い、新たなるプラットフォームとしての事業実施に取り組むきっかけづくりを行った。

目標（値）	施策及び結果
地域住民・関係機関との顔の見える関係づくり	水島保健推進室との連携で、水島エリアのキーパーソンの方との顔の見える関係づくりを進めてきた。従来から関係性ができている愛育・栄養委員・更生保護・主任児童委員だけでなく、高齢者支援センター・水島会館・人権推進委員などとの関係性も広がり、地域の出会いの場に参加させていただく機会が活動の場へつながっている。
保育支援システムの導入	一時保育の導入は28年度への見送り

2. 行事報告

今年度は、運動会・秋祭り・もちつきの行事に地域住民（シニア世代）の参加を呼びかけ、今まで希薄になっていた水島・連島エリア地域との交流ができた。

また、季節行事・伝承行事も保育園との連携を強化し、ほっとサロンを活用した乳児・幼児・センターでの子育てサロンを開催することができた。地域と園との関係もより深めることができ、保育園職員にとってもより地域の子育て支援に関心をもつ機会ができた。

行事名	実施月	内 容	結 果
運動会	10月 12日	保育園行事への参加	70組の地域の親子が参加
親子遠足	10月 26日	やさい畠クムレへの親子遠足	18組の地域の親子が参加
秋祭り	10月 31日	保育園合同開催の秋祭り	地域の親子は不特定多数、地域住民 19組（シニア世代）が参加
個人懇談	2月 1日～ 3月 7日	一時保育利用者への相談支援	37世帯の一時・特定保育利用者が参加

※季節行事・伝承行事（花まつり・七夕・お月見・クリスマス・もちつき・節分・ひなまつり）

：一時保育利用者、地域の親子が年間 273 名参加

※保育参観週間、及び試食会（6月・1月）：一時保育利用の保護者を対象とした保育参加形式

※誕生日会（毎月第2水曜日）：一時保育利用者、地域の親子の参加

3. 利用者・職員状況

利用に関しては、各事業とも計画より実績が上回る状況であった。

子ども・子育て支援新制度の施行に伴い、預かり保育や地域型保育の拡張による影響が多少なりとも出ているが、地域での受け皿の充実という視点を見込んでの計画だったため、ほぼ

予想通りの推移だった。また、ひろばにじいろ開所に伴う利用者増は例年の約3倍となり、地域の子育て親子が集う場としては良い結果につながっている。一方、訪問事業では産じょく期ヘルパー、子育てヘルパーの利用は例年より減っているが、母親の支援を必要とするケースは変化が見られない。

	地域子育て支援センター 利用者数	一時保育 利用者数	休日保育 利用者数	ヘルパー 利用者数
年間利用	7,408名	5,033名	428名	206名
一日平均	12.5組	17.1名	6.4名	0.8名
稼働日数	296日	294日	66日	245日

職員配置		
	配置定員	現員
正職(バ)		
合計	60+(42)	47+(51)

※ センター開所日数は、294日(冬季休業日以外は開所) 職員は常勤換算とする

4. 保護者（家族）との交流事業

保護者のニーズから開催した講座には多くの方が参加してくださり、口コミでさらなる方たちへの参加につながってきている。講師陣も従来の専門職だけではなく、ママのエンパワメントを活用した講座や地域のシニア世代の方たちの力を借りることができ、交流の機会が増している。

支援事業	内容	開催回数	延べ参加人数
すこやかサロン (親子教室)	“ベビーズDAY”	9	224人
	“マザーズDAY”	10	259人
パパやママのおしゃべりサロン	ハンドメイドの会（離乳食・おやつ作り）	2	30人
	パクパクランチの会（試食会）	10	92人
ボランティア関係	子育てボランティア養成講座(合同開催)	5	61人
	ボランティア交流会	2	16人
	花もめんの会・・・毎月2回	18	73人
	一時保育・託児ボランティア受入れ	随時	461人
育児相談	面接相談（訪問相談を含む）	567件	708件
	電話・メール相談	9件	11件
ふれあいひろば	ふれあいひろば（園開放）・・月～土曜日	3478世帯	7408人
	わらべうた	121組	250人
	サーキット遊び	115組	242人
	絵本の読み聞かせ	171組	352人
	音楽ひろば	156組	320人
	おひさまひろば・・・第4月曜日	12	238人
	育メンひろば	1	78人

	出前講座＋ママパワサロン	20	387人
	チラシ配布	毎月	21445枚
	親子クラブ・子育てサロン	5ヶ所	111人
ふれあい 子育て支援サービス	産じょく期ヘルパー	13世帯	74回
	子育てヘルパー	12世帯	132回

5. 第三者評価に対する改善計画

保育3園共通の課題であった 1. 「プライバシー保護について」 2. 情報の管理体制 3. サービスの継続性に配慮した対応 4. 安全管理 については、保育3園で実施、および検討中。センターとしての取り組みとしては、気になる子どもだけでなく母親の支援にも目を向け、月1回の職員会議で支援の在り方について話し合う機会を設けた。また、保育3園を巻き込んだ地域支援は、センターが軸となり、運動会・秋祭り、もちつきに地域住民を招待し、保育園児、あるいは職員との交流の機会がもてるようにし、地域とのつながり強化を図った。

6. 地域公益活動計画

☆エコ・キャップの回収

☆8月：地域活性化を目的とする水島港祭り“夢 koikoi”に参加

☆6/20：倉敷市主催「育メンひろば」の開催・・・25組 78人の参加

栄養改善・愛育委員・子育てボラ・助産師・保健師・子育て事業部の協働開催（37人）

☆地域支援活動として、連島・水島地区の健康サロン・オレンジカフェを通じた三世代交流の実施（5箇所の支援：263人）

☆水島地区“子育てカフェ”を3回開催・・・新たなる子育て支援者の発掘（131人）

☆ひろばにじいろのカフェコーナーを利用して、地域住民との交流、あるいは関係機関との話し合いの場として活用させていただいた

7. 事業所研修計画

研修項目	月	参加者	結果
相談援助技術 (コミュニケーション &リフレーミング)	7・9・3月	全職員	相談援助スキルについて学ぶことができた
職員の姿勢・態度について (コミュニケーション)	4・7・8月	全職員	人と関わることの意義について学びなおしができた
0～2歳児の遊びと生活 (保育環境)	6・11・2・3 月	全職員	手作り玩具・ままごと遊び・発達・食事提供について、学びなおしが図れた
実技研修	毎月実施	全職員	わらべうた・おすすめ玩具伝承行事・絵本の紹介について知り、保育技術の向上につながった

気になる親子への支援（ケース検討）	9月	全職員	事例を通じて支援の在り方をチームで考えることができた
地域支援について	11月	全職員	地域支援の考え方、ならびに実践例を学ぶことができた
第三者評価・ガイドライン研修	11月	全職員	一時保育・センター事業での課題を共有することができた

8. 防災・安全・衛生活動

防災活動	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練計画に基づき、避難訓練を毎月1回実施 消火器模擬訓練・避難誘導訓練・2次避難訓練などを行う
安全活動	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の職員会議にて、ヒヤリはっと・事故・苦情の報告を行い、全職員に周知、改善検討を実施 安全点検表に基づき、定期的な安全点検、及び修理を実施（安全点検表見直し） 車両安全運転管理・運行記録の管理を実施(毎月1回) 不審者対応研修への参加（年1回）
衛生活動	<ul style="list-style-type: none"> O-26、157のチェック表に基づき、衛生管理を実施 ダスキンによる害虫駆除を年2回実施 幼児安全法・感染症・衛生研修に参加 保護者や地域の子育て家庭に感染症予防の情報提供を行う

9. 設備工事及び高額什器備品購入

1月：一時保育保育室のエアコンの老朽化に伴い、エアコンの効きが良くない。並びに、吹き出し口に黒カビが付着し、クリーニングを行ってもきれいにならなかつたため、取り換え工事を実施した。

10.その他特記事項

特になし

11.次年度の課題

子育て支援グループの大目にしたい支援の考え方（価値観）をもとに、

- ① 子どもの主体性を育み支える子育て支援としては、小さくらの保育の取り組みや職員の心構えの実践を浸透させ、職員自身が子どもの良い手本となれるように公開保育を通してお互いの気付きを高めていきます。
- ② 子育て力を高めるための保護者・家族との協働として、子育て講座の内容の充実を図り、母親がリフレッシュできる内容から、子育て、あるいは発達が気になる子どもへの関わりが学べるような講座を、発達支援事業所、あるいは関係機関との連携により開催します。
- ③ 地域とともに育む子育ての環境づくりにおいては、地域をつなぐコーディネート役として、水島地域の住民との交流や行事を介したふれあいの場をもち、互いの笑顔が増える取り組みを実施していきます。また、親子の隙間を埋める「にじいろ」機能の充実を目指し、水島拠点の各事業所とのチームワークを大切にしたチームプレーによる包括的な相談支援体制づくりを進めています。

平成 27 年度事業報告書

【事業所名： 倉敷市鶴心寮 】【事業所責任者： 森安 純一 】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

職員の異動があったが、全職員が鶴心寮の役割、課題についての理解を深めながら入所世帯の支援を行った。児童の支援では、学童の人数が増加したこともあり、充実した取り組みを行うことができた。第三者評価に基づく改善については、昨年度未実施の課題について、引き続き取り組みを行った（マニュアルの見直し・新規作成、記録類の整備など）。支援プログラムについては「鶴心寮の自立支援計画の概要」を作成した。今後、具体化して行く計画である。

重点目標	子どもの主体性を育み支える子育て支援
目標（値）	施策及び結果
①支援体制の強化 ○マニュアルなどの整備 ○支援計画の充実 ○支援プログラムの検討（母子）	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルの整備については、一部見直し、新規作成などを行った。 自立支援計画の様式を更新、母親と児童の支援計画を別々に策定し、活用した。 支援プログラムについては、「鶴心寮の自立支援計画の概要」を作成。今後、具体的な取り組みを行う予定。
②保育・教育的内容の充実 ○行事等への子どもの参画 ○学習支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 意見を聞き、行事の内容に反映させたが、計画、準備、運営等への参加はできなかった。 放課後の学習支援のシステムを再構成し、支援を実施した。学生ボランティアなども活用し、時間、支援する人員を確保し取り組むことができた。
重点目標	子育て力を高めるための保護者との協働
目標（値）	施策及び結果
③保護者支援の知識とスキルの向上 ○専門研修の実施 ○事業所内研修の実施 ○外部研修への参加	<ul style="list-style-type: none"> 外部研修、専門研修への参加、先進施設の見学、児家センとの連携（事例検討、事業所内研修への参加）、西井先生のSV研修会への参加などを行った。
④保護者とのコミュニケーション強化 ○行事等への保護者の参画	<ul style="list-style-type: none"> 行事等への保護者の参画では、保護者の意見を取り入れた行事を実施した。保護者が運営に関わるまでには至

○アフターケアの充実	ていない。今後の課題である。 ・フターケアの充実では、訪問などの回数を増やすことを目指したが、達成できていない。
重点目標	地域と共に育む子育ての環境作り
目標（値）	施策及び結果
⑤地域における子育て支援活動の充実、 地域貢献活動の実施 ○育メン広場の開催 ○水島地区「子育てカフェ」の開催	・「育メンひろば」、「水島キッズ」、「秋祭り」、「水島祭り」に参加した。
⑥地域・関係機関との協働 ○児家センをはじめとする法人内・外 の相談機関との連携を深める ○自立支援計画策定における関係機 関との協働	・子ども相談センター、福祉事務所、地域生活支援セン ター、保健師他との連携を深めた。 児家センとの連携では、連携会議、事例検討、児家セン の所内研修への参加、児家センから鶴心寮への出張相談 の実施、日常の入所ケースに関する相談などを行った。 倉敷市生活自立相談支援センター（生活困窮者対象）と の協働も行った。自立支援計画策定において関係機関と の協働はできていない。
⑦地域のニーズの掘り起こし ○関係機関訪問、会議等での寮の紹介 他	・関係機関訪問（福祉事務所、児童相談所、女性相談所、 社会福祉協議会、生活困窮者支援センター、社会福祉協 議会他）、ネットワーク会議、要対協の会議などでの鶴 心寮の紹介などを行った。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

利用者主体の支援計画に基づく支援の実施については、入所者のニーズによりきめ細かく対応できるよう、アセスメントシートの作成、自立支援計画の様式の改善などを行った。地域・関係機関との協働については、子ども相談センター、子育て支援課、生活福祉課、地域生活支援センター、児童家庭支援センター他との連携を深めた。特に児童家庭支援センターとの協働は頻度が高くなり、質も向上した。

目標（値）	施策及び結果
利用者主体の支援計画に基づく支援 の実施	アセスメントシートを作成した。 支援計画の新様式を作成・活用した。
地域・関係機関との協働	連携会議及びケース共有により児家センとの連携を 進めた。倉敷市の関係課との連携も密になった。
職員間のコミュニケーションの推進	サークル活動は未実施

2. 行事報告

平成27年度は、前年度とほぼ同様の行事を行った。行事の内容は、入所している母親や子ども

の状態に応じて、興味を持って取り組める、各々が活躍できる場面がある、自分が大切にされていると思える、親睦を深めることができるなどの観点から適切な内容を選んだ。行事によっては、退所者へも案内をし、アフターケアとしての意味をもたせた。参加した母親や子どもたちは、それぞれ行事に楽しそうに参加し、活躍する場面も多く見られた。次年度は、利用者の方々が、計画、準備、運営に参画する行事も計画していきたい。

行事名	実施月	内容	結果
親の会	毎月	連絡事項伝達、要望等の話し合いの場	延べ 72 人参加
子どもの会	毎月	連絡事項伝達、要望等の話し合いの場	延べ 45 人参加
誕生会	該当月	誕生日を祝う	母：7 人、子：8 人 金額：7,384 円
母の日・子どもの日	5月 10 日	メッセージカード作成、柏餅作り、鶴形山公園散策を楽しむ。	参加人数 10 名 金額：2,118 円
お芋パーティー (子ども会主催)	6月 7 日	焼き芋、スイートポテトを作ったり、食べたりすることを楽しむ。	参加人数 6 名 金額：3,308 円
七夕会	7月 5 日	親子で七夕飾り作りや短冊を笹に飾る	参加人数 15 名 金額：0 円
由加山へ行こう	8月 3 日	倉敷市少年自然の家にて思い出を作る	参加人数 7 名 金額：15,750 円
バーベキュー会	8月 30 日	利用者、退所者の方々とともにバーベキューを楽しむ	参加人数 20 名 (内訳：①11 名、②9 名) 金額：29,927 円
クリスマス会	12月 6 日	ツリーの飾りつけ、カード作成、ケーキづくりなどを楽しみ和やかな場を過ごす	参加人数 10 名 金額：4,968 円
餅つき・大掃除	12月 23 日	地元千歳楽保存会及び地域住民と餅つきを楽しむ 1 年の締めくくりとして施設及び施設周辺の掃除を行う	・餅つき 参加人数 50 名 (内訳：①12 名、②7 名、 ③25 名、④3 名、近所の子 3 名) ボランティア 3 名 ・大掃除 参加人数 8 名 金額：10,838 円
年越し会	12月 31 日	年末年始を寮内で過ごす世帯とともに料	参加人数 10 名 金額：2,000 円

		理を作り食卓を囲む	
節分会	2月7日	豆まき、手巻寿司での会食を楽しむ	参加人数 14名 金額：3,000円
ひなまつり会	3月6日	ひな祭りに因んだ食事で会食をし、美観地区散策(雛めぐり)を楽しむ	参加人数 7名 金額：6,800円

3. 利用者・職員状況

年間を通してみると、入所世帯数は昨年度よりも延べ15世帯多かった。世帯数が8人に達した月もあり、ここ数年では最多の世帯数となった。また、鶴心寮としては初めて、多人数世帯（6人）と妊娠した方の受入れを行った。これらの世帯に対応するための方法も確立したので、今後、同様のケースの受入れをスムーズに行うことができるを考えている。職員は異動により、2名が転入し、施設の役割や具体的な業務などについて、できるだけ早く理解を深めて手もらうことが必要であった。また、職員全体としては、相談支援などの専門性の向上を図ることが必要な状況であった。

	利用世帯数
年間延利用	72世帯

	職員数	
	配置基準	現 員
合計	96	92

4. 保護者（家族）との交流事業

施設の利用者が母子であるという特性から、家族を対象とした行事が多い。「母の日・子どもの日」、「節分会」、「ひなまつり会」等の主に職員が準備したものを楽しむものもあれば、「バーベキュー会」、「クリスマス会」、「年越し会」等の利用者と職員が一緒に準備をしたり作ったりすることによってできあがるまでの過程も楽しむ行事もある。このような行事の中で、親子、入所者同士、入所者と職員との親睦を深めること、傷ついた心の回復を図ること、利用者が自分の特技を発揮したり、内容についての意見を言ったり、興味を持って活動に参加したりすることにより、利用者の自己肯定感を高めたり、主体性を養ったりすることなどを目的として実施した。

5. 第三者評価に対する改善計画

鶴心寮のキャパシティを活かした創造的な事業展開については、2部屋を利用しての多人数（6名）世帯の受入れ、妊婦の受入れなどを行った。アセスメントと自立支援計画の充実では、アセスメントシートの様式を作成、自立支援計画の内容が具体的になるよう、様式の変更を行った。臨床心理士の配置（週2時間勤務）も行い、相談等を受けることができるようになった。権利擁護、DV被害者への対応、地域ニーズの掘り起しなどについての取組を強化していきたい。

6. 地域公益活動計画

(ア) 地域貢献活動の実施

- 地元町内の清掃活動の実施

年2回施設周辺の側溝及び道路の清掃を実施した。

(イ) 地域における子育て支援活動の実施

- 水島キッズへの参加 ⇒ (結果) 職員1名が参加した。
- 育メンひろばの開催 ⇒ (結果) 職員3名が参加した。

(ウ) 地域行事への参加

- 水島港まつり(和太鼓・夢kōi) ⇒ (結果) 職員1名が踊りに参加した。

(エ) 社会貢献活動への参加

- エコキャップ、ベルマークの収集 ⇒ (結果) 窓内にて収集活動を行った。

7. 事業所研修計画

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
個人情報について	4	森安、武智、大西、小野、窪田、西野、金本、森川	個人情報保護についての知識を学んだ
鶴心寮の支援の内容について	5	森安、武智、大西、小野、窪田、西野、金本、森川	鶴心寮の支援の内容について共通理解をした
保護者の支援について	7	森安、武智、大西、小野、窪田、西野、金本、森川	発達障害の子どもを育てる保護者の支援について学んだ
自立支援計画について	8	森安、武智、大西、小野、窪田、西野、金本、森川	自立支援計画の様式、活用法を学んだ
(事業所) 入所の流れについて	9	森安、武智、大西、小野、窪田、西野、金本、森川	日常業務(入所の流れ)について振り返り及び留意点の確認を行った
救命救急法について	10	森安、武智、大西、小野、窪田、西野、金本、森川	消防署の方を招いて、心配蘇生法・AED使用方法などについて学んだ
第三者評価について	2	森安、武智、大西、小野、窪田、西野、金本、森川	評価項目の内容の理解と自己評価

8. 防災・安全・衛生活動

毎月1回災害訓練を実施した。実施内容は、火災や地震、台風等の災害だけでなく、施設の特性に応じた不審者対応、防災への意識向上を目的とした消防署立会い訓練も取り入れた。建物及び設備については、消防用設備及び非常通報装置等の保守点検を定期的に実施し、防犯対策として警備員による19時半～2時までの巡回警備を毎日実施した。保健衛生では、入所者及び職員合同による普通救命講習(講師を消防署に依頼)を実施した。

研修については、職員全員が、救命救急法、感染症、不審者対応などについて学んだ。

9. 設備工事及び高額什器備品購入

特になし

10. その他特記事項

倉敷市による建物の耐震診断が実施された。結果、耐震基準を満たしていない部分が発見され、次年度、耐震のための工事を行う可能性がある。

11. 次年度の課題

今年度は、入所世帯数は昨年度よりも延べ15世帯多かった。世帯数が8人に達した月もあり、ここ数年では最多の世帯数となった。入所している各世帯が自立に向かうためには、それぞれ複数の課題があり、課題を解決するためには専門性の高い支援が必要とされる。しかし、今年度、新たに2名の職員が配置され、事業所全体としても、母子支援の経験の浅い職員が多く、昨年に引き続き、職員全員が施設に期待されているものや具体的な業務などについて、できるだけ早く理解を深め、相談支援、ソーシャルワークなどの専門性の向上を図ることが必要な状況であった。

そのような中で、人材育成、職員研修の重要性を認識し、外部研修では、より質の高いものを選び、参加することに努めた。先進施設の見学なども取り入れ、より、実際的な研修ができるようにした。

職員全員で取り組むことをモットーとし、職員全員で協議しながら、様々なことの判断をしていった1年間であった。今後も、このような姿勢を大切にした取り組みを行っていきたい。

次年度は、支援の質の向上を図ること、鶴心寮の存在、支援の内容などについて、地域の方々に知っていただくため、様々な場面での発信を行い、地域のニーズの掘り起こしを行うことに重点を置いて、寮内・外での取り組みを行っていきたい。

平成 27 年度事業報告書

【事業所名：児童家庭支援センター】 【事業所責任者：北條 直子】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

児童家庭支援センターの役割や機能について、より具体的に活動を進めた。機能や役割の具体化として、不登校児支援や里親支援、市町村の求めに応じる事業も積極的に実施した。

ネットワークの強化として、要対協への倉敷市4地区への参加、水島地区進行管理会議への参加、個別ケース検討会議の実施の増加を達成した。また、個別ケースで検討していた子どもの貧困についても、倉敷市のネットワークの中で協働で検討する機会を得、地域の子どもの資源として児童家庭支援センターの役割の認知が進んだ。

しかしながら、児童家庭支援センターが地域の社会的養護にある子どもたちの為の機関として十分に機能していくにはもっと具体的な活動の発展と蓄積が必要である。こうした視点から、今年度は岡山県での児童家庭支援センターの機能と役割を検討する会を実施し、岡山県にあつた児童家庭支援センターについて児童養護施設、市、児童相談所、等と意見交換を実施し、問題提起と今後の活動の具体化の足掛かりを認識した1年であった。

重点目標	子どもの主体性を育み支える子育て支援
目標（値）	施策及び結果
① 教育的内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴心寮との3ヶ月プログラムが完成したが協働での実施には至らず ・学習支援の充実として、学齢期の児童の学習支援の実施はしていないが、体験学習支援は実施をし一定の効果を生んだ
② 人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員、専門研修へ参加 ・外部研修、事業所内研修を計画的に実施 事業所内研修については、鶴心寮と合同で実施することをスタンダードとした ・倉敷児童相談所との連携会議（2ヶ月に1回）実施
重点目標	子育て力を高めるための保護者との協働
目標（値）	施策及び結果
① CSPプログラムの実施	初級講師の資格は取得したが、普及活動までには至らず個別指導のみにとどまった
② 不登校支援	個別支援及び、計画的な体験学習支援を実施

	今年度初めて、里親普及活動としての里親からの講義の場、クリスマス会への参加、里親会の研修の実施と、年3回、里親との協働の場を設け、里親に児童家庭支援センターを知って頂くことが出来た。顔の見える関係作りとなり、相談に1件繋がった。来年度以降も、里親支援の地域での拠点となれるよう里親とともに子どもを支える支援活動を実施していく土台が出来た。
④ 家族支援	家族支援として個別に実施
重点目標	地域と共に育む子育ての環境作り
目標（値）	施策及び結果
① 地域とのネットワーク作り	<p>○倉敷地区要対協への参加を今年度より4地区すべてに参加した 水島地区進行管理会議への参加（2回） 要対協の個別ケース会議へ53件参加</p> <p>○里親会とのネットワーク作り、行事の実施</p> <p>○岡山県での児童家庭支援センターの役割や機能を検討する会を開催 岡山県下の児童養護施設、児童相談所、倉敷市子ども相談センター、福祉事務所（家庭児童相談室）と上記テーマについて検討、及び現在のクムレの活動を報告。 今後の岡山における社会的養護にある子どもたちを地域で育て、支える地域づくりについて検討し、その中で児童家庭支援センターが果たす役割と、普及啓発を検討した。</p>
② 地域へ出向く活動	出張相談 水島児童館、児島児童館 各月1回実施 CSPは実施に至らず
③ 事業所間連携の強化	鶴心寮との連携として <ul style="list-style-type: none"> ・連携会議 月1回 ・合同の事業所内研修 月1回 ・鶴心寮親の会への参加 月1回 ・出張相談の実施（相談は〇） ・鶴心寮職員が児童家庭支援センターへ研修を兼ねた体験とケースの協働検討 きらりにおける保護者勉強会 2回／年 実施
④ 地域貢献活動	オレンジリボンキャンペーン実施 11月（3か所）

⑤ 地域における子育て支援活動の充実	育メン広場への参加
--------------------	-----------

⑥ 中期経営計画に対する今年度の取組み

要保護児童対策地域協議会のネットワーク強化

倉敷市生活困窮者自立支援連携推進会議への参加

児童家庭支援センターとしての機能や役割の発揮、多機関と協働し1つの家庭を支える体制に参加した。

幼少期からのネグレクトは予後の不登校、ひきこもり、貧困と連鎖していく課題があり、こうした視点での問題意識を持ったソーシャルワークの展開が求められていることを多くの関係機関と共有し、連動したケースワークに繋がり始めた1年であった。

目標（値）	施策及び結果
関係機関や地域資源との顔の見える 関係作り	要保護児童地域対策協議会への参加 4地区すべてへの参加 水島地区進行管理会議への参加
生活困窮者支援に取り組む	倉敷市生活自立相談センターとの繋がりと協働 ・倉敷市生活困窮者自立支援連携推進会議に参加し、生活困窮状態にある子育て世帯の支援におけるネットワークに参加し、子どもの貧困について検討した ネットワークの中で児童家庭支援センターの活動と存在の認知につながり、 ・倉敷市生活自立相談センターとケースを協働(2件) ・倉敷市生活困窮者自立支援調整会議への出席に至った。
職員間コミュニケーションの推進	特に活動できなかった

2. 行事報告

居場所を失った不登校児の支援については、貧困とも密接な問題があり、社会とのつながりの中間的な場として児童家庭支援センターでの行事への参加を促し、効果が出ている。

行事名	実施月	内容	結果
里親さんとの交流会	8月 12月 2月	里親普及活動 里親出前講座 クリスマス会参加 里親会研修会	里親とは、を知る、里親里子との交流ができ、1件相談に繋がっている
不登校児対象 体験学習支援	5.6.10.12.1.3 (計9回)	潮干狩り、釣り、クラフト、クッキング、すごろく、スイーツ作り	不登校や不登校のまま義務教育を終え、居場所を失った子供たちへの体験学習と社会とのつながりの場、居場所として機能した。子どもたち同士の繋がりもでき、友人が出来た子どもたちもいた。こ

			これまで訪問のみで接点のあった子が、来所できるようになった。
オレンジリボンキャンペーン	11月	倉敷市子ども相談センターとともに啓発活動に参加	倉敷地区、水島地区、児島地区にて風船、ティッシュ配布

3. 利用者・職員状況

昨年度より利用実人数は24名増加した。今年度の特徴として、訪問が増加している。細やかなで継続的なアウトリーチのケースが増えている。こうした困難なケースにおいては、倉敷市子ども相談センターをはじめとして、他機関から相談依頼があり、協働し対応するケースが増えており、ケースを通してネットワークが構築に至っている。

	電話相談 件数	来所件数	訪問件数	児童相談所 委託件数	ケース会議 件数	心理療法 ・検査件数
利用者 延べ人数	932名	866名	726名	163名	55件	148名
一日平均	3名	3名	2名	1名	0	1名
稼働日数			291日			

	職員数	
	配置基準	現 員
合計	4	4

4. 保護者（家族）との交流事業

里親会との交流（年3回）

5. 第三者評価に対する改善計画

受審 2月

6. 地域公益活動計画

なし

7. 事業所研修計画

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
個人情報と守秘義務、プライバシー、クレーム対応について	4	全員	それぞれの違いや義務、リスクについて学んだ

家族療法；虐待・非行問題への家族支援	5	全員	家族療法について学んだ
児童家庭支援センターとは	6	全員	新入職員を交え原点回帰と今後について検討した
子どもの虹研修報告	7	全員	実務者研修報告を受け、実際のケースワークについて検討した
里親を知る 里親出前講座	8	全員	里親さんの実際の体験や思いを聞き、里親を知った
中国四国児童家庭支援センターワークショップ報告	9	全員	事例検討の報告
全国児童家庭支援センター協議会報告	11	全員	全国での児童家庭支援センターの今後について情報共有をした
岡山県での児童家庭支援センターの機能と役割を検討	12	全員	外部講師を招き岡山県に求められる児童家庭支援センターを検討した
子どもの権利擁護研修報告	1	全員	子どもたちの権利擁護についての学び
トワイライトホーム見学報告	2	全員	子どもの貧困と身近な資源についての検討をした

8. 防災・安全・衛生活動

防災：児童発達支援センタークムレと合同で実施（3回）

安全：施設内外の安全点検

車両の安全管理

衛生：環境衛生（害虫駆除、樹木の消毒）の実施

施設内環境整備、玩具の消毒実施

感染予防

9. 設備工事及び高額什器備品購入

なし

10.その他特記事項

市町村の求めに応ずる事業として

- ・さわやかデーボランティア研修会 講師（参加人数 20人）
 - 不登校児や発達障害のある児の関わり方について、学生ボランティア向けの講義とグループワーク
- ・岡山市家庭児童相談室研修 発表（参加人数 35人）
 - 事例を通して、地域での児童家庭支援センターの活動を発表

- ・倉敷地区家庭児童相談室連絡会 発表（参加人数 50人）
事例を通して、地域での児童家庭支援センターの活動を発表

11.次年度の課題

第三者評価の受審の結果より

- ・よりケースワークの質を高めるための活動の強化
(アセスメント、SV、職員個別育成) の体系化と実践
- ・専門的な知識と技術の明確化
- ・クムレの中での一体的な支援の検討と具体化 (鶴心寮、にじいろとのチームプレー)

発達支援事業グループ

平成 27 年度事業報告書

【事業所名：児童発達支援センター 倉敷学園】【事業所責任者：安 知子】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

重点目標、「子供の豊かな発達支援」では、“子どもの権利を尊重する支援”及び“乳幼児期から成人期を見通した自立支援”を行うため、権利擁護や虐待について勉強会で共通理解を図りクラスで目標を立てて取り組んだ。
次に、「家族の子育て力の強化支援」については、親をはじめとした養育者に対する特性理解に基づく子どもの個性・強みを生かす育児の方法を伝授する必要がある。そのためアセスメントシートを活用し、広い視野を持ってアセスメントに取り組んだ。

重点目標	子どもの豊かな発達を支援する。
目標（値）	施策及び結果
人材育成	<p>1、 法人階層別研修 冠婚葬祭で欠席した職員も居たが、予定通り研修に出席している。生涯を通じた自らの職業人生に目を向ける研修である為、実践現場において早急に結果が現れにくい。しかし、近年において退職者が少ない年となった。</p> <p>2、 専門研修 支援職員は、予定通り参加している。入職後、早い時期に障がい特性等、支援に活かせる研修を実施した。研修で学ぶことで安心できる部分はあるようだが、新卒者は自信を持って業務するには時間をする。</p> <p>3、 事業所研修 毎月、「支援や権利、家庭」などテーマを決め、児童発達支援管理責任者及び専門職で実施している。</p> <p>4、 第三者評価受信後の改善実施 組織マネジメント 「組織とサービスのマネジメントを分担する事で実行管理体制の強化を図る。」 管理者（倉敷学園園長）が、倉敷学園の組織運営や部門の統括を行っている。児童発達支援センター倉敷学園だけではなく、拠点単位で法人内の児童発達支援事業所（きらり）の組織運営、発達事業グループ全体を統括している。 児童発達支援管理責任者（主任）が、倉敷学園のサービス管理を担当している。</p>

	<p>「より質の高いサービス提供のために組織の意思決定のプロセスにクラス会議を明確に位置づける。」</p> <p>担任全員が出席し、支援方針の意識統一を図るクラス会議を毎月実施している。年2回、児童発達支援管理責任者や専門職(ST、OT、CPなど)も同席し、通所支援計画の立案を行っている。</p> <p>昨年度より、常勤職員対象ではあるが、毎月1回 職員会議と事業所研修を行っている。</p> <p>サービス分析</p> <p>「個人の尊厳の尊重に関する取り組みの提案」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 支援の現場で必要な個人情報の取り扱いについて 毎年、新年度には個人情報の取扱について説明し書面で同意を頂いている。 ② 虐待防止の取り組みについて 全職員対象に、年2回管理者が講師となり虐待防止や人権擁護の勉強会を行う。職員間でも実践の場で意識向上させるよう、互いの行動を振り返る機会を設けている。 <p>「業務標準を目的とする業務点検手段として公開療育を活用する」</p> <p>方法は異なるが、拠点単位で管理者が集い会議を行い業務点検や課題解決を行う機会を設けている。</p> <p>「アセスメントの視点を広げ、支援の充実を図る」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 多角的視点でアセスメントし、ニーズや支援課題の抽出をする。アセスメントシートを作成し(H26年度)アセスメントを行った(H27年度)シートの見直しや勉強会を実施した(H27年度)。家庭支援の充実のため、園児の家庭の様子を把握し、必要に応じて臨時に懇談や家庭訪問を実施。ペアレントメンターを呼び茶話会を行った。 ② アセスメント項目の拡大をする 上記に記載。 <p>「関係機関との連携支援を支援姿勢として明確化し、実践する」</p> <p>園長を中心として、地域の幼稚園との関係作りを行っている。倉敷市子ども相談センターと保健所、障がい福祉課などの関わりも多い。小学校や支援学校も同様。</p> <p>発達障がい児支援を専門とする職員へ提案</p> <ul style="list-style-type: none"> (ア) コミュニケーション支援に加え、家庭支援と地域支援にも比重を置く (イ) 職員が現場支援において喜びを実感できるようなスーパーバイズを行う (ウ) 家庭支援に視点を強化する 法人の方針と重なっており、発達支援グループにおいて大
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	切にしたい支援の考え方（価値観）「地域で育む 子どもと子育て」や、重点方針「子どもの豊かな発達支援・家族の子育て力の強化支援・生涯生活できる地域環境づくり」のもと事業計画を立案している。
子どもの権利擁護	専門研修や事業所研修において、子どもの人権擁護について学びを深め、共通理解を図った。現場の支援においては、「クラス単位で虐待と思われる恐れのある支援」を挙げ、改善策を立案し実施できているか、期間を決めて点検を行った。
専門性の開拓と多職種協働による包括的な支援	<p>言語聴覚士、作業療法士については、倉学の園児への特別支援にとどまらず、グループ内の利用児に対する評価も実施している。言語聴覚士においては、自立支援グループにおいて、成人の利用者さんの嚥下評価を行ったり、医療機関を交えた会議に同席したりした。</p> <p>毎月、管理栄養士、言語聴覚士を交え、担任と個々の園児の摂食状況を確認した。また自立支援グループのコトノハについても、毎月実施する給食会議で摂食状況などの情報を共有した。</p> <p>倉学の園児の通所支援計画を立案するための、サービス担当者会議を年に2回実施。児童発達支援管理責任者を中心に、担任、言語聴覚士、作業療法士とともに、個々の発達を評価し取り組むべき課題を明確にした。</p>
重点目標	家族の子育て力の強化支援
目標（値）	施策及び結果
保護者とのコミュニケーションによる協働関係の構築	<p>1、 ペアレントトレーニングの実施 きらり倉敷、中庄、児島の職員と保護者、倉学の保護者と職員で、前期に5回を1セットとして、実施した。倉学からは、6名の保護者と1名の職員が取り組んだ。</p> <p>2、 保護者勉強会の開催 4月児童発達支援センター 倉敷学園の支援の説明 6月就学と作業療法士勉強会 卒園児保護者交流会 7月兄弟児について 8月サポートブック、課外活動 11月ペアトレ（作業療法士による） 12月感覚について（作業療法士による） 2月茶話会</p> <p>3、 親子療育・倉学カフェの実施 親子療育：6 クラス年に7回 実施 倉学カフェ：4月（44名参加）と8月（54名参加）実施</p> <p>4、 個別懇談の実施</p>

	<p>全園児対象に、年3回実施した。</p> <p>5、情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒園児保護者を招き、就学後の様子や生活を在園保護者へ伝えた。 ・他事業所の相談員を交え、配慮の必要な家庭のフォローを実施。 ・コミュニケーションオートを用いて、普段では聞き取れない倉学活動の目的や意見、要望を把握。
家庭訪問（個別支援）	<p>年度初め4月に、全園児の家庭訪問を行った。</p> <p>困り感をもつ保護者への関り方を支援する目的で、家庭での困難課題を聞き取り、要望に応じて家庭訪問を行い実施可能な支援方法を伝達した。</p>
きょうだい児支援	<p>8月1日（土）兄弟児カフェ。園児は、クラスで療育実施。兄弟児は、昼に子供たちも食べられるメニューを選び、保護者と共に兄弟児も給食を食べた。その後、倉学において園児が実施している課題の楽しさや、ねらいに关心を持ってもらうため、エアトラを保護者と実施。保護者を独占できる喜びと遊びの楽しさで、2時間ほど飽きることなく遊んでいた。</p> <p>10月10日（土）、早島の公園を集合場所にして、実施。6家族15名が参加。公園遊び後、持参したお弁当を食べ、倉学に戻りコトノハのラウンジでエアトラ実施。おやつは、コトノハの食堂でカップケーキ作りを行った。兄弟児同士、子どもらしく触れ合いながら遊ぶ姿があった。</p> <p>1月30日（土）兄弟児カフェとして参加募集、10名程度の参加であったが、運動遊具のあるホールを貸しきり、いつもは我慢している遊具遊びを満喫した。またクッキングを行い、兄弟児同士、また保護者同士でお話しながら食べる時間を設けた。</p>
重点目標	機関連携とアウトリーチ
目標（値）	施策及び結果
所属機関訪問支援	平成27年度に就学した園児については、就学先の地域の小学校や支援学校に、保幼小連絡会などの機会を用いて訪問した。平成28年度就学や就園する園児の小学校や幼稚園とは、事前に状況の引継ぎを行い、地域の中庄幼稚園については、園長や担任が訪問し関係の構築を行った。
健診保育への参加	健診は、倉敷市の3歳半の健診保育と1歳半の健診保育に計画通り参加した。
実習生・ボランティアの受け入れ	<p>実習生は、保育士、社会福祉士課程の学生を計画通り受け入れた。（県立大学、川崎医療福祉大学、中国学園大学、就実大学、清心女子大学、吉備国際大学など）</p> <p>吉備国際大学からは、作業療法士課程の学生の受け入れも行っている。</p>

障害児相談支援事業	障害児相談支援事業の制度に沿った相談員の育成は行っていない。しかし児童発達支援センターの役割として、基本相談に応じられるよう今年度も地域の保護者からの相談に、電話対応や來所対応に応じた。
栗坂地区交流スペースの活用（栗の家）	栗の家については、P.T.に保護者と共に参加しながら建物の建築遂行や事業内容の煮詰めを行った。地域の住民の方だけではなく、川崎医療福祉大学の先生や学生さんも巻き込み、企画計画をおこなった。
倉敷学園の集い	地域の方や保護者と共に農業活動に参加、田植え、稻刈り、お飾り作り、とんど祭りに園児と職員で参加している。 倉学の集いについては、コトノハの協働し「クラ☆コト」と名称を変更し11月1日（日）に実施した。

① 中期経営計画に対する今年度の取組み

相談からサービスまでの切れ目のない利用者支援の実現のため、アセスメントシートを用いて、アセスメントからモニタリングまでの様式の統一化を図り、通所支援計画に基づく支援を実施した。障がい特性のために生活のしづらさを感じている個々の子どもたちの生活しにくい環境の改善を図る視点でアセスメントし支援計画に基づいた支援の実施に努めた。

目標（値）	施策及び結果
支援計画に基づく支援の実施	倉敷学園において使用するアセスメントシートを明確にして、アセスメントから通所支援計画までの様式の統一化を図った。 運用できるように事業所内で勉強会を開催した。また使用後に職員意見を反映させて、シートを見直し、改善したシートを活用して後期のアセスメントを実施した。 今後は、アセスメントの力を高め、支援に活かすため、園児の発達についてのアセスメントにとどまらず、家庭や地域に視野を広げられるような意識改革が大切である。
権利擁護を実践できる職員育成	専門研修や事業所研修において、子どもの人権擁護について学びを深め、共通理解を図った。現場の支援においては、「クラス単位で虐待と思われる恐れのある支援」を挙げ、改善策を立案し実施できているか、期間を決めて点検を行った。 今後も習慣的に人権に配慮した支援を実施できる予に、普段から互いの改善点を指摘できるな場を設ける。

2. 行事報告

例年実施している行事（入園式、保護者勉強会、家庭訪問、個別懇談、親子療育、ペアトレ、

就学勉強会、テラスプール、年長児課外活動、運動参観日、クラス発表会、クリスマス会、説明会、卒園式)は、継続して実施した。

親子遠足に関しては、2 クラスごとのグループに別れ、行き先や実施時期を検討し実施した。動物園やおもちゃ王国、新幹線の乗車等、園児の興味関心や保護者の意向を取り入れている。

行事名	実施月	内容	結果
入園式 在園児 新年度説明会	4月4日(土)	入園式と説明会	新年度の説明を行い保護者との共通理解を図った。園児 65 名の保護者が参加。
保護者勉強会	4月25日(土)	倉敷学園の支援について	保護者へ倉敷学園の支援内容を説明。44 名の保護者が参加。
	8月1日(土)	年長児課外活動の説明及びサポートブックについて	年長児課外活動の説明に加え、サポートブック作成について説明を行った。49名参加。
	7月11月12月	作業療法士による勉強会	兄弟児について、感覚について、ペアトレについての勉強会を実施した。どの日も 30 名程度の保護者が参加された。
	2月2日と19日	茶話会	ペアレントメンターさんを招き、茶話会を実施した。2 日間で 22 名が参加。
家庭訪問	4/27・28・30・ 5/1・7 随時	担任や専門職が園児宅を訪問	担任が園児宅を訪問し地域でその子らしく自立した生活が出来るよう生活状況・環境面での把握。関りかたを支援した。
個別懇談	5/23・26、 10/17・20、 2/20・23	保護者の思いを傾聴 個別支援計画について保護者へ説明する	通所支援計画について説明し同意を頂いた。支援内容を説明し、園児の成長を保護者と確認した。
親子療育	クラスごとに 6 月 7 月 9 月 10 月 1 月 3 月に実施	遊び・制作・調理活動・外出等のプログラムに親子で参加	園での活動を通して子どもの成長を共有し、互いに楽しく関わる方法を経験していただいた。
ペアレント・トレーニング	5月20日～7月 15日まで隔週水曜日 5回実施	希望する保護者に対して、子育て方法と一緒に考えていき子育て力の強化を図る	親の困り感に寄り添い、保護者が子どもとのより良い関わり方を考え育児力を強化した。6 名の保護者が参加。
就学に関する勉強会	6月4日(倉敷市) 8月31日(岡山市)	教育委員会の教員を講師に招く	切れ目のない支援のため に、就学について保護者が情報を得る場を提供した。
テラスプール	6月～9月	テラスでのプール遊び	園児が水を使用して身体の使い方を学んだり、感覚を育んだり、季節を感じ楽しんだりした。

年長児課外活動	8月28日	年長児のみ 13時から 17時まで倉学以外の場も含めた活動に取り組む	年長児が保護者と離れ倉学以外で活動する場を提供し、必要な支援を保護者と考え、就学に向け準備を行った。
運動参観日	9月26日	両親・祖父母・兄弟児に日頃の成長を参観してもらう	午前3クラス、午後3クラス実施。園児一人ひとりにあった運動課題を設定し、身体を動かすことで楽しみや充実感を味わう場となった。
クラス発表会	12月5日	クラス単位で参観日(発表会)を行う	午前3クラス、午後3クラスをさらに前半と後半で分けて実施。倉学の支援によって園児が成長した姿を保護者と共有した。
クリスマス会	12月25日	クリスマス楽曲や劇、プレゼントや給食を実施する	園児が季節の行事「クリスマス」を楽しんだ。
在園児・新入園児説明会	3月5日	新年度の支援の方向性について保護者に説明をする	センター利用にあたり、支援方針・方法・運営規定等保護者に伝達し共通理解を図る。児の様子を観察しスムーズに入園できるように説明を行った。
卒園式	平成28年3月29日	卒園児対象の卒園式	卒園する園児を送り出した。式の前後の期間に、就学前や就園先に引継ぎを行っている。

3. 利用者・職員状況

	児童発達支援	日中一時支援
利 用 者 定 員	50名	10
利 用 者 延 数	15,050名	2,091名
一日平均利用者数	59.4名	8.8名
稼 働 率 (%)	119.0%	88%
開 所 日 数	253日	238日

月	職員数	
	配置 基準	現 員
合計	19	35

4. 保護者（家族）との交流事業

事業報告や行事報告の欄に記載

5. 第三者評価に対する改善計画

事業報告や中期経営計画に対する実践報告欄に記載

6. 地域公益活動計画

児童発達支援センターが担う基本相談を2件対応。地域の大学からの実習生やボランティアを受け入れた。

7. 事業所研修計画

事業所単位で研修を実施することにより、事業所の職員が疑問に感じていることに対応に困っていることを、タイムリーに取り上げ、伝え周知し学ぶことが出来る。

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
支援について情報の共有	4月	安、篠原、内田博、國吉、花岡、矢野、内田真、肥塚、西道、伊藤、近藤、友實、塩田、小林、額田、竹本、高下、永山、辻、須田	新年度が始まりクラス間での調整が出来ていない部分が明らかになり、調整を行うことができた。
支援について意見を伝える	5月	篠原、内田博、國吉、花岡、赤木、肥塚、西道、伊藤、近藤、友實、塩田、小林、額田、永山、辻、須田、山下	保幼小連絡会で、小学校を訪問し得た就学に必要なスキルについて意見を交換し、倉学で統一し就学に向けた支援を始めた。
KYT危険予知訓練	8月	安、篠原、内田博、國吉、花岡、矢野、内田真、肥塚、西道、伊藤、近藤、友實、塩田、小林、額田、高下、永山、辻、須田、山下、泊	危険予知訓練4ランド法を学びあつた。
ヒヤリはっとの改善について	11月	篠原、内田博、國吉、花岡、赤木、西道、近藤、友實、丹原、額田、高下、永山、辻、須田	1クラスのヒヤリを取り上げ、改善するために必要な手立てについて共通理解を図れた。
アセスメントシートについて	12月	篠原、赤木、内田ま、西道、肥塚、近藤、友實、丹原、塩田、小林、額田、高下、永山、須田、花岡、山下	ジェノグラムとエコマップの書き方について学んだ。
権利について	1月	安、篠原、赤木、内田真、西道、伊藤、近藤、友實、塩田、小林、額田、高下、永山、辻、須田、山下、内田ひ、國吉	クラス単位で、施錠が必要か不要か考えを出し合い、施錠不要なクラスは他の方法で安全を確保する実践を始めた。

実践発表の発表練習	2月	篠原、赤木、内田真、西道、伊藤、近藤、友實、塙田、額田、高下、永山、辻、須田、山下、内田ひ、國吉、肥塙	発表に付け加えるべき点や、改善すべき点に気づき改善できた。
感覚について	3月	赤木、内田真、西道、伊藤、近藤、友實、塙田、小林、額田、高下、永山、辻、山下、内田ひ、肥塙	自分自身の感覚の特異性に気づきつつも、子どもの感覚について学ぶことが出来た。

8. 防災・安全・衛生活動

災害・防災、消火訓練は、園児を含め毎月実施した。衛生に関しては、感染症予防のために毎月点検をおこなった。同様に安全点検も実施した。

9. 設備工事及び高額什器備品購入

特に無し

10.その他特記事項

特に無し

11.次年度の課題

発達支援に留まらず、家族支援、地域支援を実施する。児童発達支援センターとして基本相談の窓口を設ける。アセスメントから支援計画の立案、支援の実施を一体的に捉えて実践する。

平成 27 年度事業報告書

【事業所名：児童発達支援センタークムレ】 【事業所責任者：内田富美江】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

平成 27 年度は、児童発達支援センター本来の役割を果たすことを最重要課題として掲げた。そのため、発達障がい児支援における専門性を発揮できる体制にした。とくに家族の子育て力強化に重点をおいて取り組んだ。

子どもの発達支援においては、利用児本位の支援を行うため多職種チームによる包括的支援の仕組みを確立し、人権擁護に立脚した職員育成のため人権と倫理教育を充実させた。

家族の子育て力強化においては、家庭訪問や座談会、保護者会活動を充実させ家族ニーズの表出を促し、保護者自らがその課題解決の主体になるよう支援した。

地域支援においては、園訪問や機関間連携、子育て支援機関等と連携し地域で障がい児を育てる保護者への研修の開催等、住民への啓蒙活動を行った。

以下、発達グループの3つの重点目標に沿って報告する。

重点目標	子どもの発達支援
目標（値）	施策及び結果
人財育成	<ul style="list-style-type: none">・事業所内研修を4領域にわけ（尊厳尊重、家族理解、法令理解、自己実現）月1回実施。新人研修は別途2回追加、嘱託B職員は5回別途設定した。講師は施設長、SMに加えcapも担った。出張研修後の伝達講習を義務付け学びの共有化を図った。・ケース会議を月1回開催し困難ケースへの支援者チームとして支援の一体的化を図った。その結果、利用者本位の支援、チームとして支援、職業倫理や子どもの人権への意識が芽生えてきた。
権利擁護	事業所内研修、専門研修、外部研修に積極的に職員を派遣し、意識改革を図り「鍵をしない療育」を実現した。数か月に亘り議論、方策を職員自ら見出し結果をまとめ発表した。安全・管理と権利侵害は紙一重であることを職員自らが学習し、鍵をしない安全な生活の場を保障できた意義は大きい。
専門性の開拓	作業療法士が本来業務を執行できる体制を整備した。作業療法士は特別支援を実施、職能団体の勉強会参加を奨励した結果、利用者ニーズに応える専門的支援が可能となり高い評価を得た。心理士は親子通園の座談会等で悩みを表出できる風土をつくった結果、親同士の仲間意識が強化し、親の孤立感防止に役立った。
多職種協働による包括的支援	利用者本位の支援をするため、多職種で検討する仕組みを明確化した結果、サビ管中心にアセスメントからプラン作成、支援、モニタリングに至る全過程で包括的支援がてきた。

重点目標	家庭支援
目標（値）	施策及び結果
保護者会活動の充実	保護者会役員のエンパワメント支援を実施、悩み・怒り・要望が表出された。これらを救い上げ実現すべく支援した。その結果、キッズサークル、親のリフレッシュ活動など保護者会の自主企画・運営を実現、保護者同士活発な交流が始まり、地域の会合で意見を述べる保護者も現れた。
保護者との協働関係構築	・座談会に「子どもの特性に合う玩具づくり」など家庭に活かせるテーマを取り入れた勉強会・製作を行った結果、保護者間の絆が強化され、子育てや家庭へのよい影響があった。 ・夏祭りは保護者の要望を実現すべく急遽共同企画・実現した。共に汗を流した結果、職員との関係及び保護者の連帯感も深まり、卒園児の親が地域に居場所を誕生させるに至った。
家庭訪問	プランにあげ保護者の同意を得て実施。子育て上の困り感を共有し、家庭生活の場で具体的課題解決を図る体制ができた。毎週訪問を希望する家庭もあり、家庭訪問が当たり前になってきた。
きょうだい児支援	遊びの場、親に話しにくい悩みを語る場を提供した。
重点目標	地域支援
目標（値）	施策及び結果
機関連携 アウトリーチ	地域生活継続のため園との連携を強化した。引き継ぎ書だけでなく直接園を訪問、子どもの姿を伝えた。検診保育は後継者を育成したがすぐ教室は未着手に終わった。虐待ケースへの機関連携と役割分担は、クムレから積極的に提案した。職員が利用者支援のためには社会資源の有効活用が重要である事を学んだ。
住民の理解・啓発活動	借り農園（畑）やワンデーマーチ、公園散歩の機会に近隣住民・子ども・親・職員が交流。水島会館とコラボし「子育て応援講座」を地域住民向けに実施（講師職員3名派遣）した。
実習生	社会福祉士、保育士、介護福祉士養成校の実習あり1名就職した。
ひろば にじいろ	嘱託B職員1名出向し、情報共有と連携を図った。発達障がい児をもつ親にひろばをどう活用して貰うか課題が残った。

②中期経営計画に対する今年度の取組み

発達支援の根幹は、利用者尊重の支援を実現することである。残念ながら26年度はできていなかったため、①子どもの権利擁護の内容を理解し支援に結び付けられる職員の育成、②利用者本位の支援を実施するため、ICFに基づいた支援を実施する方向へ意識改革と実践体制の構築を図った。その結果、アセスメントでは、家族・地域状況・児の生活状況を幅広く把握、サビ管、クラスキャップ、支援員、専門職で構成するアセスメント会議で支援課題を検討、プラン作成（必要時修正）、利用者中心の支援が可能になってきた。

目標（値）	施策及び結果
権利擁護を実践できる職員育成	事業所内研修、専門研修、外部研修で徹底。さらに、「鍵をしない療育」の実現に向け、数か月に亘り議論、方策を職員自ら見出した。安全・管理と権利侵害は紙一重であることを職員が学習し、鍵をしない生活の場を保障した意味は大きい。
様式にしたがいアセスメント・計画に基づく支援の実施	児の状況・家族・地域状況を幅広く把握、サビ管を中心に専門職など多職種で構成するアセスメント会議で支援課題を検討、プラン作成。結果、利用者中心の支援が可能となり、支援全過程で包括的支援が可能になった。
地域住民への啓発活動	水島会館にて「子育て応援講座」の実施。

2. 行事報告

昨年度実施した行事に加え、夏祭り、ワンデーマーチ、秋祭りを加えた。いずれも保護者会との話し合いを重ね、ボランティアの参加も呼びかけた。その結果、子どもに多様な体験の場を提供でき、保護者の満足度も高かった。

行事名	実施月	内容	結果
入園式	4月	新入園児の紹介・祝福	
在園児新年度説明会	4月	新年度事業運営説明	理念・方針・目標。計画・苦情解決等
家庭訪問	4月	支援課題の共有	家庭、園児、家族の支援課題把握し支援計画に反映
夏祭り	7月	夏のお祭りを楽しむ	家族・住民、ボランティアと楽しむ
年長児課外活動	8月	就学前のプログラム	保護者と離れセンター外で活動する場を経験する
ワンデーマーチ	10月	地域にある公園まで親子・職員と歩き、楽しむ	子ども：地域で心身を解放、体力を発揮、家族同士の交流
秋祭り	10月		水島拠点と合流
クラス発表会	11月	支援の成果を発表	成長した子の姿を共有、意欲の喚起
クリスマス会	12月	Xmasを楽しむ	楽器、歌、プレゼント・会食などボランティア・職員と楽しむ
在園児・新入園児説明会	3月	保護者へ次年度支援説明	事前説明、支援の方向を共有、保護者の意見を運営に活かす
個別懇談	3月	個別支援計画説明・同意	支援課題について共有
卒園式	3月	卒園児の門出を祝福	

3. 利用者・職員状況

単独通園は、虚弱体質の子数名が体調不良のため欠席が多く、家庭訪問により改善を図ったが、年間を通して継続登園できる状態になっていない。親子通園は、見学者自体が平成26年度よりも減少したためである。その原因としては、主たる紹介先であるゆめぱる、保健所からの紹介が減少したこと、地域の障がい児を抱える保護者のニーズ把握が不十分、すくすく教室後のフォローアップ体制の不明確さなどがあげられた。改善策としては、①利用児・保護者ニーズの把握、②保健所主催のすくすく教室・1歳半健診後のフォローアップ体制の明確化、③親子無料体験コースの導入、④ひろばにじいろとの連携強化、関係機関へのPRの強化などである。

	児童発達支援	日中一時支援
利 用 者 定 員	48名	一
利 用 者 延 数	12,199名	908名
一日平均利用者数	47.8名	3.9名
稼 働 率 (%)	100%	39%
開 所 日 数	255日	231日

単独通園：定員32人

月	職員数	
	配置 基準	現 員
合計	8	12

親子通園：定員16人

月	職員数	
	配置 基準	現 員
合計	3	8

4. 保護者（家族）との交流事業

- 夏祭りは保護者と共同企画・実現した。

5. 第三者評価に対する改善計画

第三者評価は平成28年3月1日～2日に受審、結果報告を受けていないため省略する。

6. 地域公益活動計画

ひろばにじいろへ1名出向し、発達障がい児とその保護者への相談支援を行ない、また、保健師と連携し地域の発達障がい児4ケースを継続支援した。地域啓蒙活動としては、水島会館主催「子育て応援講座」に職員3名派遣した。

7. 事業所研修計画

(1). 事業所研修について

() 内は参加者数

研修項目	月	参加者	結果
利用者の権利擁護・虐待防止 (専門研修と兼ねて)	4月1日	全職員	講師：内田（32名+きらり職員）
OJT、マナー研修 発達検査（遠城寺・キッズ）	4月16日	新採用者	講師：原田（新採用3名）、職業人に相応しいマナーを再確認。
自閉症スペクトラムの理解	5月7日	全員	講師：北村（32名）、内容が深まった。
自閉症スペクトラムの特性	5月14日	正規・PA	講師：味木（14名）、わかりやすい内容で多々質疑応答。
大田ステージについて	6月3日	新採用者	講師：原田（3名）
職員のストレス対処法の理解	6月11日	正規・PA	講師：長江（13名）、自分のストレス状態の把握、解消法も学んだ。
児童発達支援センターに求められることと職員の役割の理解	7月9日	全職員	講師：北村・原田（14名）、提案事項、実践の振り返りからセンター職員としての意識は昨年よりも上った。
自閉症スペクトラム児への支援者としての関わり方(1)	8月6日	正職・PA	講師：羽根岡（18名）
保護者の理解・支援者としての関わり方(2)	9月10日	全職員	講師：北村（21名）
自閉症スペクトラム児への支援者としての関わり方(3)	10月8日	正職・PA	講師：川上（13名）、カルタを使い特性理解、保護者にも伝え易い内容。
感覚統合が自閉症スペクトラム児にもたらす効果	11月2日	正職・PA	講師：河村（18名）
ハラスメント防止勉強会	11月6日	全員	講師：内田（32名）、小さな言動への配慮が重要と理解。
職員のストレス対処法の理解と自己実現支援	12月10日	正職・PA	講師：長江（16名）
福祉に従事する者の職業倫理	1月14日	全員	講師：内田（32名）、支援上のプライバシー保護、守秘義務についてワーク。
特性から子どもの行動を考える(4)	2月4日	正職・PA	講師：原田（15名）
センターの役割、次年度計画	3月18日	全員	講師：内田（32名）認識統一した。

8. 防災・安全・衛生活動

毎月、非常時を想定した訓練に近づけるべく振り返り、課題を整理し次月の訓練に盛り込んだ。火災発生警報・放送から第一次避難場所まで避難誘導手順は、職員、子どもとも習得、短時間で避難できた。ただ、予告なく訓練を行うと非常ベルを鳴らす、放送（出火場所通報・避難呼びかけ）、初期消火など初動に戸惑う職員もいた。隣接する自家セン職員

が防火管理責任者、防災計画作成者はセンター職員など計画・実行上の不整合もあり、整理の必要があると考えられる。

・災害・防犯訓練の実施状況（平成27年度防災訓練年間実施表）

月 日	訓練内容	時間	出火場所	活動のねらい	備考
4月27日(月)	火災	11:00	厨房	職員:安全に避難誘導を行う。園児:訓練の雰囲気に慣れる。	
5月27日(火)	火災	11:00	厨房	職員:安全に避難誘導を行う。 園児:訓練の雰囲気に慣れる。	(5/13) 不審者訓練
6月25日(木)	火災	11:00	2階	職員:出火場所・避難経路に従い避難する。 園児:訓練の雰囲気に慣れる。	
7月27日(月)	地震・火災	11:00	児家セン	職員:地震に沿った対応を行う。園児地震の訓練を経験する。	
8月27日(木)	火災 二次避難	予告 なし	厨房	職員:実施時間を把握していない状況で訓練する。 園児:手やハンカチで口元を押さえ避難。	不審者訓練 (8/13)
9月24日(木)	火災	11:00	親子棟	職員:二次避難の流れを理解して取り組む。 園児:職員の指示に応じて行動する。	
10月19日(月)	地震 火災	予告 なし	厨房	職員:実施時間を把握していない状況で訓練する。 園児:職員の指示に応じて行動する。	
11月27日(金)	火災	10:00 ~	厨房	職員:避難・見回りを素早く行う。 園児:消防士の話を聞く。消防車体験	消防署立会
12月17日(木)	火災	予 告 な し	1階廊下	職員:各自が役割遂行、素早く行動する。 園児:手やハンカチで口元を抑えて避難。	立て札(火事)使用
1月19日(火)	火災		1階廊下	同上	立て札使用
2月22日(月)	火災		2階廊下	職員:役割の遂行、初期消火隊動き確認。 園児:手やハンカチで口元を抑えて避難。	立て札(火事)使用
3月23日(水)	火災 二次避難		予告なし	職員:初期消火隊の動き確認、避難誘導徹底。 園児:手やハンカチで口元を抑え避難	立て札(火事)使用

9. 設備工事及び高額什器備品購入

防犯カメラの設置。センター前駐車場に危険物（注射針や内服薬等）が混在するゴミ袋の不法投棄が頻回にあり、子どもの安全確保のため防犯カメラを設置した。設置後は異変なし。

10.その他特記事項・・1～9の項目以外で、事業所で特筆すべき点について記入下さい。

なし

11.次年度の課題・・次年度に向けての課題を記入下さい

平成28年度の最重要課題は、広く地域住民への啓発活動を積極的に実施し、障がい児とその家族への理解、連携・協働できる人・機関と接点を持つことである。この活動には、職員だけでなく保護者にも可能な限り参加して貰い、子どもたちが自分らしく、個性的に楽しく生活できる地域づくりのため、当事者として「よい水島地域をつくるチーム員」として参加を促していきたい。

そのため、センター全職員が法人理念に沿い事業展開に参画する組織体制を整備する。

1. 経営面

親子通園利用ニーズ調査を実施、あり方を再検討、経営の安定化を図る。

2. 人財育成

① 嘱託B職員に対する教育の充実。（人権・倫理観に基づく支援が行える）

② 地域社会に貢献できる職員（コミュニティワーカー）の育成

③ プライバシー保護マニュアルの整備

3. 水島地域における児童発達支援センターの役割発揮

① 保護者、多様なボランティア、住民、機関と連携し、子どもの体験の場や生活の幅を拡充する。

② 保護者と共に、多様な啓蒙活動、支援サポーターを養成し理解者や支援者を増やす。

③ 潜在する発達障がい児やその家族への相談機能の充実

④ 子どもや家族の居場所づくりへの支援

⑤ 子どもや家族・地域住民との交流を図る

平成 27 年度事業報告書

【事業所名： きらり倉敷 】 【事業所責任者： 妹山 裕一 】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

重点目標	子どもの豊かな発達を支援する。
目標（値）	施策及び結果
子どもの豊かな発達を支援する	①人材育成 ①-1 法人階層別研修に随時参加。 ①-2 専門研修に随時参加。 ①-3 事業所研修に随時参加。 ②子どもの権利擁護：専門研修に参加
重点目標	家族の子育て力の強化支援
目標（値）	施策及び結果
家族の子育て力の強化支援	①保護者とのコミュニケーションによる協働関係の構築 ①-1 ペアレントトレーニングの実施 • 1 クール家族が参加。 ①-2 保護者向け勉強会・座談会の開催（年2回） • 年2回の勉強会を実施。「家庭でできる遊びについて」「就学について」 • 座談会をきらり水島、きらり玉島と合同で実施。 倉敷からは1名の参加 ①-4 個別懇談の実施 • 就学前懇談 5-6月 10-11月の2回実施。 ①-5 保護者ニーズ把握 • 保護者ニーズ調査票の実施(4月と9月に保護者要望書の配布)
重点目標	機関連携とアウトリーチ
目標（値）	施策及び結果
機関連携とアウトリーチ	①機関連携 ①-1 所属機関訪問支援 • 園、学校訪問：行事前の様子観察、就学に向け

	<p>た担任との話し合い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学者受け入れ：隨時実施 <p>①-2 健診保育への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1歳半、3歳児健診への参加。 <p>②アウトリーチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングによる相談支援員との子どもについての話し合い。 <p>③地域住民への理解・啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倉敷学園の集いに参加。
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

27年度に中期経営計画に基づき立てた目標(どの様なことに取り組もうとしたか実施しようとしたか又サービスの質をどの様に向上させようとしたか、その為に何をしようとしたか)を具体的に記入し、その結果がどうであったかをここに記入してください。

目標（値）	施策及び結果
支援計画に基づく支援の充実	<p>発達支援事業グループ内で使用するアセスメント～通所支援計画までの様式の統一化を図る。</p> <p>運用ができるように事業グループ内の勉強会。</p> <p>事業グループ内のシートを活用したケース会議。</p> <p>→きらり合同勉強会を実施し、周知を行った。書き方の見本用紙による統一化。</p>
権利擁護を実践できる職員育成	<p>事業グループ内の研修会(職員育成)。</p> <p>日々の実践からの職員のミーティング。</p> <p>虐待ケース・不適切な関わりについての検討。</p> <p>チームアプローチの充実(他機関連携・グループ内)。</p> <p>利用者ニーズの代弁機能</p> <p>→事業グループ内の権利擁護についての勉強会を実施した。また、日々の療育後に終礼にて、その日利用したお子さんの様子を職員間で話し合い、関わり方の検討を行った。</p>

2. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
保護者向け勉強会	6月・7月	幼児・学童の保護者を対象にした勉強会の実施	内容「家庭で取り組める遊びについて」「就学について」実施。
座談会	12月	幼児・学童の保護者を対象にした座談会の実施	きらり水島、きらり玉島と合同で実施。メンターによる体験談。“参加してよかった”との声がある。

就学に関する勉強会	6月	教育委員会の教員を講師に招いた倉敷学園への勉強会に参加。	切れ目のない支援の為に、就学について保護者が情報を得る機会の提供ができた。
クッキング	毎月最終週 学童(8月、 12月)	学童と年長児を対象に実施	余暇活動に拡大、道具の操作性の向上、理解面の向上を目的に定期的に実施した。
ペアレントトレーニング	前期(5月～ 8月)	幼児の保護者を対象に、講義やグループワークを実施。	きらり倉敷からは前期ペアトレに1名参加した。

3. 利用者・職員状況

	児童発達支援	放課後等ディサービス
利用者定員	10名	10名
利用者延数	2,526名	274名
一日平均利用者数	9.35名	10名
稼働率(%)	93.5%	100%
開所日数	239日	31日

月	職員数	
	配置基準	現員
合計	4	5.2

4. 保護者（家族）との交流事業

・家族見学週間(毎月)

毎月1週間を家族見学週間とし、療育の見学をしてもらう為に保護者に呼びかけを行った。

月に1名程度の見学者はあるが、ニーズとしては低い印象。

・座談会(12月)

事業所全体では2回の座談会を設けていたが実施したのは1回のみとなっている。

メンターさんを呼びきらり水島ときらり玉島と合同で実施。10名程度の保護者が参加。

メンターさんによる就学後や中学生、高校生生活の話を聞くことで、お子さんの現在の様子からこの先の不安に対して見通しが持てたようである。

・ペアレントトレーニング

きらり倉敷からは1名の保護者が参加。参加時期はお子さんの様子について細かく観察している印象を受ける。終了後は、学んだ内容への意識が薄れやすく、定期的な振り返りを事業所内でもしていく必要性を感じた。

・保護者勉強会

保護者を対象に「家庭でできる遊びについて」の勉強会を実施。勉強会後はアンケートに「子どもを見る視点が変わった」「難しいことをさせていたことに気付かされた」といった意見もあった。今後もお子さんを見る視点が変わること等を踏まえると取り組みとして必要性を感じた。

5. 第三者評価に対する改善計画

- ・「利用者ニーズ調査表」→「保護者ニーズ調査表に名称変更」
名称変更し配布。保護者が考えるお子さんにとって必要な課題を記入していた。
- ・書式の統一(アセスメントシート、通所支援計画書、療育記録連絡帳)
きらり合同勉強会で使用方法、記入方法を周知し統一を図った。

6. 地域公益活動計画

- ・実習生受け入れ
受け入れは行っていたが、参加はなかった。
- ・ホームページ、後方による情報発信
事業所の情報や活動内容について、広報を行った。

7. 事業所研修計画

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
きらり合同勉強会	4月・11月	きらり職員全員参加。(嘱託を含む)	連絡帳やアセスメントシートなどの活用方法や見方などが嘱託職員に伝わり、終礼で話す内容に変化が見られた。

8. 防災・安全・衛生活動

- ・火災、地震(地震による火災)、津波、不審者対応を2ヶ月に1回実施。
- ・週に1回、設備の点検を行い、衛生管理チェックシートを記入。

9. 設備工事及び高額什器備品購入

特記無

10.その他特記事項

特記無

11.次年度の課題

次年度に向けての課題を記入下さい

- ・保護者に好評であった、勉強会や座談会は引き続き次年度も実施する。
- ・1単位になりお扈をまたいで利用するお子さんが多数となった。しかしながら以前の方法で療育を進

めていた為、時間的な余裕が無く、結果的に職員が時間に追われていることが多く、反面お子さんに対して 1 人当たりの療育時間は短く、プレイエリアでの遊ぶ時間が増えた。また、長時間利用によるお子さんの疲れや自由時間の職員配置の限界もあり、目が行き届かない所では他児同士のトラブルが増えている。今後は業務の内容の見直し、マニュアルの整備、書類の簡略化を検討し、時間を有効に使える工夫が必要になると予測される。現在の手法のよいところは残しつつ、職員間で検討していく方向で考える。

平成 27 年度 事業報告書

【事業所名：きらり玉島】【事業所責任者： 井手 佳織 ・ 原田 佳子 】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

きらり玉島は、他機関との地域連携（玉島保健師、くらしき作陽大学橋本先生、他事業所、相談支援専門員など）を積極的に行なう事が出来た。顔の見える関係を築いていくことにより、地域ニーズの把握やよりよい支援に繋がっていくことが分かった。しかしその一方で、利用している家族を直接的に巻き込んだ支援は、事業所としてやや受け身であったように感じる。保護者へ向けて勉強会や座談会等を開催したことにより、モチベーションの高い保護者は積極的に参加されていたが、そうではない保護者や参加したくても出来ない（兄弟児の預け先がない等の理由）保護者は毎回不参加であった。きょうだい児支援を含めた家族支援の充実をさせていくことが必要であったと感じた。

重点目標	子どもの豊かな発達を支援する。
目標（値）	施策及び結果
①人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・階層別研修への参加（正規職員） ・専門研修への参加（正規職員、嘱託 A、B） ・きらり合同勉強会への参加（正規職員、嘱託 A、B）
②子どもの権利擁護	・専門研修への参加（4/1）
③専門性の開拓と他職種協働による包括的な支援	センタークムレ河村 OT による支援のアドバイス。 (年2回、肢体不自由児2名)
重点目標	家族の子育て力の強化支援
目標（値）	施策及び結果
①保護者とのコミュニケーションによる協働関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレント・トレーニングの実施（10月～11月） ・保護者勉強会の実施。①6/11「就学の勉強会」 ②11/14「OT による勉強会」 ・保護者座談会の実施。（7/11、12/5実施） ・家族見学週間（毎月）の実施。 ・毎週金曜日の親子療育。（4～5月のみ） ・個別懇談の実施。（就学、就園、園生活、家庭生活） ・保護者のニーズ把握（行事後に保護者アンケート実施）
②家庭訪問（個別支援）	家庭訪問は行なえていない。懇談や普段のやりとりの中で、利用児の特性理解や支援方法などを保護者と一緒に考えることは行なった。

③きょうだい児支援	保護者が座談会に参加するために、兄弟児の一時預かりを実施した。（12/5）
重点目標	機関連携とアウトリーチ
目標（値）	施策及び結果
①機関連携	<ul style="list-style-type: none"> ・園訪問 10 件、見学受け入れ 4 件 ・1 歳半、3 歳健診保育への参加（毎月：管理者） ・実習生の受け入れ（介護等体験：5 人）
②アウトリーチ	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員との園訪問連携（6 件）
③地域住民への理解・啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> ・かたつむりの会への参加（管理者） ・玉島修活プロジェクトへの参加（正規職員）

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

「支援計画に基づく支援の実施」についてはきらり合同勉強会にて、アセスメントシートやレベルシート等の書き方を学ぶ機会を持つことが出来た。さらに利用児の特性を捉るために専門研修の中で特性シートについても学んだ。また通所支援計画書を作成する際には、サービス等利用計画に基づいて立案することを事業所間で統一した。

「権利擁護を実践できる職員育成」については事業グループ内の研修に参加した。しかし普段の療育で保護者から苦情が出ることもあった為、職員会議の中で具体的にケース検討を行なったり、人権擁護について考える機会を持ったりした。引き続き、定期的に人権擁護を実践できるように取り組みを続けていきたい。

目標（値）	施策及び結果
支援計画に基づく支援の実施	きらり合同勉強会にて「アセスメントシート」「人との関わりレベルシート」「連絡帳」についての書き方を学ぶ機会をもった。
権利擁護を実践できる職員育成	<ul style="list-style-type: none"> ・事業グループ内の研修の実施（4/1） ・職員会議にてケース検討を行なった。

2. 行事報告

レクリエーションでは、季節に応じた内容で年6回実施した。所属機関との行事と重ならないよう日に日程調整を行なうことや、レクリエーション内容のネーミングを工夫することで、利用希望者数に影響をすることが分かった。また視覚的な手がかりを用いることで、制作やクッキング等に期待を持ち、楽しく取り組めることを保護者に実感してもらえる機会となった。今後も療育のノウハウを通して、利用児や保護者が楽しいと思える行事を考えていきたい。

行事名	実施月	内容	結果
家族療育	4、5月	親子療育（金曜日）	お子さんとの関わり方や遊び方等を伝えた。
保護者向け勉強会（座談会）	6月	就学の勉強会 (C クムレ、き玉、水合同)	参加者9名
	7月	就学にむけた座談会	参加者6名

		(き玉、倉、水合同)	
	11月	OTによる勉強会 (Cクムレ、き水、玉合同)	参加者1名
	12月	座談会 (き玉、倉、水合同)	参加者2名
療育見学週間	毎月 (第3週目)	普段の様子を見ても らう。	年間数名の見学者有。
懇談	6月	就学懇談（年長全員）	就学の流れの説明や保護者 者の気持ちの聞き取りの 実施。園やきらりでの様子 を含めて進路を考えた。
	10月～12月	就学懇談（希望者） ※送迎時も含める。	就学健診での様子と保護 者の迷いや悩みの聞き取 りの実施。今後についての 方向性を考えた。
	随時	悩み、園生活、就園、 家庭生活について等	保護者からの依頼があっ た場合に多く行なった。 その都度、児に合った対応 方法を保護者と一緒に考 えた。
ペアレント・トレーニング	10月～11月	参加者1名	ペアトレの考え方や工夫 の方法を一緒に学んだ。し かし、児の姿が保護者の期 待通りに変化しにくかった 様子。引き続き、事業所 内でも母親のフォローを行 なっていく。
レクリエーション	年6回実施	①ピクニック（5/23） ②工作教室（5/30） ③かき氷作り（8/29） ④クリスマス会（12/5） ⑤凧作り（12/26） ⑥節分会（1/23）	季節に応じた内容でレク リエーションを企画する ことで希望者が集まりや すい傾向にあった。
かたつむりの会サポート	年5回実施	6/19、9/25 10/16、11/20 1/15、3/11	地域情報の収集や交換の 場となっている。参加者の 悩みに対して助言する役 割を担っており、地域で生 活している方（保護者）と の繋がりも大切にしてい きたいと考える。

ちーむ玉島修活プロジェクト	年5回実施	5/13、7/8 9/9、11/10 1/26、3/9 事例検討が主な内容。	橋本先生から、発達についての基礎を学ぶ機会となっている。また玉島・真備地区の園や福祉施設、保健師と顔の見える関係作りが構築されつつあり、貴重な場となっている。
---------------	-------	-------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------

3. 利用者・職員状況

今年度は、管理者や職員の異動等で入れ替わりが多くあったため体制が不安定であり、実績未達成の月が多くかった。また、きらり玉島に通っている利用児の多くは、複数利用（週2～3回の頻度）が多い為、欠席時の振り替え希望が大変少ない現状があった。次年度は、利用頻度の妥当性を十分に保護者と検討する必要があると感じる。

	児童発達支援	放課後等デイサービス
利 用 者 定 員	10名	10名
利 用 者 延 数	2,415名	198名
一日平均利用者数	8.94名	10名
稼 働 率 (%)	89.4%	100%
開 所 日 数	243日	27日

	職員数	
	配置基準	現 員
合計	4	7

4. 保護者（家族）との交流事業

年2回の座談会の開催と個人懇談に力を入れて取り組んだ。

今年度の座談会は、きらり倉敷・水島・玉島の合同主催で行なった。テーマはそれぞれ「就学にむけて」と「発達障がいについて」であり、メンターさんにも参加をしてもらった。座談会を通して、参加した保護者自身が普段では打ち明けにくい心情を語られ、涙をながして共感しあう姿が見られた。育児に悩んだり孤立してしまったりする保護者同士の交流の場を設定することが大切なことであると感じた。また、個別懇談では保護者自身が、職員と一対一の空間であるからこそ、誰の目も気にせずに悩みを打ち明けたり、成長を喜び合ったりすることが出来たように感じる。それぞれの保護者の性格や状況を踏まえたうえで、引き続き、座談会や懇談を通して気持ちに寄り添っていきたいと考える。

5. 第三者評価に対する改善計画

環境面において、療育は1Fのみで実施した。2Fは主に相談室と職員室として使用している。また玄関出入り口のスマートゲートは閉鎖的であるため、撤去した。階段下は危険防止のため、設

置している。地域連携においては、玉島修活プロジェクトやかたつむりの会に参加することにより、保護者や関係機関との密な連携をとる体制を整えている。また今年度は、きらり5事業所で使用する書式（アクセスシート、通所支援計画書、療育記録連絡帳）の統一を図った。さらに年2回のきら合同勉強会の実施により、書式の書き方や療育内容を学ぶ取り組みを行なう事が出来た。

6. 地域公益活動計画

水島地域交流スペース「ひろばにじいろ」での多世代交流に参加することは出来ていない。今後は積極的に参加していきたい。

7. 事業所研修計画

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
専門研修	計画による	正規職員	基本的な知識と技術の習得を行なう事が出来た。
きらり合同勉強会	4月、11月	正規職員、嘱託A、B	基本的な知識と技術の習得を行なう事が出来た。
事業所内研修	毎月	正規職員、嘱託A、B	職員会議で取り組んだ。前期は個別療育や受け入れ方法のロールプレイを行なった。後期は困難事例に対するケース検討を行なった。
事業所間交流	11月	井手 佳織	きらり倉敷の療育見学を行なった。事業所内の構造化や個別支援について学ぶことが出来た。
幼児安全法	7月	正規職員、嘱託B	基本的な技術の習得を行なった。
相談支援従事者初任者研修	7月、8月	井手 佳織	相談支援専門員として必要な教養を学習した。
サービス管理責任者研修	10~12月	牧 由佳里	サービス管理責任者として必要な教養を学習した

8. 防災・安全・衛生活動

- ・地震、火災、津波の災害訓練を実施。（年数回）
- ・玉島消防署の方に来てもらい、水消火器訓練の実施と災害時マニュアルの作成のアドバイスを頂いた。
- ・緊急時持ち出しリュックと防災頭巾を用意した。
- ・トイレの掃除手順のマニュアル化。

9. 設備工事及び高額什器備品購入

- ・壁面への扇風機の設置
- ・屋外の水道工事
- ・1F トイレの水道のパッキン工事

10. その他特記事項

なし。

11. 次年度の課題

きらり玉島では、①家族支援の充実②人権擁護の実践に力を入れていきたい。

①は定期的な座談会の実施を行なうことで保護者同士の繋がりを強化していきたい。次年度は保護者が参加しやすいようにきらり玉島の事業所内、もしくは玉島地区で開催していきたい。また家族（父親やきょうだい児も含めた）が一緒に参加できる療育や行事の企画も行なっていきたい。
②はまず人権擁護について職員が基礎的な知識を習得することが必要であると感じる。その上で利用児や保護者への対応を行なっていくことが求められる。法人内外できちんと研修等に参加していくことは必須であり、また職員会議等を通して、定期的に振り返りや考える機会を持つことが出来るようにしていきたい。

平成 27 年度事業報告書

【事業所名： きらり児島 】 【事業所責任者： 高田 朋 】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

平成 27 年度は「子どもの豊かな発達支援」「家族の子育て力の強化支援」「生涯生活できる地域環境作り」の 3 本柱を目標に支援を実施する事とした。利用児の特性のアセスメントから支援計画作成・実施に取り組んだ。また家族支援においては、保護者勉強会やペアトレを開催することで、家族が利用児にとっての最良の支援者になる事を目指した。地域支援においては、園訪問や事業所訪問を実施し、問題ケース児においては、相談支援専門員等の関係機関とのケース会議等の実施を図った。

重点目標	
目標（値）	施策及び結果
人材育成	専門研修にて権利擁護や制度、アセスメント、救急法、KYT など様々な分野の講義に参加した。
子どもの権利擁護	専門研修にて全職員で権利擁護研修に参加した。定期的な職員間でのセルフチェックが必要である。
専門職の開拓と多職種協働による包括的な支援	児家セン、相談支援専門員と連携を取り、利用児についての情報共有を行った。リアルタイムの情報共有が必要である。
重点目標	
目標（値）	施策及び結果
保護者とのコミュニケーションによる協働関係の構築	保護者勉強会「幼児期に出来る家庭支援」「スクラップブッキング」「課外活動」
家庭訪問	希望保護者がいなかった為未実施。
兄弟児支援	利用児課外活動時に、兄弟児の保育を実施。
重点目標	
目標（値）	施策及び結果
機関連携	希望があった場合、事業所からの促して園訪問を実施。しかし、定期的な訪問ができていない事が課題である。

アウトリーチ	相談支援専門員・保護者の3者での担当者会議実施、モニタリングの実施。相談支援専門員を含め問題解決ができない事が課題である。
地域住民への理解・啓発活動	事業所を利用している利用児や兄弟児に向けクラフトへの参加を呼び掛けた。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

きらり事業所が作成したアセスメントシートを活用し、利用児特性の把握を行い、アセスメントから支援計画作成・実施を図った。また新規契約時は保護者と面談し保護者の要望を聞き取り、ニーズの把握に努めた。

権利擁護においては、専門研修にて権利擁護についての理解を深めた。また、事業所においても、日々の支援の振り返りを実施し、利用児の権利を守るという意識を常に持つよう努めた。

目標（値）	施策及び結果
支援計画に基づく支援の実施	きらり作成のアセスメントシートを使用しアセスメントから支援計画作成・実施を行った。 拠点センターが使用するアセスメントシートの把握に努めた。
権利擁護を実践できる職員育成	専門研修に参加。また事業所において、日々の支援について職員間で報告し、事例を挙げ考える時間を設けた。

2. 行事報告

保護者勉強会やペアトレなど保護者に発達障害について学ぶ機会を提供したり、座談会では保護者同士で悩みを共有する場を設けたりした。また家族療育では、保護者自身が立てた目標を達成するためのプロセスを職員と一緒に考えながら課外活動で実践する取り組みを行った。

行事名	実施月	内容	結果
保護者向け勉強会	8月28日	家庭で出来る支援についてグループワークを通して考える。	家庭で抱えている子どもの困った行動を参加した保護者同士で話し合うことで悩みの共有や、困った行動に対しての解決案の情報収集ができた。
座談会	10月30日	スクラップブッキングをしながら、保護者同士で日々の悩み等を話しながら楽しく参加する。	作業をしながらあつたため、保護者同士でフランクに話をしながら作業を進めることができた。
家族療育	1月30日	利用児と保護者で課外活動を実施する中、利用児に必要な支援	保護者自身で考えて準備する事で、保護者の子育て力の強化ができた。

		を保護者が考え・実施する。	
ペアレントトレーニング	5月～8月	保護者が子どもにとっての最良の支援者となるよう、目標行動を決め実践していく。	目標に対しての観察をしたり、観察してきた事から見えてきた事等があり保護者自身が療育者としての視点を養う事ができた。

3. 利用者・職員状況

月平均利用者数が1日9.2人であった。月によっては、年度当初立てた実績を達成する月があったが、目標に達成しない月も多くあった。次年度は定員の10名は必ず確保できるように契約人数の増加を実施する。

	児童発達支援	放課後等ディサービス
利用者定員	10名	10名
利用者延数	2,238名	251名
一日平均利用者数	10名	10名
稼働率(%)	82.8%	100%
開所日数	238日	32日

	職員数	
	配置基準	現員
合計	4	6

4. 保護者（家族）との交流事業

家族見学週間・保護者勉強会・座談会・ペアレントトレーニング・課外活動を通して、事業所で取り組んでいる支援について保護者と共に理解を図ったり、保護者同士の交流を図り共感的サポートを受けたり、保護者の子育てのスキル向上を図ったりした。

5. 第三者評価に対する改善計画

アセスメントシートや連絡帳の書式の統一を図り使用しているが、改善案も多く出ている為、使用しやすい・目的が明確になる書式への修正が必要である。またきらり合同勉強会を実施している。それにより、療育内容の統一や嘱託を含む全職員に学ぶ機会を設ける事ができた。

6. 地域公益活動計画

- ・拠点センターが実施するクラコトにきらり児島を利用している児や家族の参加を促した。また職員はアトラクションの一部を担当した。

- ・1歳半・3歳児健診への派遣

7. 事業所研修計画

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
事業所間交流	1月	山原	他のきらり事業所の実習に参加する事で、療育実践をしていくまでの参考になった。

8. 防災・安全・衛生活動

避難訓練年2回実施。（地震・不審者対応）
非常持ち出し備品購入・非常用食料等備蓄

9. 設備工事及び高額什器備品購入

なし

10.その他特記事項

事業所環境整備実施（水漏れ・トイレ天井修理・雨漏り修理を大家に依頼）

11.次年度の課題

「子どもの発達支援」「家族の子育て力の強化支援」「生涯生活できる地域環境作り」の3本柱の目標を達成する為、次年度は家庭や所属機関での利用児の様子を情報共有する中で、利用児の課題を把握し、事業所完結型ではなく利用児を取り巻く全ての環境を巻き込み、利用児の発達支援を行うことを課題とする。

【事業所名： きらり中庄 】【事業所責任者： 大隅 淳代 】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

今年度は、児童発達支援事業所きらり中庄を「風通しの良い職場作りにする」「過去 5 年間の業績低迷の建て直し」という課題を命じられ 1 年間運営に携わり取り組んだ結果、目標は達成した。内容としては、事業所全職員に対し人材育成に対する教育を行うことで、利用児や保護者との距離感がより近くなり信頼関係構築へ繋がった。勉強会や座談会また、相談や懇談を行うことで保護者にとって身近に話すことができる支援者及び場へと繋がった。地域支援に関しては、地域の保健師や子ども相談センターと連携を行い支援に務めた。

重点目標	子どもの豊かな発達支援を支援する
目標（値）	施策及び結果
①人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 法人階層別研修及び専門研修に参加。 事業所研修は事業所で毎月実施。 きらり合同勉強会を実施し療育内容の統一化実施。 事業所の構造化と再構造化を実施。
②子どもの権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 専門研修を前期、後期に実施。マニュアル周知勉強会の実施。
③専門性の開拓と多職種協働による包括的な支援	<ul style="list-style-type: none"> 地域の保健師や子ども相談センターとの連携及び、同法人内専門相談機関との情報交換を行い、地域を基盤とした支援実施。
	※上記全て実施済み。達成とする。
重点目標	家族の子育て力の強化支援
目標（値）	施策及び結果
①保護者とのコミュニケーションによる協働関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> ペアレントトレーニングを各拠点で実施。 保護者勉強会及び座談会を年 6 回実施。 親子療育及び個別懇談を実施。 行事前後のアンケートや意見箱を設置し意見要望を伝えやすい環境へ改善した。
②家庭訪問（個別支援）	<ul style="list-style-type: none"> 勉強会や座談会及び懇談や通常の引継ぎの際に、構造化や視覚的支援について伝えた。
③きょうだい児支援	<ul style="list-style-type: none"> 事業所で実施。

	※上記全て実施済み。達成とする。
重点目標	機関連携とアウトリーチ
目標（値）	施策及び結果
①機関連携	・関係機関連携会議を実施し利用児が所属する園と保護者、療育関係者と話し合いを行い通所支援計画書を作成した。
②アウトリーチ	・発達相談についての相談を受けた。
③地域住民への理解・啓発活動	・倉敷学園の集いに参加。
	※上記全て実施済み。達成とする。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

発達支援事業 Gr での支援計画を統一するために、まずは児童発達支援事業所きらりでアセスメントシートの統一化を図り、利用児の発達段階を理解し保護者に所定のシートで説明し共通認識を揃えた上で、通所支援計画書を作成した。その為、保護者の要望だけでなく子どもの発達段階を理解した上での支援計画と繋がり利用児及び保護者も達成感を味わうことができる支援へと繋がった。権利擁護に関しては勉強会を前期・後期に実施することや日常的に関わりについて振り返る機会を設けた。そのことにより行動や言動の一つひとつに意識を向ける姿へ繋がった。

目標（値）	施策及び結果
支援計画に基づく支援の実施	・きらりにおいてはアセスメントシートの統一化はできたが発達支援 Gr においては統一ができない。次年度の課題である。
権利擁護を実践できる職員育成	・前期、後期共に虐待についての勉強会を実施。 ・日常の姿を終礼で振り返る機会を設け意識の向上に努めた。 ・チームアプローチの充実は今後拠点を含めての課題である。

2. 行事報告

保護者向け勉強会・座談会（管理者・臨床心理士）第1回：平成27年6月3日（水）14時～16時で実施。参加者：新谷心理士・大隅・保護者5名の参加（2名欠席）「乳幼児期の発達と療育について」第2回：平成27年11月16日（月）9時30分～12時15分「発達障がいについて①」5名の参加（5名欠席）第3回：平成28年3月16日（水）「発達障がいについて②」5名の参加（1名欠席）栄養士により勉強会・座談会：平成27年7月～9月実施。「食についての基本・味・料理方法・クッキングの実施」勉強会は費用等は発生していない。

行事名	実施月	内容	結果

保護者向け勉強会	6・7・8・9・11・3月	幼児・学童の保護者を対象にした勉強会の実施	管理者・臨床心理士・栄養士など各専門職で実施し保護者からも高く評価していただいた。
座談会	6・7・8・9・11・3月	幼児・学童の保護者を対象にした座談会の実施	勉強会後に実施することで雰囲気も和やかになり保護者同士が理解し分かち合える場となった。
就学に関する勉強会	6月上旬	教育委員会の教員を講師に招いた倉敷学園の勉強会へ参加	年長の保護者が参加。また個別に就学児懇談を行い進路について必要なことを伝えた。保護者も納得された。
クリスマス会	12月	倉敷学園によるクリスマス会(クリスマス楽曲や劇)へ参加	在宅児の参加が主であった。初めての行事であったが園児は興味津々で楽しめていた。
ペアレント トレーニング	前期 5~8月	幼児の保護者を対象に、講義やグループワークを実施	各拠点で実施。保護者を主体とした支援の考え方を周知し、終了後も継続されている家庭もある。

3. 利用者・職員状況

平成27年4月は利用者数が非常に少ない人数での運営であった。地域の保健師さんや総合療育センターゆめばる、また保護者の紹介により5月には契約数が定員に達したことでも毎月目標実績を達成することができている。平成27年度の目標は達成した。児童発達支援事業所きらり倉敷の管理者の産休・育児休暇により常勤職員が1名異動。また平成27年4月より育児休暇明けより勤務開始の職員が出産の為に退職し、同時期にきらり水島より常勤職員が1名異動することがある中での職員状況であった。

	児童発達支援	放課後等デイサービス
利 用 者 定 員	10名	10名
利 用 者 延 数	2,539名	202名
一 日 平 均 利 用 者 数	10.3名	8.08名
稼 働 率 (%)	103.6%	80.8%
開 所 日 数	245日	25日

	職員数	
	配置基準	現 員
合計	4	5.7

4. 保護者（家族）との交流事業

毎月、第3週を家族見学週間として保護者に呼びかけを行っている。祖父母や両親及び親戚からの見学もあり、「療育とは何か」「療育の必要性とは」「家庭で何をどのように取り組めばよいのか」などの疑問にも応じ「家庭でできる支援」を保護者に伝えることができた。家族見学週間を通し、「療育」への理解を深めていただき、今後の見通しを家族の方に理解していただく良い機会となった。

5. 第三者評価に対する改善計画

きらり合同勉強会を実施し、支援についての統一性を図った。また、構造化及び再構造化を行い、利用児の姿に合わせた支援を提供することができた。保護者の意見・要望・苦情に関しては行事前後にアンケートを配布し、意見要望に寄り添うような行事を実施した。また意見箱を設置することで、意見・要望・苦情の収集に努めた。

6. 地域公益活動計画

栗のお家の完成は平成28年4月である。そのため、今年度の主な活動はなし。次年度に期待する。

7. 事業所研修計画

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
事業部専門研修	計画に基づき実施	在籍した1～5年目 妹山・太田・藤原	必要な学びを吸収でき、現場で汎化できていることもある。
きらり合同勉強会	4月2日 11月7日	全職員 (嘱託職員含む)	書式や支援に関する学びを統一することができた。
幼児安全法	計画に基づき実施	全職員 (嘱託職員含む)	緊急時に必要な学びを吸収できた。
即実践講座	計画に基づき実施	正規職員	自閉スペクトラム症への学びを理解に繋げることができた。

8. 防災・安全・衛生活動

防災訓練 4月21日（火災）5月19日（火災）6月17日（火災）7月21日（火災）8月18日（不審者）9月15日（地震からの火災）11月12日（火災）12月24日（地震後の火災）1月17日（不審者）2月16日（火災）3月15日（火災）

リスク委員会と安全衛生委員会がコラボして研修 12月25日①アレルギー食の誤食でアナフィラキシーショックで医療機関搬送 ②てんかん時の対応で発作が重篤となり医療機関搬送についての勉強会。
リスクパトロール 11月20日受診。

9. 設備工事及び高額什器備品購入

平成28年2月9日(火)にエアコンの修繕を依頼した。修繕理由はエアコンの主電源が落ち、エアコンが作動しなかった。利用児の年齢が低年齢児であることや、体温保持を保つことが困難なお子さんがいること、季節的にマイナスの気温になるため、保護者が利用児を安心して預けることが出来ない環境であること。その他、職員の健康管理保持のため改善した。金額は6万8040円となった。

10. その他特記事項

きらり中庄の利用児の中には「虐待ケース」の家庭が数ケースある。各管轄の保健所の保健師や子ども相談センター、また同法人の専門職と情報共有を行いながら、保護者の思いを汲み取り寄り添いながら支援を行っていく必要性がある。まずは信頼関係を構築し「この人なら相談したい」と保護者に思われるような存在となるよう支援者は努力していく必要性がある。自身の価値観を相手に押し付けることなくまず、保護者の思いに寄り添いながら支援をしていくことが重要である。保護者や関係機関とタイムリーな連絡調整を行い必要に応じて家庭訪問及びケア会議の実施を行う必要がある。

11. 次年度の課題

今年度は「風通しの良い職場作りにする」「過去5年間の業績低迷の建て直し」という課題を命じられ1年間運営に携わり取り組み、目標を達成することができた。利用児や保護者との信頼関係及び地域の関係機関（行政関係・所属園及び学校）とタイムリーに連携する基盤の構築はできている。

今後も、この1年間で築き上げた基盤を大切に、更なる利用児や保護者及び地域の関係機関との連携の構築を行い、地域全体で「地域で育む子どもと子育て」を実現していきたい。その為には、幼少期に初めて療育を受ける方に対して家庭訪問を実施することや児童発達支援センターから地域の園に移行された児に関して家庭訪問及び関係機関連携会議を実施し、より地域に近く安心して子育てを行うことができる療育機関先として「児童発達支援事業所 きらり中庄」の事業所名が倉敷市の行政機関及び所属園・所属学校に浸透していくことができるよう、事業所へ成長させていくことが次年度の課題である。その他、中庄地域は生活の基盤が弱い家庭も多い。そのため、事業所職員は、保護者や利用児の様子や言葉に耳を傾け、家庭の些細な変化にも気付くことができるよう、広くそして判断の利く視点を養い成長していくことが今後の課題であり次年度の課題となる。更に、次年度は「栗のお家」が開設となる。地域における「社会福祉法人 クムレ 児童発達支援事業所」で何が地域に貢献できる活動であるのか、どのような事業にしていきたいのかということを明確にし運営に携わっていくことも次年度の課題となる。

上記に次年度の課題に関して、具体的に記したが、「地域及び誰からも愛される温かい雰囲気のある事業所へ成長すること」を次年度の課題としていきたい。

以上。

平成 27 年度事業報告書

【事業所名 きらり水島】【事業所責任者: 福田 里美】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

子どもの取り巻く環境である、家庭、所属園、相談支援事業所などと懇談やケース会議を通して、積極的に連携を図ってきました。子どもを含む家族のアセスメントを行ない生活のしづらさを把握し、まずは理解や受け入れを事業所の立場から協力を得ながら成長と自立に向けた支援を取り組みました。

重点目標	1.子どもの豊かな発達支援をする
目標（値）	施策及び結果
①人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 法人階層別研修、専門研修、事業所内研修は計画に沿い実施 内外部の研修に積極的に参加し、職員全員に復命報告を実施した
②子どもの権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 専門研修の中で、マニュアルが整備され計画に沿って実施
③専門性の開拓と他職種協働による包括的な支援	<ul style="list-style-type: none"> グループ内における専門職の研修や支援における連携を図った 連絡帳及びアセスメントシートも新しく使用。
重点目標	2.保護者とのコミュニケーションによる協働機関の構築
目標（値）	施策及び結果
①保護者とのコミュニケーションによる協働関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> ペアレントトレーニングを水島拠点において実施 保護者勉強会は教育委員会及びメンターと協力し開催 毎月、家族見学週間をもうけ、家族支援を実施 所属園、相談支援専門員、就学前との懇談及び引き継ぎを実施 通信やアンケートを実施し保護者の意見及び要望を把握した
重点目標	3.機関連携とアウトリーチ
目標（値）	施策及び結果
①機関連携	<ul style="list-style-type: none"> 小さくら保育園との連携として、ケース会議、3者懇談の実施 小さくら保育園との合同支援プラン書の作成 見学や訪問を行い、連携を図る
②訪問支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 所属園の訪問、小学校への引き継ぎ、見学者の受け入れを実施

③健診保育への参加	・年間計画に基いて健診保育に参加 ・すくすく教室への見学
④実習生・ボランティアの受け入れ	・地域人材発掘事業の受け入れを実施 ・ひろばにじいろの出前講座を実施

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

切れ目のない利用者支援ということで、統一されたアセスメントを行ない支援計画の立案、計画に基くサービスの提供を実施してきました。

支援については、家庭や所属園でも般化されるようにアウトリーチとして、園訪問及び家庭訪問を積極的に行った。所属園との会議や連絡帳で情報共有及び連携を図った。

目標（値）	施策及び結果
支援計画に基づく支援の実施	今年度より、アセスメントシートを用いて記録を実施していった。しかし、シートのフォーマットの内容では家族背景などの記載欄が無い事や支援計画に反映されにくいこともあり、次年度見直したシートを使用予定となっている。
権利擁護を実践できる職員育成	事業グループ内での研修に嘱託職員を含む全員が参加し、利用者へ適切なかかわり方を学び周知を図った。定期的に事例を通しての研修なども必要と考える

2. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
家族療育・レクリエーション	12月	家族のみの参加でスクラックブッキングを開催	他行事と重なり、少人数の参加であったがリフレッシュが出来て好評だった。
保護者向け勉強会	2回/年	きらり他事業所と合同で実施。	メンタさんを交えて会話も弾み保護者も将来の見通しなど参考され多くの参加があった。
療育見学週間	毎月 (第4週目)	見学週間に限らず希望があれば他日でも見学に対応した	両親揃っての見学もあり、療育・就学についてお話ししかつた。
懇談	64件	支援計画、家庭の様子、就学など相談や説明など行った	懇談〇件以外にも気軽に相談は対応している
ペアレント・トレーリング	12月～ (1クール)	水島拠点合同で実施	きらり水島の参加者はなしであったが、管理者のみ参加した

運動会・発表会・祭り（小さくら）	10、11、12、2月	きらり職員も参加	きらりの運営もあり、運動会、祭りは管理者が参加。発表会は見学をした。
就学に関する勉強会	6月	教育委員会の教員による勉強会	積極的に保護者を誘い例年に比べ多くの参加があった。
継続児、新規契約児の説明会	3月	次年度の支援計画や契約について保護者に説明をする	きらりの運営、契約説明、新年度の個別支援計画の説明をほぼ全員実施

3. 利用者・職員状況

利用者の利用実績については、可能な限り振替など案内し計画を上回る実績が達成できた。職員については、入れ替わりがあったが毎朝ミーティングで担当をきめ協力しながら利用者により良い支援をできるように努めた。

	児童発達支援	放課後等デイサービス
利 用 者 定 員	10名	10名
利 用 者 延 数	2,683名	107名
一日平均利用者数	9.93名	10名
稼 働 率 (%)	100%	100 %
開 所 日 数	270日	24日

月	職員数	
	配置基準	現 員
合計	5	8

4. 保護者（家族）との交流事業

- ・家族見学週間については、希望があればいつでも対応した為母親以外に父親の参加もあり、相談支援専門員のモニタリング時など見学の機会が増えた。また、見学後に面談室で職員とゆっくりと情報共有や療育の説明ができた。
- ・保護者向け勉強会では、メンターさんを囲み座談会形式で保護者間の会話も弾み情報の共有が積極的に行われた。

5. 第三者評価に対する改善計画

- ・保護者を対象に勉強会、座談会を通して保護者間で情報交換が積極的に行われるようになった。
- ・家庭訪問、園訪問などに積極的に出向き、関係機関（園、小学校、相談支援専門員）連携を築き充実した就学支援ができた。
- ・保育園、幼稚園と合同で個別支援計画を立案し、支援が家庭及び在籍園に般化できるように努めた。

6. 地域公益活動計画

- ・地域人材派遣職員の受け入れを3ヶ月間受け入れを実施
- ・通所支援に事業所使用する療育教材（手芸玩具）を依頼発注する
- ・ホームページや広報誌については、きらり事業所の紹介記事を掲載した。

7. 事業所研修計画

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
グループ専門研修	4,5,6,7、 Cクムレの 計画に準ず る	全職員（嘱託職員も 可能な限り参加）	支援及び発達障害、権 利擁護、虐待など療育、 発達支援に必要な専門知 識・技術を学ぶことがで きた。
きらり合同研修	4、11月	全職員	きらり合同で、療育支援 方法及びシートの活用な ど共通認識やサービスの 質の向上が図れた。
Cクムレと合同研修	5回/年	正規職員	研修参加することで、職 員のスキルアップに繋が った。
事業所間交流	4回/年	正規職員	事業所間の実習において 支援の情報収集や交流が できた。

8. 防災・安全・衛生活動

- ・防災訓練については、消防計画書に沿って毎月小さくら保育園と合同で実施した。
- ・防災設備の点検については、委託業者に依頼し2回/年実施した。
- ・災害時に備えて、非常持ち出しバック及び備蓄を整備した。

9. 設備工事及び高額什器備品購入

なし

10.その他特記事項

なし

11.次年度の課題

- ・小さくら保育園とのチームプレーとして、互いの事業所間の交流を積極的に行い支援及び保育の共通理解、般化できるように努めていきたい。

平成 27 年度事業報告書

【事業所名： クムしてとて 】【事業所責任者： 大原 久美子 】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

発達支援グループの 3 つの重点目標を軸に、支援を必要とする様々な子どもの状況や家族の希望、地域の状況を整理し、相談を受け、利用計画を作成してきた。契約者の増加により、モニタリングが不十分なことが多かったため、サービス提供事業所と連絡調整しながら、必要なケースに応じて対応してきたが、振り返りが出来ない部分が多くいたため、反省する点は多い。

重点目標	子どもの豊かな発達を支援する。
①人材育成 (法人内研修・事業部専門研修・事業所研修・OJT の実施)	法人内での研修や外部機関での研修に参加することで、多様な視点から自分の役割を見つめる機会を持った。法人内の職員と関わる機会は多くないが、相談支援の立場から、子どもの発達支援が行なえるように、契約児のケースを通して、人材育成に努めた。
②子どもの権利擁護 (研修/子どものニーズ把握)	子どもの権利擁護のため、家族や地域の状況、また、関係機関の状況などを踏まえて、子どものニーズを家族とともにアセスメントし、保護者による子どもの理解が進むように、発達段階や今後の支援に関する情報提供を行った。
重点目標	家族の子育て力の強化支援
①ニーズ把握と情報提供	家族からの情報や子どもの姿、地域の状況などについてアセスメントを行い、利用計画を作成してきた。保護者の希望や子どものニーズを支援計画により明文化し、保護者と子どもの状況について共通理解を図ることが出来るケースが増えている。その状況をサービス提供事業所へ引継ぎ、必要な情報提供を依頼した。
重点目標	機関連携とアウトリーチ
①機関連携（所属機関、サービス提供機関、健診後のフォロー教室）	契約児の所属機関やサービス提供事業所との担当者会議やモニタリングによる情報共有などに努めた。
②地域住民への理解、啓発	発達障がい者支援センターが主催する発達障がい支援フォーラムにおいて、地域住民の参加を呼びかけ、啓発活動を行った。

②中期経営計画に対する今年度の取組み

相談支援事業所の役割であるサービス等利用計画作成、モニタリング、サービス担当者会議などを通して、子どもの発達支援、家族の育児力向上のための支援、機関連携などに取り組んできた。

目標（値）	施策及び結果
支援計画に基づく支援の実施	対象児の状況や家族の希望から利用計画を作成してきた。サービス提供事業所の支援計画につながりを持たせられるように情報共有を行い、効果的な発達支援、家族との連携が実現するよう努めた。経過の確認が不十分であった。
権利擁護を実践できる職員育成	当事業所では、相談支援専門員 1 名の体制のため、事業所内で育成に関わる機会はないが、法人内の他事業所の契約児のケースを通して、職員と家族や子どもに関する話の中で権利擁護や人権に関するテーマに触ってきた。

2. 行事報告

なし

3. 利用者・職員状況

平成 26 年度 10 月末の福祉サービス受給者証の更新者より、福祉サービスを利用する全児に相談支援事業所との契約が必要となり、依頼に対応してきた結果、相談契約者は増加している。相談支援の契約をし、受給者証取得のための手続きのサポートは期限を守り、実施してきたが、モニタリングが計画的に実施できなかつたことが反省点として挙げられる。

	相談契約 件数	モニタリング件数
利 用 者 延 べ 人 数	259 名	51 名

	職員数	
	配置基準	現 員
合計	1	1

4. 保護者（家族）との交流事業

特記事項なし

5. 事業所研修計画

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
相談支援スキルアップ研修	4	大原	倉敷市内の相談支援事業所との情報共有や事例検討により、知識や情報を得られる機会となった。
	7	大原	
	1	大原	

8. 防災・安全・衛生活動

特記事項なし

10.その他特記事項

特記事項なし

11.次年度の課題

平成26年度途中より、福祉サービスを利用する全ての利用者に、相談支援事業所で作成するサービス等利用計画が必要となった。そのため、当事業所の契約者数が増え、利用計画の作成に対応したものとの計画作成を行った後のモニタリングが実施できていないケースが増える結果となった。

現在、契約者は300名近くとなっており、今後も年間通して、若干名の増減はあるものの、ほぼ同じペースで契約者数は推移していくものと考えられる。

1名の相談支援専門員で対応していくためには、計画的な利用計画の作成やモニタリングを実施するとともに、サービス提供事業所との連携を通して、個々のケースに合わせたサポートを実施していく必要がある。

自立支援事業グループ

平成 27 年度事業報告書

【事業所名： あしたば 】 【事業所責任者： 橋口 奉弘 】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

あしたばでは、河本佳子氏にコンサルテーションに入っていたとき、「尊厳」「自立」「ハビリテーション」について、職員や家族に向けて職員会議や班会議での勉強会や家族会での講演を通して伝えてきた。また、自己決定・自己選択の視点や楽しく落ち着く環境の視点から、好むシートの選択やスヌーズレンへの導入からアクティビティルームの設備を行った。地域交流ではサロン活動の実施と行事を通しての民生委員や婦人会の方との交流を図った。

重点目標	その人らしい生き方の支援
目標（値）	施策及び結果
利用者の統一した支援	サービス等利用計画を基に個別支援計画の作成を行った。月々の反省（月間）では、職員の支援・本人の状況に対しての考察を記入するようにして、職員の視点をより一層明確化するように取り組んだ。職員会議にて、OJTについての内容説明や演習を行う。支援に対しての職員の意識は向上している。
地域と関わる場を設ける	班行事に関しては、班毎の特色や利用者の障がい特性も踏まえて実施した。SSTに取り組んでいる班は、ホテルに宿泊して実践的取り組みも行った。サロン活動では、職員が補佐となり利用者が主体となり、地域の方のおもてなしを行った。職員が各行事に対して目的を明確にして取り組めるようになっている。
グループホーム就労事業所との実習と移行への連携	今年度は一人の利用者が他法人・当法人のグループホームの体験利用や就労Bの事業所で実習を行った。1月にあしたばからグループホームに転居し就労Bを利用している。
重点目標	家族と支える利用者との暮らし
目標（値）	施策及び結果
家族との協力した支援体制	今年度は家族会を通して家族への勉強会を毎月行った。今年度は相談事業所との連携や法人内の事業所紹介や河本佳子氏の「スヌーズレン」「尊厳・自立・ハビリテーション」の講演に取り組んだ。また家族会役員の交

	代があったが、役員との話し合いを引き継いで行った。家族会懇談会では、日々の状況報告だけではなく、生育歴をしっかりと聴いて支援へのヒントと家族との交流を深めるようにしてきた。
重点目標	
目標（値）	施策及び結果
地域に発信する障害理解の追及	サロン活動を通して、季節を感じる取り組みとして、調理活動・創作活動・ハイキングなどを地域の方・ボランティア・利用者・職員と交流を図っている。定期の取り組みは行っているが、盛んな活動には至っていない。
地域貢献への参加と工夫	地域の施設への清掃ボランティアに参加したり、町内会の清掃活動に参加したりはしている。しかし例年の取り組みが殆どで活動の拡大には至っていない。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

ワークライフバランスから、あしたば女性職員の支援員は特に結婚・出産を期にあしたばを退職もしくは異動願いを出し継続されることが困難な状況である。今年度、育児休暇を明けた職員に対して通勤やお子さんの保育園などの家庭状況を考慮した勤務、業務体制とした。お子さんの病気での急な早退、休みはあったが、現場での対応が図れた結果、現場職員として継続できた。しかし模範となる人材であったが、家庭の都合で退職となったのは残念である。

避難所として、倉敷市からの配給はあるがあしたばとしても、災害非常食などの確認・購入を行ったが、近隣の町内会などの連携には至っていない。

目標（値）	施策及び結果
業務改善への取り組み 定時退社マークの実施 (ワークライフバランス)	業務改善に対しては、15時以降の現場の体制を変更して、ケース記録などを入力できる時間を確保したが、全配置職員が行えるまでではない。
福祉避難所としての体制整備	倉敷市の関係施設との情報の共有や今後の動きについても話し合う場を設けることはなかった。また、地域住民の情報収集は日差地区の世帯状況に留まっている。
大規模修繕に向けた準備・計画 【第2期期間】	大規模修繕に関しては、行政からの今後の方針（施設入所）が出ていないことから準備・計画は足止めではある。しかし居室や面談室・旧作業室などの環境設備や小物での雰囲気作りに河本佳子氏のコンサルのもと取り組んだ。

2. 行事報告

地域の方をどのようにして参加して頂くかを、お花見会・納涼大会・収穫祭では目的として取り組んだ。民生委員や婦人会、地域の方を迎えて実施はできたが、民生委員の方などの今後の協力体制の在り方までには至っていない。

今年までは事業所独自でまた、例年通りといった実施取り組みとなっているが、自立グループで

の取り組みも考慮する。そして地域支援・地域発信を強化して、「共に育ち・共に生きる」の一つの試みとする方向性をあげる。

家族の行事参加では、我が子と触れ合うといった状態が見受けられないため、事業（行事の目的）としても今以上に伝えていく必要がある。

行事名	実施月	内容	結果
お花見会	4月3日	あしたば・さくらだいに別れて、桜を見物して各催し物・食事をする。	天候には恵まれなかつたが、民生委員・婦人部・地域の方・ボランティアの参加、職員出し物などで盛り上がり、あしたばがどのように地域と繋がりを持つかの話も民生委員・地域の方と話ができる。
障がい者スポーツ大会	4月5月	岡山県主催の障がい者スポーツ大会に参加する。	例年の参加もあり、各種目に問題なく出場できている。しかし練習や利用者への意識モチベーションを事前から上げることができていない。
納涼大会	8月21日	園内設備を利用して、出店や催し物などの祭りをする。	長年のやり方について見直しを図る。チケット制やイベントも身内（法人内・山地庄地区）から依頼をした。問題点やあったが、28年度に繋げる。
収穫祭	10月31日	秋に因んだ調理活動や催し物を行う。	花見の交流もあり、民生委員や学生ボランティアの参加で調理活動や創作活動に取り組む。昼食や職員の出し物でも交流を深め日頃の作業の疲れを癒して頂いた。
バス旅行	11月13日	利用者・家族・職員合同でバス旅行に行く。	天候には恵まれなかつたが、3グループ（鳥取・広島・香川）に別れて、遊園地や観光、調理体験で本人の楽しめる観光地を選択（家族も含む）して頂き、家族との交流も

			含めて楽しく過ごせている。
忘年会	12月1月	忘年会に因んだ外出（外食）やレクリエーションをする。	クリスマス、忘年会・新年会に分けて各班で計画を立てて、外食（出）や施設外ホームを利用した会行う。職員での計画が主だったため、28年度は利用者を巻き込んだ計画・準備にする。
正月行事	1月16日	お正月に因んだレクリエーション・伝統行事をする。	餅つきが困難な利用者やお餅が食べることができない利用者おり、今年度は書初めや創作活動に取り組む。
ツーデーマーチ	3月13日	倉敷市主催のウォーキング大会に参加する。	例年の通り家族への依頼も行い、家族と倉敷の町を歩く、体力のある方は10キロを歩く、美観地区で飲食など、個々の楽しみ方に工夫をした。不参加の方は、園周辺をウォーキングする。
各地域行事		通年の行事の他に新たな行事を探り参加する。	地域主催の新たな行事への参加には至らなかった。
サロン活動	主に第4土曜日	一年を通して季節の創作活動や地域の方と共に作り上げる取り組みをする。	年間を通してさくらだいを主な会場にして、創作・調理・ハイキングなど季節を感じるテーマに取り組んだが、地域の方の参加率が悪く、改善策について話はするが、実施まに至らなかった。

3. 利用者・職員状況

施設入所では定員2名減の48名での利用開始となり、7月から50名となる。生活介護では2名が法人内の他事業所を利用している状況である。また重度支援加算Ⅱの算定も職員数（常勤換算）や強度行動障害者養成研修についても行政発信に不明な点があり、また事業所のシミュレーションが不十分で4月の算定には至らなかった（10月からの取得となる）。

短期入所は7か月が計画より下回り、1月～3月はインフルエンザの流行もあり、大幅にキャン

セルを依頼した状況となった。結果年間を通しては50名下回る状況であった。

日中一時は8か月が計画より下回り、年間を通しては50名下回る状況であった。

(下記の表は、生活介護とする：他事業所と併用は現員不可)

	施設入所	生活介護	短期入所	日中一時
利 用 者 定 員	50名	50名	5名	15名
利 用 者 延 数	16,221名	13,106名	1,288名	856名
一日平均利用者数	50名	48.7名	3.5名	2.3名
稼 働 率 (%)	88.8%	97.4%	70.5%	15.6%
開 所 日 数	365日	269日	365日	365日
平 均 区 分	4.9	4.9	—	—

	職員数	
	配置 基準	現 員
合計	600	609

4. 保護者（家族）との交流事業

27年度は家族会役員の改選もあり、新たな家族会の体制になる。昨年度の班懇談（1～5班）や役員との話し合い（3か月に1度）は継続して取り組み、ケース担当外の職員とも交流・懇談や理事長や事務局・河本佳子氏も含めての場も設けた。行事参加は納涼大会や収穫祭となるが、職員と家族の距離をどう縮めるか、施設と家族の協力体制、リスクの考え方など、ただ交流を図るではなく、今後のあしたばを協力体制の基で関係性をより良くする話の場を設けた。「気持ちよい挨拶を家族からする」などの提案も上がった。

5. 第三者評価に対する改善計画

「年度計画作成時の職員参加」では、26年度の取り組みから問題定義などを職員アンケートで上げたが、優先順位をつける事ができずに取り組み内容が明確ではなかった。27年度の振り返りは「福祉QC」を通して、3つの重点方針の各目標・内容を作成した。

「職員個人の目標管理確実な実行」では、新人と管理職とのコミュニケーションノートや班内での良いところノートを行い、コミュニケーションを図り易くする為の方法を提供した。面談では将来の自分がどうなりたいか・どうしたいかを含めて話をしている。

6. 地域公益活動計画

生活困窮者の緊急のショートステイの取り組みは図れなかった。虐待を受けている女性の緊急保護の為の受け入れは行い、あしたば施設入所と他事業所の生活介護・就労との連携を図った。体制としては整っていないため、体制作りが今後の課題である。

7. 事業所研修計画

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
リスクマネジメント研修	5・8・12月	全職員（現場外）	新人にはリスクに対する意識の習得や現場全体には緊急時の対応方法などを再確認する場となった。しかし、全職員が実施できないため、方法を考案する必要がある。
保健衛生研修（ロールプレイ）	6・10・1月	全職員（現場外）	手洗い講習や嘔吐物の処理方法などに取り組んでいる。しかし、現場で活かされているかは、職員の意識の持ち方で方法は取得されていると思われる。職員意識の向上を今後図っていく。
障がい者研修（新人研修）	4月	新人中途職員	新人対象の為、分かりやすく障がい者の対応方法やあしたば業務の基礎を個々の専門職や管理者が交代制で伝えた。研修を通して、始まりのけじめは付いたと思われる。
自閉症研修	1・2・3月	1.2年目職員	キャップを中心に、何回かに分けて、基礎（講義）から構造化や作業題材作りにグループで取り組む。実際に本人たちで作成するなど、現場に活かされる取り組みとなっている。

8. 防災・安全・衛生活動

- ・月一度の避難訓練（日中・夜間）では、職員の緊張感が薄い場面もあるため、緊張感を持った取り組みを伝える。夜間の避難訓練の回数を増やすことと消防署からもある為、来年度は夜間の避難訓練と地震想定での避難訓練を実施する。
- ・月一度の安全点検と生活環境の改善を営繕担当と管理者が主となり取り組み、現場からの申し出や申し送りを行った。事業所の体制が整ってはいないため、今後の課題である。
- ・四半期（入退職時）一度の緊急連絡網の仮実施を行えていない。連絡網を流すことがあり、途中で止まってからの対応がなされなかった為、仮実施は必ず行い、問題点を探る。

- ・リスクマネジメント委員を中心に、緊急マニュアルの確認とロールプレイには定期に取り組めている。しかしロールプレイでは恥ずかしさやなどで、真剣さに欠ける。
- ・適宜に看護師・栄養士を中心に消毒（アルコール）、ジアノックの補充確認など、衛生面の確認は行えている。看護師に任せっきりになるのは課題である。
- ・月初めに車両担当による、車両の安全確認を行は行えている。その際に幽霊事故（キズ）が見つかる。
- ・福祉避難所としての役割（倉敷市、他法人、機関との連携）は、中期計画を参照。
- ・衛生に関する勉強会の実施状況は事業所内研修を参照。

9. 設備工事及び高額什器備品購入

- ・トイレのつまりや水漏れは、利用者の方が故意に行った場合や老朽化で年間を通して業者依頼を多々行っている。
- ・ボイラー関係での修理や水漏れ、配管からの水漏れを通して、年間を通して業者依頼を多々行っている。今後も老朽化は続くため早急に工事か機械の交換を要する。
- ・利用者の生活の質の向上の為、軽作業室の半部屋にスヌーズレンを取り入れた、アクティビティルームの設備（構造）や器具（ボールプール・サンドバックなど）の購入を行う。また居室の雰囲気作りでのシーツ・カバーの購入を行っている（完成までは約3か月）。

10. その他特記事項

- ・あしたばのコンサルテーションで河本佳子氏を迎えて、「尊厳・自立・ハビリテーション」を基とした、勉強会やオリエンテーリング、班会議での聞き取り、家族会での家族への勉強会などに取り組まれた。来年度は、9月までスウェーデンに戻られている為、アクティビティルームの使用方法の確立・河本氏の著書の読み込みからの9月からの取り組みを開始するなど、課題を頂いている。

11. 次年度の課題

- ・来年度は管理者・チーフ・キャップが退職や異動で大幅に交代する。あしたばは、再度支援・業務に携わる、すべての職員（パートや障がい者雇用も含め）で基礎とする基盤作り（言葉遣いや職員[支援の姿勢]・利用者[生活の姿勢]の姿勢、職員間の足並み、業務改善からのワークライフバランスなど）から固めていく必要がある。そして、本人支援・家族支援・地域支援を取り入れる中で、徐々に職員が3つの支援を総合的に捉えるように管理職が発信し組織で考えられる体制にしていく必要がある。
- ・利用者の生活の場をあしたばの生活介護でまとめるのではなく、本人の力が發揮できる場の拡大に努めていく（事業グループでの協力体制の強化）。
- ・28年度の新体制の下で、支援、行事、方針など、あしたばの歴史を引き継ぐものと捨てるものをはっきりと仕分けして、目標、方針の新たな見通しを立てる。

平成 27 年度事業報告書

【事業所名：共同生活援助事業所クムレ】【事業所責任者：村川大介】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

平成 27 年度は、「グループホームから地域へ」「施設からグループホームへ」といった地域移行に取り組んだ。本人の望む生活に向けての直接的な支援はもちろんのこと、それを支えるために必要な家族の力、地域や関係機関とのつながりを強めるため、連絡調整や行事等により交流を深めた。また、退居者の地域移行後のアフターフォローや、触法障がい者の受け入れ、緊急受け入れ等、新たな支援にも挑戦した。

重点目標	その人らしい生き方の支援
目標（値）	施策及び結果
利用者の夢（ニーズ）を探る。	個別支援計画立案時のアセスメントやモニタリング時ににおいて、利用者本人の考える将来像や希望を聞き取ったが、より深く利用者を知るためのセンター方式（パソコンセンタードケア）については、情報収集にとどまり導入には至らず。
地域生活への移行推進。	独居を希望していた男性利用者が、7月にグループホームを退居し、倉敷市上東にて独居を開始している。また、あしたばの男性利用者が 2 月よりグループホームに移行している。
利用者の QOL の向上。	食器洗いや洗濯といった日常生活上の訓練・支援を行い、また、通院等の社会生活上も一人でできるよう支援を行い、利用者本人でできることが増えた。休日余暇の過ごし方としては、移動支援利用の推進、友人作りのためのサロン活動への参加、また、情報の収集・発信方法としてのスマートフォンの使い方等を支援した。
重点目標	家族と支える利用者の暮らし
目標（値）	施策及び結果
家族に利用者本人の能力・実力・成長を実感してもらう。また、家族としての支援のポイントを伝える。	クラシス・やさい畠クムレと 3 事業所合同での家族会を開催した。成年後見制度の研修、将来を見据えて就労継続 A 型事業所の視察を行った。開催回数は 3 か月に 1 度を予定していたが、2 回にとどまっている。
家庭環境を知ることにより、利用者本	毎週帰宅する利用者に関しては、家庭連絡表により家

人の成育歴（生活歴）を知るとともに、本人の望む将来へ向けて家族との意思疎通を図る。	族との情報交換を密に行った。利用者の過去の聞き取りも行い、今まで知りえなかった環境や背景を知ることができた。家族との関係性が良くない利用者に関しては、時間をかけて職員と家族で関係性を構築し、家族と顔を合わすことができた利用者もいる。
重点目標	地域で支え合う環境づくり
目標（値）	施策及び結果
地域住民との交流を深め、障がいへの理解を求める。	地域の行事（祭りや運動会）への参加、地域住民を招く行事（花火大会・カフェ）の開催、また、利用者と安全パトロール（小学生の登下校の見守り）に参加することで、利用者と地域住民の交流の機会を確保し、顔の見える関係性づくりを行った。
地域住民等に事業所・サービス内容について理解してもらう。	グループホームの事務所・クラシスとクムレ上東がある庄桜苑団地において、日々のあいさつ、町内清掃（公園・ごみステーション）に加え、回覧板で法人の広報紙を回すなど、情報の発信を行い、事業内容について興味・理解を求め、定期的に声を掛けてくれる住民との関係づくりができた。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

地域福祉の拠点・受け皿となるべく、地域の関係機関とのネットワークの構築に努めた。しかしながら、福祉サービスの量と質の向上については、計画通りに利用者アンケート等が進んでおらず、質の向上には努めたが利用者ニーズとのマッチングについては疑問点が残る結果となった。

目標（値）	施策及び結果
グループホームの増設（サテライト型含む）	庄地区を中心に物件情報の収集を行ったが、立地条件や築年数、収支面等において課題があり、実際にグループホームの増設には至っていない。サテライト型については、研修先で実施事業所とのつながりはできたが、日程が合わず視察できていない。
地域のネットワークづくり	庄地区人権推進委員会へ加入し、また、ひろば栗の家プロジェクトを通して、保健師や地域包括等の関係機関とのつながりを得た。
サービスの質の向上と適正な運営	利用者アンケートは実施できていない。過去の指導監査の内容や、他事業所の指導監査の結果に基づき、契約書や重要事項説明書、マニュアル等の整備を行った。

2. 行事報告

恒例となっている地域行事に加え、平成27年度は今までに参加していない行事にも参加了。また、ただ参加するだけではなく、利用者が主体となるよう、地域住民との交流を

深めることに視点を置いた。行事の開催においても、前年度からの継続性をもたせ、徐々にではあるが地域とのつながりに寄与していると感じている。

行事名	実施月	内容	結果
桜花見	4月	さくらだいで桜の花見を行う。	世話人も参加し、交流を深めることができた。
バーベキュー	5月	クムレ栗坂にてバーベキューを開催。	入居者同士の交流につながった。
グループホーム入居者交流会	7月	ホテルに一泊し、行事等を通じて入居者同士の交流を行う。	他法人のホームとの入居者同士の交流ができた。
歓送迎会	7月	ピュッフェスタイルの体験と入退居者の交流。	新規入居者と退居者、元世話人等、交流を深めることができた。
花火大会	8月	地域住民との交流。	地域住民9名参加。
庄地区大運動会	10月	地域住民との交流と広報活動。	ホーム利用者もりレーの一員として参加。地域住民からの応援を受ける。
人権フェスタ庄 くらしきフォーラム	11月	地域住民との交流。	地域住民や元職員との交流により、利用者が楽しむことができた。
バレンタイン企画 (クラシスカフェ)	2月	地域住民との交流。	ホーム利用者との交流とともに、法人の事業についても知って頂くことができた。
ツーデーマーチ ふれあいウォーク	3月	地域を知り、地域住民と交流する。	声を掛け合える関係づくりができている。

3. 利用者・職員状況

4月から触法障がい者の女性1名を受け入れた。7月には独居以降のため男性1名退居。8月から女性新規入所者を1名受け入れた。11月には永眠により男性1名退居。12月には緊急受け入れとして男性体験利用者の受け入れ、2月からあしたば男性利用者1名がグループホームへ移行した。職員に関しては、配置基準は満たしているものの、世話人が不足した状態が継続し、2月に1名採用するに至ったのみである。

	クムレ上東	クムレ上東かえで	クムレ上東さくら	クムレ栗坂	計
利 用 者 定 員	7名	4名	4名	9名	24名
利 用 者 数	7名	4名	4名	9名	24名
入 居 率 (%)	100	100	100	100	100

	職員数	
	配置 基準	現 員
合計	3	3

※職員数は常勤換算。管理者・サービス管理責任者は常勤換算で通年 1 名配置。

4. 保護者（家族）との交流事業

年 2 回、クラシス・やさい畠クムレと合同で家族会を開催した。成年後見制度の勉強会と就労継続 A 型事業所の見学を行った。また、行事がある際にも案内を流し、花火大会やツーデーマーチにおいて、家族と一緒に参加することで交流を深めることができた。

5. 第三者評価に対する改善計画

第三者評価を受審していない。

6. 地域公益活動計画

計画に挙げていた、生活困窮者に対する無償の緊急ショートステイの受け入れは行っていない。

7. 事業所研修計画

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
SST（ソーシャルスキルトレーニング）とは	5月	職員・世話人	世話人に対し、SST の考え方・実践方法を伝えられた。
てんかんについて	7月	職員・世話人	てんかんに関する DVD を視聴しててんかんの種類・対応方法について学んだ。
防災について	9月	職員・世話人	地震・風水害について学び、危機感を持つことができた。
虐待について	11月	職員・世話人	市の虐待研修に基づきグループワークを行う。普段の支援を見直すきっかけとなった。
触法障がい者対応研修	1月	職員・世話人	触法障がい者に対する支援について理解を深めた。

リスクマネジメント研修	3月	職員・世話人	KYTについて学び、気づきの大切さを養った。
-------------	----	--------	------------------------

8. 防災・安全・衛生活動

避難訓練を年2回計画していたが、3月に火災および地震の避難訓練を行ったのみとなっている。倉敷市から福祉避難所としての指定を受けており、物資（水・毛布）を上東に備蓄している。衛生面に関しては、食中毒に関する研修を行い、各ホームにおいて手指消毒剤やペーパータオルを完備している。防犯に関しては、ボランティアとして小学生の登下校の見守り「安全パトロール・庄」に利用者とともに取り組んでいる。

9. 設備工事及び高額什器備品購入

7月 クムレ栗坂 自動火災報知機設置
12月 クムレ上東 ガス給湯器交換・下水道接続工事
2月 クムレ上東さくら 下水道接続工事

10.その他特記事項

11月にクムレ上東の男性利用者が末期のがんにより永眠。同居していた利用者をはじめ、就労先のクラシス、今まで関わったことのある人等で通夜、葬儀・告別式に参列し、お見送りをすることができた。亡くなった利用者に対しては寂しく、もっと支援ができたのではないかという思いがあるものの、利用者においては貴重な社会経験の場となった。空室利用として、隨時体験利用を受け入れた。

11.次年度の課題

計画の未実施が多く、スマールステップを意識しながらスケジュールを立てて実施していく必要がある。また、第三者評価の受審や制度改正に向けた準備、重度化対応等の問題が山積している。

平成 27 年度事業報告書

【事業所名：コトノハ】【事業所責任者：上村昌平】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

支援計画は、3ヶ月に1度振り返りの期間を設け、実施内容の確認を行っていった。そのなかでも利用者本人のニーズや家庭での様子を知るために、家族会の毎月開催や土曜開所日と同時に開催、面談を年間2回以上実施するなどし、意見・情報交換をより多く行った。地域との関係性作りは、広報誌や行事等の案内配布などを利用者と共に行うことや、稻作等の農業体験を行っていくなど、日頃からの地域の方との関係作りを心がけていた。

重点目標	その人らしい生き方の支援
目標（値）	施策及び結果
①利用者主体の生活を送る。	個別支援計画作成にあたり、心身の健康面、食事等基本的生活全般にかかるものを総合的な支援とし、さらに本人や家族からの要望に基づいて長期・短期計画を作成していく。3ヶ月ごとの振り返りと年間2回の面談を実施し、コミュニケーションも活発に行っていった。
重点目標	家族と支える利用者の暮らし
目標（値）	施策及び結果
①家族会との連携を図り、本人の今まで、今、これからを共に考える。	家族会は毎月開催され、奇数月は土曜開所日と併せて開催することで、勉強会や情報交換、音楽療法発表会等の行事などの催し物も開催することが出来ている。 懇談は年2回開催とし、事業所での懇談若しくは家庭訪問を実施することとし、実際の家庭で生活されている様子を見せていただきながら、事業所での支援を家庭で活かすことが出来ないかなどの話し合いを行っていくことが出来ている。
重点目標	地域で支えあう環境づくり
目標（値）	施策及び結果
①地域との交流を図る。	・農業と通しての地域との交流は、田植え・稲刈り等の節目では利用者や家族の方も参加し、体験を行っている。その他お飾り作りやとんとん等季節に応じた催し物にも声かけを行い参加いただいている。

- ・11月にはクラコトフェスティバルを開催し、地域や近隣の事業所等が集い催し物を開催。開催に際し、チラシ等の掲示や配付を行っている。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

- ・「利用者主体の支援計画に基づく支援の実施」として、利用者の視点から物事をみて個別支援計画の作成と実施、定期的な振り返りを行っていった。その元となる制度や障がい、権利擁護等についてを事業所内、専門研修等で再度学びながら実施していく。
- ・ひろば栗の家の設立に向けての準備と、稲作等の地域交流の取り掛かりとして、職員自らが参加していき、利用者や家族へ声かけ等していき、挨拶を通して関係作りを行っていった。

目標（値）	施策及び結果
個別支援計画書・評価書の見直し	年度途中より事業グループで統一していく方向となりワーキングを編成していこうとしたが、途上である。事業所単位ではその形に近づけていけるようにあしたば等との話し合いの場を持つなどしている。
地域交流スペース活用に向けた地域との交流・情報交換の実施	9月頃より建物の建設に向けての話し合い等を実施し、1月より有識者を座長として向かえ、ソフト面の話し合いを毎月開催している。

2. 行事報告

例年に習い行事を行っているが、音楽療法はこれまでの1月開催から7月開催とし、季節にあった曲の選定や衣装等の浴衣などを家族に用意してもらうなどして季節感のある催しとした。クラコトフェスティバルでは、屋内の実施となったが今までになり内容として、事業所でこれまで取り組んできたアート活動を来場された方にも体験してもらえるように、ワークショップの催しを行った。

音楽療法発表会（7月家族会同日実施）20名ほどの家族の方参加。

ふれあい旅行（姫路セントラルパーク）利用者、家族含め全員で90名ほどの参加。

行事名	実施月	内容	結果
音楽療法発表会	7月	音楽療法で取り組んだ成果を披露	七夕にちなんだ曲・衣装等を作成し、利用者・家族・職員ともに身体を動かすなどし、日頃の成果の発表の場となった。
ふれあい旅行	10月	利用者・家族・職員との日帰り旅行	行き先を姫路セントラルパークとし、普段送迎などで情報交換等を行うのが困難である家族等とのコミュニケーションを図つていった。

クラコトフェスティバル	11月	アートイベント、模擬店等	アート活動で行ってきたワークショップ等の実施や法人内外の事業所の作品展示や販売の実施。家族会の手話や職員によるステージ披露も行った。
クリスマス会	12月	作業収入における利用者への還元行事	受託作業工賃等を還元。大型商業施設に1日外出したり、事業所に家族等も招いて一緒にケーキ作りや食事会を行った。

3. 利用者・職員状況

職員状況は、年度当初人員配置体制（加算）を予定していたが、4月に入り体制が整わず約半年間変更する必要があった。その間利用者担当の変更や体制が整わず不十分な状態での支援を行うこととなっていた。9月以降は予定していた配置体制を確保することもでき、支援を行っている。

利用者状況は、2、3月にインフルエンザが流行したものの、大きく体調を崩す方も少ない状態であった。障がい支援区分の更新時期である方も多く、聞き取り場所として事業所を選定され本人、家族とともに職員の立会い日中の様子を伝えていった。

生活介護	
利 用 者 定 員	40名
利 用 者 延 数	9,804名
一日平均利用者数	36.3名
稼 働 率 (%)	90.7%
開 所 日 数	270日
平 均 区 分	5.2

月	人員配置	
	配置基準	現 員
合計	17.9(H27.4~8)	21.8
	21.1(H27.9~H28.3)	21.6

4. 保護者（家族）との交流事業

毎月の家族会の開催や、年2回以上の面談・家庭訪問を実施し、家族同士・職員との

コミュニケーションをとっていく機会を前年度よりも多く持つことが出来ている。家族亡きあの地域や在宅での生活を続けていくために、理事長に出席いただきグループホームの建設等に向けた話し合いの場を持つことや、地域交流スペース設立に向けて、家族会での意見の集約や会議の場への出席等を行っている。

5. 第三者評価に対する改善計画

- ・家族との情報共有の確実性を増すため、面談を年1回から2回に増やしている。懇談場所として、自宅へ家庭訪問も行なっており、利用者の生活の様子を見させていただきながら支援や生活についての話をしていくことが出来ている。
- ・班ごとに利用者主体・参加型の朝礼や、活動を幾つかある中から選んで参加してもらうなどの選択・決定を行い本人の意思確認等を実施。前年度より開始したクラブ活動等を含め、参加したい活動を選択していただく機会の増加等を図っている。

6. 地域公益活動計画

- ・生活困窮者に対する無償の緊急ショートステイの提供（食事・入浴を含む）は未実施である。

7. 事業所研修計画

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
制度改正等に伴う、勉強会	4月、 5月	全職員	新年度に入り事業に関する制度等の確認を年度初めの職員会議時に実施。
手洗い講習	5月	主として新採用職員 (全職員)	手洗いチェックカードを用いて実施。普段の手洗いでは雑菌がその程度残っているのかなど見えるため手洗いの重要性に気づいた。
緊急時対応シミュレーション	9月、1月	全職員	9月に緊急時対応の場面を想定して演習の実施。KYTは事例イラストを用いてのKYTを実施し、気づきの大切さを再認識した。
虐待防止についての勉強会	5月	全職員	山口県での虐待報道があったため、5月に実施。人権委員会により意見箱の設置、職員会議時に力

イドラインの唱和等を実施。

8. 防災・安全・衛生活動

年間4回以上の避難訓練を実施。火災、地震等を想定しての避難訓練を行っている。避難に係る時間は早くなっていることもあるが、緊張感をもって取り組みたい。法人の委員会等で事業所のある地区が水害にあった際などのシミュレーションもされているため、実際に訓練・演習等を行っていきたい。

9. 設備工事及び高額什器備品購入

なし

10.その他特記事項

1~9の項目以外で、事業所で特筆すべき点について記入下さい

11.次年度の課題

大切にしたい価値観の本人支援・家族支援・地域支援の3つの考え方を総合的に捉え、支援を行っていきたい。家族会にて親亡き後の生活についての話題も出てきているが、利用者の方が今何が自身で行うことが出来るのかなどを本人、家族等と話す機会をもち、住み慣れた地域での生活を継続していくためには、今・これから何をしていく必要があるのかを、共に考えていきたい。

事業運営としては、年度末から新年度にかけて新規利用契約者が5名おられる。事業所利用と併せて家庭訪問等を行い評価、計画を立てていきたい。それに伴い、人員配置体制も整え、今年度のように年度入ってからの変更等がないようにして、新年度を迎えていきたい。

平成27年度事業報告書

【事業所名：クラシス】【事業所責任者：笠行 実】

平成27年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果						
1、個別支援計画の充実。	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援計画は、毎年立て実施している。今年度も6月、9月、12月、2月の3か月に1回の経過報告を職員全員で行いながら、改善点、達成点を全員で共通認識をしながら行った。 自己決定を利用者が行う機会を増やし、自分で決める事にも重視して支援している。 						
2、工賃アップをはかる。	<p>工賃アップに関して ケーキ事業・新商品の開発（イチゴのパウンドケーキ、吉備古墳クッキー）</p> <table> <tbody> <tr> <td>清掃</td> <td>・質の向上</td> </tr> <tr> <td>内職</td> <td>・生産量のUP</td> </tr> <tr> <td>洗車</td> <td>・現状維持</td> </tr> </tbody> </table>	清掃	・質の向上	内職	・生産量のUP	洗車	・現状維持
清掃	・質の向上						
内職	・生産量のUP						
洗車	・現状維持						
3、家族会の開催。	<ul style="list-style-type: none"> 5月と9月に行っている。3ヶ月に1回開催することを話し合っていたが、9月以降は、行う事が出来ていない。 						
4、家族と一体となった取り組み。	<ul style="list-style-type: none"> 家族に事業所に来てもらい、どのような事をしているか知って頂く機会は持てた。そこからさらに一体となった取り組みまでは、行う事は出来ていないが、少数の家族の方には、野菜の調理法を教えて頂いたり、野菜の販売場所の情報提供を頂いたりする家族の方があつた。 						
5、地域で支えあえる環境作り	<ul style="list-style-type: none"> 広報誌の配布を行っている。 共同生活援助事業所と共同でイベントを2回行っている。地域の子どもを対象に手持ちの花火大会を行い、2月にバレンタインがありチョコレート作りを行っている。 地域の人に積極的に挨拶をし、地域の一員としての関わりを重視している。 						

（説明）

個別支援計画は、3ヶ月に1回の経過報告をし、評価点、改善点などを職員全員で話し合いをしていった。個々の担当利用者については、支援を行う事が出来ているが、作業班が4つあり、ケーキ、洗車、清掃、軽作業と分かれ、他事業の利用者の様子をなかなか共有できないこともあります、職員1人が複数の利用者を見て、総合的に支援していくよりも、作業班担当の職員がその利用者を支援していくようになっている。作業的に作業担当職員が利用者を支援していくことは、メリットもあるが、多くの職員の目が届きにくくなっているデメリットもある。

自己決定の重視に関しては、利用者に自己決定をする機会を設けている。作業の参加、行事の参加、日常の役割も自分たちで決め、掃除や昼食の当番も自分たちで決めるようにしている。当番とかの役割は、一人の人が複数の役割をするのではなく、利用者一人一人何かの役割を持ってもらうように支援をしていった。

家族会は、年度初めは、定期的に行う事が出来ていたが、後半は活動を行う事が出来ていなく、次年度は継続的な実施が課題となる。他の福祉施設の見学会を開いているが、その時は就労継続支援A型事業所の見学で、利用者の能力によって参加する家族の方に偏りが見られた。利用者が作業の方向性が次のステップを考えることが出来る家族は、参加しているが、今の現状に満足している方などは、不参加であった。就労継続支援A型の施設の見学、また、一般企業、また、就労継続支援B型とバランスよく見学を次年度は行っていくようにしたい。

地域との関係は、以前は広報誌を配るなどに留まっていたが、一步踏み込んだ地域交流を行っている。花火大会やバレンタインのチョコレート作りなど行い、はじめてクラシスの中に入ったと言う、地域の方もおられ、クラシスを知ってもらう活動から、顔見知りの関係になる活動になつたいたっており、次年度は顔見知りになる活動を増やしていきたい。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
庄地区にある人権推進委員会との関係の強化、またクラシスカフェを通じての地域交流を行う。	<ul style="list-style-type: none">人権推進委員会の会に毎回参加をしている。人権学習、人権フェスティバル、荘園の里祭りなどのイベントにも参加している。クラシスカフェを実施している。地域交流を図る目的で、クラシスに地域の人を招き、利用者、職員と地域の人と交流を図っている。第1回目は、参加者なしであったが、あと2回開催し、その際は、5~10名の方がカフェに来て下さり、交流をすることが出来ている。

（説明）

地域交流をさらに進めていくために、人権推進委員会との関係強化とクラシスカフェを行う事を目標にあげている。人権推進委員会は、庄中学校地区にある子どもから高齢者まで暮らしやすい地区を作り、差別のない社会づくりを目的とした集まりである。学校関係者から福祉施設、民生委員、交通委員、栄養士など幅広い地域の方の集まりであり、その方との関係を強化することで地域により、クラシスを知って頂く事が出来ると考えている。取り組みは、イベントの参加、委員会の参加など行っている。委員会の方との関係は、強くなっているが、来年度は、さらに裾野を広げていく方向も必要と感じている。

クラシスカフェは、地域の方に来て頂く手段の一つであり、カフェ実施のチラシの配布、告知など行うが、なかなか当日足を運んで下さる人は少ないので現状であった。昼の1時から開催と

いう主婦層なら来ることが出来る時間の問題もあったり、関係づくりが出来ていない中、来て頂くのも時期尚早のこともあり、隣の人に来て頂くことも次年度は考慮していく。

2. 職員配置と利用者状況

就労継続 B型	
利 用 者 定 員	20 名
利 用 者 延 数	5,769 名
一日平均利用者数	21.3 名
稼 働 率 (%)	106.5%
開 所 日 数	270 日
平 均 区 分	1.96

月	職員数	
	配置基準	現 員
合計	3	4.4

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
花見	4月	砂川公園で行う予定が、事業所内でバーベキューを行う。	季節を感じ、利用者同士の交流を図ることが出来ている。
招待ボウリング	6月	倉敷のアミパラでボウリングを行っている。	利用者の楽しみ、交流を図ることが出来ている。
日帰り旅行	11月	淡路島へ日帰り旅行を行っている。	利用者の楽しみ、交流を図ることが出来ている
初詣	1月	最上稻荷へ行っている。	季節を感じ、利用者同士の交流を図ることが出来ている。
新年会	1月	クラシスと合同で行っている。	季節を感じ、利用者同士の交流を図ることが出来ている。
歓送迎会	3月	クラシスと合同で行っている。	

4. 保護者（家族）との交流事業

今年度からクラシスとやさい畑クムレとグループホームの3事業所の利用者の家族のための家族会を行っている。4月に方向性を話し、3ヶ月に1回のペースで開催をする、事業所見学やNPO法人はれるやを招いて成年後見についての話をして頂くことなどを話している。

9月には、A型事業所の見学を行い、あじさいへ行っている。しかし、9月の開催以降家族が集

まる機会を作ることが出来ていない。

家族会は、家族の方が中心になり活動をする会であるが、3事業所の家族は、なかなか中心になって動く家族の方がないなく、職員中心になっている。その為、9月以降家族会と言いながら、家族への情報提供の場となっていっている。

平成28年度は、通所事業所は、コトノハの家族会に合流して行う案も出、平成28年4月の家族会でコトノハへ合流するかどうかも含め家族会を実施する予定である。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	15件
意見・苦情	未対応〇件	〇件
事故	発生〇件	6件

上記を受けての具体的改善活動

職員間の連絡のミス（利用者が通院をする、調子が悪い様子、職員の外出、電話連絡など）が何件かあり、職員各事業に別れ、情報共有をする事がなかなか出来ない状況であった為、申し送りノートを作成し、事務連絡と利用者に関する事に分けて記入している。申し送りノートを作成し、連絡ミスは、なくなっている。

6. 地域公益活動・地域との交流事業

地域のイベントには、参加しており、交流を図っている。

- ・公民館での、花の植え替え（年3回程度）
 - ・莊園の里祭り（11月、庄小学校グラウンドにて）
 - ・人権フェスティバル（12月、庄公民館にて）
- 共同生活援助事業所とイベント実施
- ・手持ち花火大会（7月、クラシスの玄関先にて）5名から10名参加
 - ・チョコレート作り（2月、クラシス1階にて） 5名から10名参加

7. 人材育成計画

① 新人育成のOJT活用について

重点的に指導を行った 項目	指導上留意した点と結果
	新人の配属がなしのため未実施

② 研修計画

(1). 内部研修

研修項目	月	参加者	結果

【専門研修】			
QC勉強会	5月	小西、笠行	福祉QCについて学んでいる。
てんかん	7月	小西、越智、小郷、守屋、笠行	てんかんについて学び、対応についても学んでいる。
救急法	7月	小西、越智、小郷、守屋、笠行	心肺蘇生、AEDの使用法を学んでいる。
防災について	9月	小西、越智、小郷、守屋、笠行	防災について学んでいる。
リスクマネージメント	10月	小西、越智、小郷、守屋、笠行	リスクマネージメントについて学んでいる。
【事業所内研修】			
虐待防止、権利擁護研修会	1月	全職員	虐待防止、権利擁護について学んでいる。

(2). 外部研修

研修項目	月	参加者	結果
【スキルアップ関係】			
B型、Ⅲ型事業所研修会	6月	笠行、守屋	B型のあり方、情報交換を行っている。
就労系研修会	12月	守屋	一般就労への取り組みなど学んでいる。
工賃向上研修会	12月	越智	工賃向上に関して学んでいる。
【組織性関係】			
経営セミナー	6～11月 (各月1回)	越智	営業、売上UPの方法など学んでいる。

③ その他（自己啓発援助）

8. 防災・安全・衛生活動

5月・・・避難訓練

（火事を想定して実施）

9月・・・避難訓練

（地震を想定して実施）

毎月・・・クラス前の溝掃除を実施。

3ヶ月に1回・・・地域の溝掃除、地域のゴミ拾いを実施している。

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

3月・・・日本財団よりスタッフワゴン購入

10. その他特記事項

クラシスの事業について

- ケーキ班（利用者5名）・・・年間300万円以上の売り上げ実績あり
企業などにも販売を行い売り上げを伸ばす
上東地区のイチゴ農園からイチゴを仕入れている
髪の毛混入もあり、服装を完全白衣、粘着テープ使用
- 洗車班（利用者4名）・・・年間250万円以上の売り上げ実績あり
利用者が4名から増えていない、洗車班利用者確保急務
洗車場所をクラシス前が手狭であり、あしたばの車はあしたばで、コトノハの車はコトノハで洗っている
職員の増員により、事業拡大の可能性大
- 清掃班（利用者7名）・・・あしたば、コトノハ清掃を実施
ケーキ班、内職班からのかけもち利用者有り
- 内職（利用者9名）・・・ネット折りを行う
売り上げは少ないが主要な作業であり、多くの利用者が実施

11. 総括及び次年度の課題

利用者に関しては、1名退所、1名亡くなり、減少傾向にある。さらに、1名高齢により、移動が困難になり、クラシスでの仕事が困難になり利用回数が減っている利用者もいる。登録利用者は、25名であるが、平成28年3月は、月平均20名程度である。まだ、5名は増やすことが可能なので、利用者確保が必要である。利用者確保に合わせ、利用者減少傾向の要因である利用者の高齢化の問題に取り組んでいく必要がある。クラシス利用者で60歳以上の方が6名在籍し（24%の割合）、何かしらの体の不調や体の機能の低下がある。高齢部門との連携、体力維持など対策を講じていく。いつまでも働きたい気持ちを受け入れ、安心安全に働くことが出来る環境も整えていき、より長く働けるようにしていきたい。

カフェ事業が次年度から新規に行うようになるので、カフェ事業に関して利用者、職員など準備をしていく。

地域交流も上東地区と栗坂地区にも広がり、上東地区は、共同援助事業所の職員と協力していく、栗坂地区は、コトノハ、倉敷学園、栗の家事業に絡めてすすめていく。

利用者の利用の在り方で、ゆっくり仕事をしていきたい人もいれば、多くの給料を稼ぎたい人もいる。工賃を上げる必要ばかりだとゆっくり作業したい人、高齢の人に支障があり、だが、ゆっくり仕事をしたい人を重視すれば工賃をたくさん欲しい人に支障がある。どの利用者にもあった働き方が出来るクラス作り、作業班や日課など一人一人が働きやすい環境作りが次年度特に必要になるので、調整し、配慮していきたい。

平成 27 年度事業報告書

【事業所名： やさい畠クムレ】 【事業所責任者： 小林 章伸】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

平成 25 年 11 月に開所し、2 年目を迎えていた。1 年目は、農業の充実に力を入れていたが、今年度は職員も増え、支援の充実にも力を入れている。個別支援計画も職員が増え、より細かい支援を行う事が出来ている。しかし、毎日利用する利用者には、継続的な支援を行う事が出来ているが、利用日数が少ない利用者は、単発的な支援になり農業に取り組むことへの支援が中心になっていた。個別支援は、本人の出来ることを増やすこと以外に、気持ちの安定をどのように図るか、集中して作業に取り組むことなど多岐にわたっている。

個別支援計画に合わせて、評価をする取り組みも行っている。ハードな農作業であり、外へ出て作業をするだけで評価の対象になるが、何をどのように取り組んだかにより、個々の利用者へ評価し、作業の取り組みのモチベーションが上がるよう評価（＝賞賛）も含め行っている。

家族会は、年度初めは、定期的に行う事が出来ていたが、後半は活動を行う事が出来ていなく、次年度は継続的な実施が課題となる。

地域との関係は、畠を増やしたこともあり、三須地区、岡谷地区、三軒屋地区と顔を合わせる地域の方も増え、こちらからも挨拶をし、また、地域の方も挨拶をして下さる良好な関係づくりが出来ている。

重点目標	その人らしい生き方の支援
目標（値）	施策及び結果
個別支援計画の充実	<ul style="list-style-type: none">個別支援計画は、毎年立て実施している。今年度も 3 か月に 1 回の経過報告を職員全員で行いながら、改善点、達成点を全員で共通認識をしながら行った。 細かく支援を行えた利用者もいるが、細かく行う事が出来なかった利用者もいる。次年度は、さらに P D C A を職員全員が意識して行う必要がある。
利用者一人ひとりの評価	<ul style="list-style-type: none">個別支援に合わせての利用者一人一人評価している。毎日の作業内容を評価する利用者もいたり、期間を区切って何かが出来た事に対する評価の利用者もいた。

重点目標	家族と支える利用者の暮らし
目標（値）	施策及び結果
家族会の開催	・5月と9月に行っている。3ヶ月に1回開催することを話し合っていたが、9月以降は、行う事が出来ていない。
家族と一緒にとなった取り組み	・家族に事業所に来てもらい、どのような事をしているか知って頂く機会は持てた。そこからさらに一体となった取り組みまでは、行う事は出来ていないが、少数の家族の方には、野菜の調理法を教えて頂いたり、野菜の販売場所の情報提供を頂いたりする家族の方がいた。
重点目標	地域で支えあう環境づくり
目標（値）	施策及び結果
事業所の周知活動	・地域への情報提供は、広報誌が出来るたびに行ってきている。さらに事業所に柿の木があり、柿が出来ると地域に柿を配り、挨拶をしている。畠が増えたことにより、畠の近くの住民とは、よく顔を合わすこともあり、会話することは増えてきている。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

利用者確保のため、支援学校へのあいさつ回り、地域生活支援センター（倉敷、真備、早島）、千人雇用センターへのあいさつ回りを行ってきている。見学及び実習生は、毎月のように1名は来ているが、畠作業がきつい、精神障害の方は、知的障害の方との相性（声が大きい、パーソナルスペースへの侵入、会話の成立さなど）があり、契約には結びつかないケースもたくさんあった。

しかし、まきび支援学校からの実習生の受け入れを行い、2名中2名の方が、平成28年4月から利用することにつながり、平成28年4月は、登録利用者16名からのスタートを切る事が出来る。

目標（値）	施策及び結果
登録利用者20名の確保	・登録利用者14名で年度初めは、スタートしたが、1名9月に退所し、13名になり、なかなか増減していないが、2月にあしたばから地域移行した利用者が1名増えている。

2. 行事報告

行事は、年間計画通り、行なうことが出来ている。利用者も楽しく参加をする事が出来ている。

行事名	実施月	内容	結果
入社式	4月	事業所内で新人利用者1名の入社式、職員1名の歓迎会を行っている。	支援学校を卒業し、入社したことを実感している。他利用者との仲間意識も高まっている。
花見	4月	砂川公園で行う予定が、事業所内でバーベキューを行う。	季節を感じ、利用者同士の交流を図ることが出来ている。
招待ボウリング	6月	倉敷のアミパラでボウリングを行っている。	利用者の楽しみ、交流を図ることが出来ている。
日帰り旅行	11月	淡路島へ日帰り旅行に行っている。	利用者の楽しみ、交流を図ることが出来ている。
初詣	1月	最上稻荷へ行っている。	季節を感じ、利用者同士の交流を図ることが出来ている。
新年会	1月	クラシスと合同で行っている。	季節を感じ、利用者同士の交流を図ることが出来ている。
歓送迎会	3月	クラシスと合同で行っている。	利用者同士の交流を図ることが出来ている。
スワンベーカリー見学	2月	スワンベーカリーへ行き、作業内容を見、パンを食べている。	他施設への見学をし、見聞を広めている。

3. 利用者・職員状況

8月に利用者が1名入院し、さらに9月には岡山から来ている利用者が通勤に時間がかかる理由で、家の近くの事業所にかわるために退所している。9月から1月まで利用者が増えない状況でしたが、2月にあしたばからの地域移行でホームで生活することになった利用者が、日中活動の場としてやさい畠クムレを利用することになり、1名増えているが、増減0人であった。

総社市からの新規利用は、千人雇用で総社市の障害手帳を持つ方は、すべてどこかの事業所に行っていることもあります、総社市の方を増やすことは、とても困難と考えられる。倉敷市、岡山市からの利用者確保も送迎の関係で難しいこともあります、利用者を増やすことは、難しい状況であった。

就労継続 B 型	
利 用 者 定 員	20 名
利 用 者 延 数	2,605 名
一日平均利用者数	9.64 名
稼 働 率 (%)	48.2%
開 所 日 数	270 日
平 均 区 分	3.57

月	職員数	
	配置 基準	現 員
合計	4	4

4. 保護者（家族）との交流事業

今年度からクラシスとやさい畠クムレとグループホームの 3 事業所の利用者の家族のための家族会を行っている。4 月に方向性を話し、3 ヶ月に 1 回のペースで開催をする、事業所見学やNPO 法人はれるやを招いて成年後見についての話をして頂くことなどを話している。

9 月には、A型事業所の見学を行い、あじさいへ行っている。しかし、9 月の開催以降家族が集まる機会を作ることが出来ていない。

家族会は、家族の方が中心になり活動をする会であるが、3 事業所の家族は、なかなか中心になって動く家族の方がいなく、職員中心になっている。その為、9 月以降家族会と言いながら、家族への情報提供の場となっていました。

平成 28 年度は、通所事業所は、コトノハの家族会に合流して行う案も出、平成 28 年 4 月の家族会でコトノハへ合流するかどうかも含め家族会を実施する予定である。

5. 第三者評価に対する改善計画

外部で行う作業が多く、手順書作りをおこなっている。安全面を配慮し、利用者の特性がどのようなものかを記した、手順書作りをしている。

6. 地域公益活動計画

11 月に山手ウォーキング大会、3 月に山手健康福祉フェスティバルに参加している。どちらも地域のイベントで、地域にある事業所と言う事で参加の依頼を受けており、参加している。

11 月のウォーキング大会は、参加者 800 名程度で里芋を販売している。昨年も販売をしており、昨年も買い美味しかったと言って買っていくお客様もいた。ウォーキング大会は、販売だけの参加であったが、来年度は、実際に歩く方の参加もしていくのも効果的と思われる。

3 月の健康福祉フェスティバルは、山手地区の民生委員、愛育委員、栄養士会、福祉施設、子育て関係、高齢関係の方が集まったイベントで、昨年に引き続き参加して

いる。今年度は、販売をする物が少なかったが、他団体との交流、あいさつなど売り上げだけではない効果は多く得ることが出来ている。

7. 事業所研修計画

利用者の支援に関することや、農業に関することなどの研修を受け、その事を全職員に伝える事で研修としている。支援のあり方や農業の向上に向けて、職員が認識を合わせることが出来ている。

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
触法障がい者支援について	9月	職員全員	触法について学び、どのように支援するか学んでいる。
Cネット福祉 就労研修報告会	11月	職員全員	農業に関する就労支援の実践報告を聞いている。
虐待防止・権利擁護研修	1月	職員全員	虐待防止、権利擁護について学んでいる。

8. 防災・安全・衛生活動

9月・・・避難訓練

(火事を想定して実施)

(岡ハートクリニックの駐車場へ避難するまで2分かかっている)

毎月・・・三須の公衆トイレの掃き掃除を農作業後に行っている。

3ヶ月に1回・・・地域の溝掃除、地域のゴミ拾いを実施している。

9. 設備工事及び高額什器備品購入

10月・・・電子レンジを購入し、焼き芋作りに使用している。

2月・・・床板が落ちそうになっているので、張替えを行っている。

10.その他特記事項

建物の老朽化が目立って来ている。定員20名確保を目標に挙げているが、定員20名を受け入れることが可能な建物であるか疑問である。圧倒的な安心安全な建物にするために、床の張替え、畳の張替え、屋根瓦の葺き替えなど早急に対応する場所がある。

11.次年度の課題

平成27年度は、畑も増え、作付けに関しては、ある程度のベースが出来ている。

畑4箇所での収穫高も200万円程度あり、作付け計画をしっかりし、春や冬の時期

に作る作物を増やせば、更なる収穫高を見込めると考えられる。

利用者も平成27年度は、増減がなかったが、平成28年度は利用者2名プラスでスタートをする事が出来、登録利用者も16名になり、定員20名という数字が見えてきている。まきび支援学校も卒業生が次年度も多い事から、やさい畠クムレでの実習をして頂き、契約に結びつける事が期待できそうである。

次年度の課題として、工賃アップが大きな課題になる。工賃を上げるために、収穫高をあげる必要があり、そのためにも6次産業化を形にしていく必要がある。平成27年度も勉強会に参加したり、他の福祉施設から加工品について教えてもらったりと、6次産業へのステップは、上っている。今年度にスケジュール化をし、何をいつまでにしていくか、どのような加工品を目指し、作付けと連動していくかなど、スケジュール化を今年度は、作成していきたい。そのためにも、やさい畠クムレ単独では、かなり難しいと思われるので、法人の力も借りながら実施していきたい。

また、登録利用者16人になり、事業所が手狭になってきている。その事も、事業所改修も含め、どのようにしていくか、床が抜ける大きな事故が起きない前に対策をとっていく必要がある。

送迎に関しても、職員の負担が大きくなるので、送迎専属のパートなど、職員の負担も分析し、畠に力を入れ、支援にも力を入れることが出来る体制作りも必要である。

平成 27 年度事業報告書

【事業所名： なないろ 】【事業所責任者： 稲垣 俊吾】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

重点目標	その人らしい生き方の支援
目標（値）	施策及び結果
利用者ニーズの把握、実現をめざす。	<p>(居宅)</p> <ul style="list-style-type: none"> サービス担当者会議へ参加、本人、家族ニーズの把握に努めた。 フェイスシート、週間ケア計画などへ本人、家族ニーズを反映させ、確認を行なった。 定期的に事業所内でケース情報を共有する場をもち、統一した支援の提供を行なった。 <p>(日中)</p> <ul style="list-style-type: none"> 常勤職員で会議の場を持ち、情報共有を行なった。 新規契約の際、保護者との面談実施。
ヘルパー業務において、複数で対応できる体制作りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 意図的に支援の際、複数職員で同行する機会を設け、引継ぎを行なった。 配慮を要すケースについては支援書、支援内容について書面にて伝達した。
日中一時支援においては、昨年度実施したアンケート結果を元に、改善を行う。	
重点目標	家族と支える利用者の暮らし
目標（値）	施策及び結果
日中一時支援において、家族間交流のきっかけを作る。	<ul style="list-style-type: none"> 座談会を 11 月実施している。
日中一時支援の利用者の卒業後の生活を共に考えていく。	<ul style="list-style-type: none"> 座談会の中でも、話題の中心となっており、28 年度中に勉強会を開催予定。
重点目標	地域で支えあう環境づくり
目標（値）	施策及び結果
なないろの事業を近隣住民に知ってもらう。	

福祉大学のボランティア受け入れ体制を作る。	・12月クリスマス会において、県立大学学生5名を受け入れした。
-----------------------	---------------------------------

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

27年度の振り返りの概要を5行程度でここに記入してください。

27年度に中期経営計画に基づき立てた目標(どの様なことに取り組もうとしたか実施しようとしたか又サービスの質をどの様に向上させようとしたか、その為に何をしようとしたか)を具体的に記入し、その結果がどうであったかをここに記入してください。

目標（値）	施策及び結果
目に見えるサービスの変化 利用者満足の向上	・ヘルパー来訪時に現状の支援について面談を実施した。 ・座談会による情報発信
現在のサービス問題・課題把握	・課題把握を行い、問題の解決にあたった。
ボランティアの育成	

2. 行事報告

27年度、日中一時支援

行事名	実施月	内容	結果
お花見	4月	季節感を味わう	22名参加
動物園見学	5月	生き物と触れ合う	17名参加
博物館見学	6月	見聞を広める	18名参加
陶芸体験	7月	創作を体験する	20名参加
張り子の虎作り体験	9月	創作を体験する	11名参加
芋掘り体験	10月	野菜の収穫を体験する	18名参加
紅葉狩り	11月	季節感を味わう	15名参加
クリスマス会	12月	季節感を味わう	20日…17名 26日…18名 参加
初詣	1月	季節感を味わう	17名参加
プラネタリウム鑑賞	2月	見聞を広める	18名参加

イチゴ狩り	3月	季節感を味わう	18名参加
-------	----	---------	-------

3. 利用者・職員状況

居宅介護

前年度に比べ稼働時間減。平成27年度途中での契約ヘルパー、年度末での正規職員退職や本年度途中での休職発生による人員の不足を補充できなかった。人員の確保による、契約、稼働時間の向上が課題である。

●訪問介護事業

介護給付				予防給付			
一日平均利用者数	月間訪問件数	年間訪問件数	サービス提供時間	一日平均利用者数	月間訪問件数	年間訪問件数	サービス提供時間
1.4名	44.1件	529.0件	529.0時間	1.5名	45.5件	546.0件	546.0時間

●居宅事業

	居宅介護	行動援護	重度訪問介護	移動支援
一日平均利用者数	11.4名	1.2名	一名	一
月間利用件数	347名	36.0名	一名	34.2件
年間利用件数	4,162名	432.0名	6.5名	411.0件
サービス提供時間	7,027.0時間	1516.5時間	29.0時間	2,596.0時間
開所日数	365日	365日	365日	365日

●日中一時

	日中一時
一日平均利用者数	14.8名
月間利用件数	378名
年間利用件数	4,532名
サービス提供時間	4,444時間
開所日数	305日

4. 保護者（家族）との交流事業

日中一時支援で、初めての試みとして家族座談会を11月に開催した。小学校低学年から高校卒業直前の保護者8名集まった。学校卒業後進路について考え始めている方も多く、先輩の母親から、アドバイスを受ける姿も見られた。今後は開催回数を検討し、地域生活支援センターへ講師依頼を行い、卒業後の進路をテーマとした勉強会を開催したいと計画中である。

5. 第三者評価に対する改善計画

- 将来を見通した事業内容の検討

居宅介護においては利用者に対し、複数の職員で対応できるよう訪問時の同行を進めた。職員減により、サービス提供体制の見直しを余儀なくされた。事業所の方針を明確に示し、

得意分野での拡大を行なう。

6. 地域公益活動計画

なし

7. 事業所研修計画

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
60周年記念研修旅行	11	6名	京都・南山城学園見学
虐待について	7月	12名	虐待に関する統一した考え方を持つことができた。

8. 防災・安全・衛生活動

- ・防火計画の策定

9. 設備工事及び高額什器備品購入

- ・車両（日中一時送迎用）2台…合計 1,070,000 円

10.その他特記事項

1~9 の項目以外で、事業所で特筆すべき点について記入下さい

11.次年度の課題

人件費、老朽設備の更新、車両故障など経費の増加に伴う支出増、収入減により経営的に厳しい一年となった。パートタイムでの職員増を図り、ニーズの多い時間帯へ投入できるよう注力する。活動場所が一か所に統合されたのを機に、業務の効率化、見直しを図りたい。

平成 27 年度事業報告書

【事業所名：倉敷地域生活支援センター】【事業所責任者:小橋友子】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

本人支援、家族支援、地域支援の 3 つを柱とし、事業計画を立案実施している。事業計画に具体的な実施時期を盛り込んだものは予定していたものはほとんど実施することが、できている。実施時期があいまいなものや、具体策が結果として形の見えないものについては効果の検証が上手くできていないものもある。次年度への改善点課題点も見つかっており、今年度の成果を次年度に活かしていきたい。

重点目標	その人らしい生き方の支援
目標（値）	施策及び結果
本人のニーズを把握し、支援に活かしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・適切なアセスメントの実施：随時実施している。アセスメントの見直しの時期を決めていなかったため、整理をし実施した方がより確実に取り組めると思われる。 ・ケース検討：月 1 回職員会議において実施。年 2 回（10 月、3 月）は居宅と合同で行なっている。時に職員会議にて相談員以外が担当したり、実践研究発表等に対応したため（4 月、5 月、9 月、12 月、1 月）ケース検討でなく勉強会を実施した月がある。 ・サービス提供事業所との連携：利用者のモニタリング時期に応じて適宜実施できている。 ・サロン活動の利用者の利用目的を明確にする：4 月以降にはじめてサロンを利用する際に実施をし、利用目的を明確にしたうえでの関わりをしている。サロンの利用台帳において、利用目的を記載する項目欄がなく備考欄に記入しているため次年度改善を行なう。
重点目標	家族と支える利用者の暮らし
目標（値）	施策及び結果
利用者の暮らしを考える時に、公的サービスばかりで支えるのではなく、家族にも役割をもって関わってもらうようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・計画相談において、ご家族がいる人については家族の役割を明記する：実施できている。家族の役割を伝えやすくなっている。計画相談以外の人に対して家族の役割を伝えていることを記録に残していく工夫が今後必要。
家族に適切な障がい理解とサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の利用者家族に対してはモニタリング時に話を

	<p>理解をしていただく。</p>	<p>する：実施できている。次年度は個別での説明だけでなく、サロンの場を活用し本人・家族・地域の方へ後見人制度の説明会を実施する予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人の利用者家族に対して、家族会の場を利用し説明をする必要がある場合には積極的に参加する：家族会で説明する機会がなく、実施には至っていない。
重点目標		地域で支え合う環境づくり
目標（値）		施策及び結果
<p>障がいがあっても暮らしあげたい倉敷地域にしていく。</p> <p>地域の方に事業所、障がい者の存在を知っていただく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第11回くらしきフォーラムの開催：一般の方への障がい者への興味や関心を持っていただけるよう啓発活動を行う予定としており、11月8日に実施し1436名来場。障がい福祉に興味のない方を対象としたため、あえて講演をしなかった。障がいについてより深く知っていただくために、次年度は講演を含めて障がいを感じれる内容を充実させる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所周辺の地域住民と障がい者との交流の場を設ける：サロン地域交流会として9月と1月で実施。地域の方がそれぞれ、6名、4名参加。また、サロンイベントに町内の方に講師をしていただいたり、菅生学区コミュニティ祭り、菅生学区老人会にて啓発活動を行なっている。地域の方より年2回開催は多く、気が引けるとの意見、また、無料だと申し訳ないとの意見が出てきている。9月のBBQの方が1月のけんちん汁より地域からの受けは良かった。また、地域に子どもや若い夫婦もいることが分かり、夏休み期間や土日の実施がより効果があると思われる。そのため、次年度は夏の地域交流は夏休み期間に実施する。 ・HPの活用：担当者を決め、法人でHP更新ができる時期を除き毎月実施している。サロン行事について中心にHPに掲載していたが、行事開催からHP更新が遅れることがあった。行事後更新する期日を決めて実施していくとより効果的だと思われる。次年度はイベント開催後1週間以内にHPを更新するよう更新時期を定める。 ・広報誌の発行：サロン通信を毎月25日に作成、配布。配布日を25日と決めていたため、遅れることなく計画的に作成、配布ができており、利用者の方が広報誌を関係機関に持つて行く事を喜びとされるなどの効果も出ている。次年度はよりI型のエリアを意識し、高齢者施 	

設との連携をはかるためエリアの高齢者支援センターへも配布を行う予定。
・事業所周辺のゴミひろい：毎月職員会議前に実施。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

中期計画の1年目ということで、まずできることを計画に入れて実施している。明確に今年度実施すべきことを上げたため、実施がしやすかったこともある。相談支援の見識を広めるために担当に分けて研修に参加をし、事業所での伝達研修を行なうことで、知識が身についている。地域との関係作りに対しては地域の方と顔見知りになることを目的にイベントに招待しているが、料金や開催頻度にご意見を頂いている。着実に顔の見える関係は築けており、声をかけていただける回数も増えている。次年度の計画では一歩進めたものを目指していきたい。

目標（値）	施策及び結果
<p>ワンストップ相談窓口の整備とチームアプローチの構築にむけて、生活困窮者支援に取り組む。</p> <p>相談支援員の見識を広め、さまざまな相談に事業所として質の高い対応ができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷市生活自立相談支援センターと協力し、支援調整会議に呼ばれた際には出席をし、意見を述る：実施している。 ・相談員それぞれの得意とする分野をつくり、事業所においてそのことに詳しい相談員を作る：担当を決め、自立支援協議会の各部会、研修会に参加している。また、担当者が他のスタッフにも情報を伝えるために、朝礼や研修報告会を実施。 ・定期的に関わりを持っている人（計画相談対象者）に対しては職員が2人体制で関わりを持ち協力して対応をすることができる体制を構築するとともに、2者で支援の検討をすることで相談の質の担保を行なう：初回訪問等に複数で訪問し、職員一人での抱え込みが減少されている。
<p>関係機関や地域の社会資源との顔の見える関係づくりに対し、今年度は地域の方と共に協働していく形を目指しますは顔見知りとなる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年目はサロンのイベントに参加していただき顔見知りになるところからはじめ、5年後には地域の方ともにイベントを企画できるようにしていく。イベントを共に企画することで、困ったときに相談しあえるような関係性を事業所と地域とがもつことを目標とする：事業所周辺の地域住民と障がい者との交流の場をサロン地域交流会として9月と1月で実施。地域の方がそれぞれ、6名、4名参加。また、サロンイベントに町内の方に講師をしていただいたり、菅生学区コミュニティ祭り、菅生学区老人会にて啓発活動を行なうなど地域との交流を行なっている。次年度は後見人制度の説明会に当事者、家族だけでなく地域の方にも声をかける。

2. 行事報告

今年度は、前年度に比べてイベントを増やし、イベントによって利用者が多い日があった。また、今年度から始まったにこにこクッキングでは、利用者の方から好評を得ている。毎回参加メンバーは異なり、利用者の方も調理への関心度が高く感じられた。また他の地域活動支援センターⅠ型や行政からもにこにこクッキングの定期開催について評価を頂いている。来年度は利用者主体のイベントを実施していきたい。

行事名	実施月	内容	結果
後楽園へお花見に行こう (4月10日実施)	4月	花見、岡山イオンでの買い物の実施。	参加人数：利用者4名・職員2名 場所：後楽園 金額：利用者負担額620円+各自食事 法人負担：2800円（職員交通費代・入場料代）
詐欺被害防止研修 (5月13日実施)	5月	倉敷警察署生活安全課の宮野様を講師に招き詐欺の説明、被害状況など説明を受ける。	参加人数：利用者15名・職員10名 場所：センターサロン
にこにこクッキング (5月21日実施)	5月	1人暮らしの方・地域移行を考えている方、料理が好きな方などに対し自宅で簡単にできる調理法を学ぶ。 ・真ん丸おにぎり ・一口ドッグ	参加人数：利用者6名・職員2名・管理栄養士2名 参加費：300円
笑いヨガ (5月28日実施)	5月	西倉先生を講師にお招きし、笑いヨガを指導を受ける。	参加人数：利用者7名・職員1名
招待ボーリング (6月11日)	6月	アミバボーリングの招待ボーリングに参加。参加前にびっくりドンキーで昼食。	参加人数：利用者5人・職員2名 利用者交通費：860円 法人負担：2340円（職員交通費駐車代）
にこにこクッキング (6月18日実施)	6月	・カレーピラフ ・具たくさん野菜スープ ・ラッシー	参加人数：利用者6名・職員5名・他事業所見学者1名 参加費：300円
映画鑑賞 (7月10・19日実施)	7月	映画鑑賞	参加人数：利用者5名

にこにこクッキング (7月 24日)	7月	・サラダそうめん ・里芋マーぼー ・オレンジゼリー	参加人数：利用者 6名・職員 4名 参加費：300 円
サロンミニ祭り (8月 20日)	8月	・カップ寿司 ・フランクフルト ・カキ氷	参加人数：利用者 6名・職員 7名 参加費：300 円
地域交流バーベキュー (9月 17日)	9月	地域の方とのふれあい交流会。バーベキューを実施。2回目の開催。	参加人数：地域の方 6名・利用者 5名・職員 9名 参加費：利用者 1000 円・法人負担 17500 円
にこにこクッキング (10月 15日)	10月	・フライパンピザ ・りんごのコンフォート ・かぼちゃのスープ	参加人数：利用者 6名・職員 5名 参加費：300 円
サロン旅行 (10月 18日)	10月	蒜山シンギスカン食べ放題・湯原足湯	参加人数：利用 10 名・職員 3 名 参加費：3500 円
芋掘り (11月 5日)	11月	やさい畠クムレにて芋掘りを実施。	参加人数：利用者：2 名・職員 1 名
美観地区めぐり (11月 17日)	11月	食欲の秋・芸術の秋を感じる。	参加人数：利用者 4 人・職員 2 名
にこにこクッキング (11月 19日)	11月	・きのこモリモリ洋風スープパスタ ・蒸し鶏の中華風サラダ ・抹茶&プレーンどら焼き	参加費：利用者 5 名・職員 4 名・他事業所見学 1 名 参加費：300 円
招待ボーリング (12月 5日)	12月	倉敷心身障がい者招待によりボーリングに参加。	参加人数：利用者 9 名・職員 1 名
しめ縄つくり (12月 12日)	12月	地域の方を講師に招き、しめ縄作りを行なう。	参加人数：利用者 7 名参加・職員 1 名
クリスマス会 (12月 25日)	12月	クリスマス会を実施。	参加人数：利用者 5 名参加 参加費：利用者負担 500 円+昼食代
地域交流行事 (1月 14日)	1月	せんざい・けんちんうどんの調理。	参加人数：地域の方 4 名・利用者 6 名・職員 8

			名 参加費：利用者負担： 300円 法人負担：1200円
初詣 (1月15日)	1月	阿智神社への初詣を実施。	参加人数：利用者4人・職員2名 参加費：利用者負担昼食代のみ 法人負担：駐車場代500円
にこにこクッキング (1月21日)	1月	• 1人鍋 • 味噌焼きおにぎり	参加人数：利用者6名・職員8名・利用者負担300円
豆まき (2月3日)	2月	節分の日に豆まきを実施。	参加人数：利用者6名・職員2名
にこにこクッキング (2月18日)	2月	• パン • ハートのハンバーグ • スープ • ミルクココア餅	参加人数：利用者5名・職員2名・ 参加費：300円
映画鑑賞 (2月20日)	2月	映画鑑賞	参加人数：利用者6人・職員1名
にこにこクッキング (3月17日)	3月	茶話会 来年度の話 ティータイム 座談会	参加人数：利用者4人・職員4名 参加費：300円
科学体験～ライフパーク～ (3月24日)	3月	ライフパークで科学体験及び施設体験を実施。	参加人数：利用者5人・職員2名 法人負担：2,100円

3. 利用者・職員状況

年度途中で管理者の変更等発生しているが、大きな問題になることなく事業所運営は行なえている。サービス等利用計画の広まりに伴い、相談内容が直接支援から、相談支援専門員への支援、指定相談支援事業所の紹介、困難事例への対応等へ変化して来ている。

＜地域活動支援センターⅠ型＞

27年度合計	実利用者数	延利用者数	身体	知的	精神	児童	その他
訪問	183	735	125	243	294	68	5
来所	54	194	3	109	55	27	0
同行	59	188	19	108	57	1	3
電話	373	3253	577	1011	1259	388	18
電子メール	22	60	15	17	28	0	0

ケア会議	69	110	21	34	37	16	2
関係機関	122	425	87	163	119	50	6
その他	25	32	8	6	15	2	1
合計	400	4997	855	7691	7864	552	35

＜住宅入居等支援事業＞

27年度合計	実利用者数	延利用者数	身体	知的	精神	児童	その他
訪問	68	472	115	107	193	44	13
来所	36	69	3	15	33	14	4
同行	39	128	10	32	75	5	6
電話	151	1409	363	411	440	168	27
電子メール	3	5	3	1	0	1	0
ケア会議	34	42	9	10	5	18	0
関係機関	35	81	27	15	31	7	1
その他	0	0	0	0	0	0	0
住宅入居者数	18	18	1	0	17	0	0
合計	180	2206	530	591	777	257	51

＜サービス等利用計画＞

*月遅れ請求は本来のサービス提供月にて計上

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計
プラン	者	5	4	2	4	7	4	4	3	1	1	1	3	39
	児	11	4	0	0	0	1	3	0	0	0	1	1	21

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計
モニタリング	者	5	5	18	16	12	16	15	15	22	17	9	20	170
	児	0	1	0	6	1	7	4	5	0	3	1	16	44

4. 保護者（家族）との交流事業

なし

5. 第三者評価に対する改善計画

平成28年2月1日にメイアイヘルプユーの第三者評価を事業所として始めて受けている。まだ報告は届いていないが、以下の点の指摘を受け、改善をおこなったり、次年度改善できるように計画している。

- ・エンパワメントについて事業計画に入れる⇒次年度の事業計画におり込んでいる
- ・利用者満足に関するアンケートを実施⇒次年度9月に実施予定
- ・利用者尊重やプライバシー保護の姿勢をすべての書類に明記⇒入れれる書類より対応中

- 虐待受付を別シートに作成⇒次年度より相談受付表、保存ファイルを作成予定
- 第三者委員について重要事項説明書に記載⇒次年度重要事項の更新を行う予定
- 書類の記録、保存、廃棄に関する書類を作成⇒作成済み
- サロンのイベント・勉強会は当事者にやりたいことを述べて貰う
⇒意見集約を行なっており、次年度よりイベントに利用者の意見を反映させていく。
- 苦情対応について法人書式に利用者・家族へのフィードバックの記入欄を追加
⇒リスクマネジメント委員会へ伝える
- 後見人制度の勉強会の実施⇒来年度事業計画におり込み、サロンを活用本人・家族・地域の方を対象に実施予定。

6. 地域公益活動計画

生活困窮者に対する無償の緊急ショートステイの提供（食事・入浴を含む）を法人内の他事業所と協力し行なうことを計画していた。生活困窮者ではないが家出をした障がい者を共同生活援助事業所クムレで対応してもらうなど法人内で連携をとっている。

7. 事業所研修計画

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
法人内事業所交流研修	5月～9月	高見、久山、三石	法人内の事業所を知り、直接支援等の現場を体験することで、新たな気づきが得られている。
事例検討	6、7、8、 10、11、 2、3月	全職員 10月と3月は居宅 クムレと合同	ケースの共有が行なえるとともに、他のスタッフの指摘をうけ新たな気づきが得られている。
研修報告	毎月	全職員	個人が外部研修で学んだことを事業所職員へ伝達することで、より深い学びになるとともに、研修内容が他の職員へも水平展開されている。

8. 防災・安全・衛生活動

6月23日 土砂崩れが起きると想定した避難訓練の実施。

9月29日 倉敷消防署の方を講師に迎えた消化訓練（水消火器の使用）と非難指導。

毎月第3木曜日 手洗い講習（法人内栄養士による）

9. 設備工事及び高額什器備品購入

なし

10. その他特記事項

なし

11. 次年度の課題

制度変更の中で、倉敷市の障がい者相談支援の体制も変化してきており、今後は困難と思われる触法・虐待ケースの対応以外の個別ケースへの対応は減少していくと考えられる。今後当センターが倉敷市民より求められる役割は地域づくりに移行していく、地域住民への啓発活動や地域の事業所への情報提供・研修、地域に不足しているサービスの創設や、地域を巻き込んで様々な問題を解決していく取り組みの実施が求められていく。そのために、職員の意識を個別支援だけでなく、地域支援に向かっていく必要があるとともに、今まで関わりの薄かった機関との連携も必要となってくる。

また、今年度初めて第三者評価を受審しており、改善点の指摘を受けることができている。よりよい相談支援事業所として機能していくために、指摘を受けた箇所の改善を行なっていく必要がある。

平成 27 年度事業報告書

【事業所名：倉敷発達障がい者支援センター】【事業所責任者：近藤友佳子】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

ご利用者の「夢、将来をともに考え、かなえていく」という思いを大切にした支援を行いました。相談者本人の思いに添った支援を行えるよう、まずはご本人の状況を正確に把握することに努め、家族、関係機関との連携をより強化できるよう密な関わりに努めました。また、より暮らしやすい町づくりのために事業所と地域の相互理解が必要との思いから、地域の方々に事業所について知っていただく機会を持ちました。

重点目標	その人らしい生き方の支援
目標（値）	施策及び結果
本人のニーズを把握し、支援に活かしていく。	<ul style="list-style-type: none"> 適切なアセスメント：随時実施している。相談者の声に出す思ひだけでなく、声に出さない・出せていない思ひがあることを念頭に置き、日々支援に当たることが必要。 事業所内での、定期的なケース検討：月に 2~3 回は実施できている。 必要なことを視覚的に整理し、本人とともにプランを練る：実施しているが、相談者個人個人に分かりやすい工夫を探る必要が引き続きある。 サービス事業所との情報交換：相談者の所属先（就労が主）に加え、相談事業所との関わりが増えている。
重点目標	家族と支える利用者の暮らし
目標（値）	施策及び結果
家族に障害特性を理解してもらう	<ul style="list-style-type: none"> 本人だけでなく、家族とも面接等の機会を持つ。家族の思いをまず把握する。そして本人の特性や関わり方にについてのアドバイスをする。：適宜実施できた。 家族の参加できる研修を紹介する。：家族のニーズ把握をし、適切な研修紹介を行っている。
重点目標	地域で支えあう環境づくり
目標（値）	施策及び結果

障害があってもなくても、暮らしやすい倉敷地域にしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・くらしきフォーラムの開催。一般市民に、障がい者とともにある生活について考える機会を持ってもらう。：11/8 実施済み。講演会はせず、飲食ブース、障害者ステージ、体験コーナーなど一般の方に障害を体感していくことで企画。来場者 1436 名。 ・発達障がい支援フォーラムの開催：2/7 実施済み。当事者 2 名を講師として招く。来場者 187 名。当事者の声を聞くことが大切だと多くの来場者が感じてくれた。
地域の方に、事業所や障がいについて知っていただく。	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい特性や支援についての研修を行い、啓発活動を行う：5回実施。自閉スペクトラム症の基本について知りたいという要望が多い。 ・地域の方との交流を持つ：老人会にて事業所 PR を行っている。 <p>また倉敷地域生活センターと合同でのサロンイベントに参加。近隣の方との交流の機会にする：地域生活支援センターと合同で 1 月にサロン交流会実施済み。</p>

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

中期経営計画に基づき、地域住民の力を引き出していくことを目標に、より暮らしやすい地域にするため、今年度は事業所と地域の相互理解を促進できる場、時間を持ちました。

また、総合相談の対応を通し、職員各自のスキルアップやクムレ内での連携の場が増えました。地域の方、またクムレ内でも交流の機会が増えることで顔の見えるつながりが出来つつあると感じます。

目標（値）	施策及び結果
地域の住民の力を引き出していく	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活支援センターのサロンイベントに参加し、地域のかたがたとの交流していく。5 年後には、互いに困ったときに相談しあえるような関係を築くことを目標とする。：まずは地域の方と定期的に交流する場を設けた。事業所周辺の地域住民に障がい者との交流の場を案内し、9 月と 1 月で実施。地域の方がそれぞれ、6 名、4 名参加。地域住民の力を引き出すためには、これから関係を深めていく必要がある。
ワンストップ相談窓口の整備とチームアプローチの構築を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内でのケース検討を定期的に行い、相談の傾向、支援の方向性について探ることで、幅広いケースに対応できる力を養っていく。また、クムレ内での連携をより強化なものにしていくため、他事業所職員との交流を積極的にもち、互いの強みについて知る機会とする。：総合相談のフリーダイヤルには、月数回のコンスタントな相談がある。対応することで、職員のコーディネートスキルも上がっているのではないかと考え

る。今後は、ただ紹介するのではなく、受けた電話を通して、相談者が何を望んでいるのか、隠れたニーズは何なのかを探る力についていきたい。

2. 行事報告

地域住民の力を引き出していくことを目指し、まずは事業所と地域の相互理解を促進できる場、時間を持つことを考えました。今回の実施で地域の方から得たご意見を元に、次年度はより参加していただきやすい企画をしていきます。

研修は前年度より回数は少なかった。

行事名	実施月	内容	結果
子育て応援シリーズ	5月	自閉スペクトラム症について、基礎的なことを伝える	保護者 11名参加。診断を受けたばかりの保護者の方、また何度もこのシリーズに参加されている保護者のかたもいらっしゃった。
地域との交流イベント	9月	バーベキュー	地域の方と、事業所、障害者の交流会を企画。(地域生活 C と合同) 地域の方と和気藹々と交流が出来た。障害者の緊張もあり地域の方と障害者との交流は乏しかったが、職員がつなぎ目の役目を今後も担っていきたい。
子育て応援シリーズ	10月	自閉スペクトラム症について、基礎的なことを伝える	保護者 11名参加。診断を受けたばかりの保護者の参加がほとんどだったよう。
NPO 法人ひなたぼっこ会	12月	B型作業所職員に向けて、発達障がいの基礎知識について伝える。	21名参加。普段接するご利用者を思い浮かべながら、よりよい支援について考える時間を持っていただいた。
地域との交流イベント	1月	せんざいとけんちんうどん	地域の方 4名参加。

3. 利用者・職員状況

相談利用者内訳は前年とほぼ同じ。18歳以上の方が65%を占めている。そのため、相談内容は就労についてが35%と一番多く、続いて家庭生活についてが33%、健康・衣料についての相談が11%であった。

実利用者数、延相談件数、相談形態等内訳は以下の通り。

実利用者数 280 名 延相談件数 1795 件

来所 件数	訪問 件数	電話	その他	機関 コンサル	調整 会議	個別 支援計画	研修
625 件	424 件	583 件	163 件	0 件	75 件	224 件	5 件

事業種別	計 画					現員	常勤換算
	正規	嘱託A	嘱託B	専門職	その他		
	2	0	0			2	2

〔単位：人〕

4. 保護者（家族）との交流事業

ペアレントメンター定例会、全体会・フォローアップ研修へ参加し、メンターさんとの交流を持っている。また、相談者の家族に対しては、面接の時間を持ったり、電話でのフォロー、状況確認を行っている。

5. 第三者評価に対する改善計画

相談者台帳の整備を行うべくたたき台は作成したが、実施できなかった。

他事業所ではあるが、相談系事業所の第三者評価の受審を受け、指摘事項を参考に、課題を少し知ることが出来た。（マニュアル作成、利用者尊重やプライバシー保護の姿勢をすべての書類に明記、書類の記録、保存、廃棄に関する書類作成）
具体的な実施は次年度行っていく。

6. 地域公益活動計画

生活困窮者に対する無償の緊急ショートステイの提供（食事・入浴を含む）を計画していたものの、ひろば栗の家の開所が遅れ実施が出来ていない。

7. 事業所研修計画

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
発達障害支援関係者連絡会議	7月 10月 12月 2月	県発達障害者支援センター、就業・活支援センター、岡山市発達障害者支援センター、岡山障害者職業センター、おかやま若者サポートステーション、市町 Co.	県内統一様式で実績管理を行うことで、市町のそれぞれの課題などが比較できるようになった。

発達障害者就労支援担当者連絡会議	12月 2月	県発達障害者支援センター、就業・活支援センター、岡山市発達障害者支援センター、岡山障害者職業センター、おかやま若者サポートステーション、市町Co.	毎回1人の対象者の支援についてグループワークを行っている。発達障害者について見識のある他機関の支援者との意見交換ができる場で、支援方法、見立てなど学ぶことが出来た。
ペアレントメンター定例会・全体会・フォローアップ研修	7月 2月	講師、おかやま発達障害者支援センター、市町Co.ペアレントメンター	備中圏域のペアレントメンターの活動等の情報交換、県域の活動についての紹介、メンター研修。メンターさんとの交流をとおし、メンターさんの思い、メンター活動に期待されていることなどを知った。倉敷地域でどのように展開広めていくかの課題がある。

8. 防災・安全・衛生活動

定期的な安全点検(チェックリストの活用)を行い、職員同士安全に対する意識が高まっている。また倉敷地域生活支援センターと合同で避難訓練を実施した。(年2回)
 毎月1回事業内外の環境整備を重点的に行った。
 法人の委員会から発信された情報について、職員全員に回覧し、周知を図る。

9. 設備工事及び高額什器備品購入

2階事務所の流しが冷水しかでないため、2月に温水器取り付け工事を行う。工期は半日。
 また、2階の事務所の環境整備で、3月に床面にタイルカーペットを敷いている。工期は1日。

10.その他特記事項

特になし。

11.次年度の課題

職員が入れ替わったため、新職員に業務について周知を図る。他機関へ移管したケースもあるため、年度当初は時間が取りやすい分、職員間でケースの検討時間を密に持ちたい。
 作成が途中になっている利用者台帳に取り掛かり、完成を目指したい。

平成 27 年度事業報告書

【事業所名：居宅介護支援事業所クムレ庄新町】【事業所責任者：泊量博】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

27年度も利用者については横ばいとなった。2月頃より増加に転じ、3月には新しい経路からの紹介により、大幅な増加に転じる事ができた。

10月に管理者が交替した事により、不慣れな点が職員、利用者、家族にみられた。地域活動については、なかなか取り組むことが出来なかった。

重点目標	その人らしい生き方や支援
目標（値）	施策及び結果
本人のニーズを把握し、支援に活かす	アセスメントやモニタリングを通じ、その人の希望やニーズを引き出せるよう支援を行った。 また、障がい事業所との事例検討、地域移行支援の依頼が切れ目なく行えるようになってきた。
重点目標	家族と支える利用者の暮らし
目標（値）	施策及び結果
家族に病気・障がいの理解をしてもらい、家族の役割を作り、支える	モニタリングや定期訪問を通じ、出来るだけ専門用語の使用を控え、分かりやすい説明が行えるよう心がけた。 他事業所の家族会の参加は出来なかったが、自事業所においては通所と合同で実施する事ができた。
重点目標	地域で支え合う環境づくり
目標（値）	施策及び結果
高齢になっても暮らしやすい地域作り	毎月の和気藹々座談会へ参加する事で参加者との交流が多くなった。座談会を通じての介護保険申請の相談もすこしづつ増加してきている。 また、庄新町民生委員との毎月の情報交換で、独居、見守り必要世帯見守り、相談を行う事が出来た。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

障がい相談事業所からの地域移行支援の相談が増加した。

また、新しい経路（特に岡山市）からの紹介が増えたことで、新しい社会資源の開発が行えた。

目標（値）	施策及び結果
-------	--------

<ul style="list-style-type: none"> 制度移行した際に切れ目のない支援を行う。 地域ニーズを引出し、新しい社会資源の開発。今年度は、地域の力を知る。 	<p>障がい事業所からの地域移行相談や介護保険の新規申請相談は切れ目なく行う事が出来た。</p> <p>今年度は、今までなかった経路（岡山市）からの依頼が急激に増加。新たな社会資源の発見が行う事が出来た。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2. 行事報告

今年度も通所と合同で実施。和気藹々座談会として、町内の方々にも活躍していただきながら、行事参加を行った。

行事名	実施月	内容	結果
和気藹々座談会	毎月 第3 土曜日	毎月参加者と共にテーマを決めてそれにについて学び情報交換と住民交流を行う。	毎月20名前後の町内の方が参加され、介護保険や認知症について知りたい等の意見をいただき、共に学びの機会となっている。
庄新町盆踊り大会	8月	焼きそば屋台として町内行事に参加。 町内会住民としての参加	和気藹々座談会の参加者にも手伝って頂き、250食を完売。

3. 利用者・職員状況

計画値より大幅な減少となった。

新規の相談の減少、施設入所等により安定した数値が年間を通して出なかった。

ただ、営業やクリニック、地域包括支援センター、障がい事業所へのPR活動を行い、2月より大幅な増加に転じている。

月	計画				実績			
	要支援 1, 2	要介護 1, 2	要介護 3 ～5	合計	要支援 1, 2	要介護 1, 2	要介護 3 ～5	合計
合計	34	195	138	367	48	103	66	217

	職員数	
	配置基準	現 員
合計	1	1

4. 保護者（家族）との交流事業

月1回のモニタリングや契約、新規アセスメント時には家族の同席を求め、必要な情報交換や気になる点の情報収集、必要な情報提供を行う事が出来ました。

5. 第三者評価に対する改善計画

実績なし

6. 地域公益活動計画

実績なし

7. 事業所研修計画

事例検討やプレゼンテーションを行う事により、より分かりやすい説明が出来るようにならないと
いけないと感じた。

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
毎月の和気藹々座談会	毎月	全職員	わかりやすい説明をする事の難しさを知る事が出来た。
みずきの会	毎月	介護支援専門員	参加者からの事例を検討することにより、気づきや支援方法の見直し等、参考にする事が出来た。 業務上、毎月の参加が難しい。

8. 防災・安全・衛生活動

通所と合同で実施。

9. 設備工事及び高額什器備品購入

なし

10.その他特記事項

なし

11.次年度の課題

来年度は年度当初から20名を超えてスタートができる。営業活動や事業所にクムレ庄新町を知って頂く活動を継続し、目標である1名あたり40件のプラン作成が出来る様努めていく。

また、利用者、家族の夢、希望、ニーズが実現できるような支援が出来る様、介護支援専門員としてのスキルアップが行えるように日々研鑽を積んでいきたいと考える。

平成 27 年度事業報告書

【事業所名：通所介護事業所 クムレ】【事業所責任者：渡邊 哲也】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

27 年度秋より利用されていた方の相次ぐ施設入居等があり利用者減となった。28 年 3 月までに新規利用者の獲得により若干盛り返している。

利用者様のモチベーションの維持、アップのためにご家族と協力して、墓参りに行ったり思い出の地にドライブに行ったり個々に喜んでいただいております。

和気藹藹座談会では町内の方を中心に、毎月交流し住みよい街にしていこうと共同で活動している。

重点目標	その人らしい生き方の支援
目標（値）	施策及び結果
利用者様の一人一人の夢の実現	利用者様一人一人の実現したいことを計画を立ててご家族にも協力いただき共同で実現することで、日々の生活のモチベーションアップを図ることが出来た。
重点目標	家族と支える利用者の暮らし
目標（値）	施策及び結果
ご家族とともに個々に対する介護技術や心構え等を学ぶ。	家族会を年 2 回開催し家族同士の情報交換と 3 ヶ月ごとの家庭訪問時に情報交換し、家庭生活と通所利用時の情報を共有し家庭での生活について話し合った。
重点目標	地域で支え合う環境づくり
目標（値）	施策及び結果
地域の中で住民が互いに支え合える関係をつくる。	毎月の和気藹藹座談会の開催と民生委員さんとの情報交換等で住民同士の交流する機会をつくる。町内行事等でお手伝いいただきともに汗をかいて仲間意識を持つことが出来た。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

和気藹藹座談会で住民との話の中から災害時の対応や思いを伺い、民生委員、町内会、駐在さん等に情報を伝えることでそれに対し、災害時の対応について動き始めている。民生委員さんと駐在さんとは同じ席を持つことが出来共同で見守りマップを作成することが出来た。次年度は、町内会とも話し合いながらマップを生かしていくのかを具体的に考えていきたい

目標（値）	施策及び結果
地域住民と災害時等の対応について考える会をつくる。	民生委員、駐在さん、との情報交換と和気藹藹座談会での情報収集、町内会への情報提供を行っている。

2. 行事報告

今年度は我々職員だけのクムレとして町内の行事への参加だけではなく、和気藹藹座談会としての町内の方々にも活躍しいただきながらの行事参加を行った。今まで町内に知り合いも少なく行事にも参加することはなかったと言われる方が参加することで知り合いの方に出会い交流が始まったという声も聞かれとてもうれしかった。今後も和気藹藹座談会としての参加をしていきたい。

27年度の主な行事を記述下さい。

行事名	実施月	内容	結果
和気藹藹座談会	毎月第3 土曜日 13 時 30分～ 15時	毎月参加者とともにテーマを決めてそれについて学び情報交換と住民交流を行う。	毎月 20名前後の町内の方が参加され、介護保険や、認知症について知りたいなど意見をいただきともに学びの会となっている。
庄新町盆踊り大会	8月	焼きそば屋台として町内行事に参加 町内会住民としての参加	和気藹藹座談会の参加者にも手伝っていたりともに汗をかくことが出来た。250食を完売し町内会の売り上げにも貢献した。
庄新町文化祭	10月	通所者の作品の展示を行う。	今年度は職員の都合がつかず当日の屋台としての参加が出来なかつた。 利用者様とともに創った作品の展示を行う。後日事業所に作り方を教えてほしいと数名の方が来られ利用者さんが教えてあげることが出来た。
庄地区人権推進フェスティバル	11月	手工芸体験コーナー	小学生や幼稚園の子供達でもできる手工芸のコーナーを担当する。庄地区の様々な方との交流が出来た。

庄新町朝市	12月	餅つきを担当	利用者様も参加して町内の方とともに餅つきをすることが出来た。町内会のつながりで高梁市布寄町の方とも交流する。
庄新町敬老のつどい	9月	町内会主催の敬老会に利用者も参加し職員はストレッチ体操の時間を担当する。	町内の高齢の方と楽しく交流することが出来た。ブーケの会など町内の他の団体とも活動をともにすることが出来た。

3. 利用者・職員状況

職員の変動は、食事担当の方が1名退職したのみで他に変動はありませんでした。

利用者については春先より体調を崩し入院される方がおられ低迷が続いてしまいました。夏に向かって直しかけた頃、秋から年末に特養への急な入居などで1月に減ってしまいその後盛り返している所です。

	介護給付	予防給付
利 用 者 定 員	10名	
利 用 者 延 数	936名	150名
一日平均利用者数	3.6名	0.57名
稼 働 率 (%)		41.7%
開 所 日 数	259 日	259 日
平 均 介 護 度	2.5	要支援 1.5

	職員数	
	配置基準	現 員
合計	3	3

4. 保護者（家族）との交流事業

家族会を年2回開催しました。和気藹藹座談会にも参加していただき町内の方とも交流していただきました。家庭訪問も3ヶ月に1度の評価時に行い送迎時にも情報交換が出来ました。

5. 第三者評価に対する改善計画

3月に第3者評価を受審いたしました。

地域に対しての活動や利用者に対するサービスについてはよい評価をいただき自信をいただきました。しかし、手順書や、やっていることの記録が出来ていない物もあり残念とに指摘もいただき次年度から取り組んでいきます。利用者増については事業計画にも入れて事業グループ、法人としての取り組みが必要との厳しいご指導をいただきました。

6. 地域公益活動計画

生活困窮者に対する無償の緊急ショートステイの提供については実績がありませんでした。

7. 事業所研修計画

←ここでは事業所に絞る。「結果」欄には、簡単に研修で得られた効果を記入してください。

認知症の最新知識の確認をすることが出来た。

毎月の座談会で一般の方に対して講義、説明を解りやすくすることで勉強させていただいている。

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
認知症実践者研修		山下典子	認知症介護の最新情報獲得
毎月の和気藹々座談会	毎月	全職員	地域の皆様にわかるよう伝える事の困難さが勉強になる。

8. 防災・安全・衛生活動

27年度の災害・防犯訓練の実施状況

年2回火災と災害を想定しての避難訓練を利用者とともにに行っている。同時に家庭で起こったことを想定し注意点などを話し合っている。

衛生については食中毒等の注意状況の確認と、毎月の検便を行っている。

9. 設備工事及び高額什器備品購入

なし

10.その他特記事項

なし

11.次年度の課題

利用者数の増加が最大の課題である。これまで同様の地域包括、居宅への訪問と居宅クムレとの新規への営業活動を行う。さらに障害サービスから介護保険へのスムーズな移行について進めていく。地域社会貢献としては、社協、支援センター、町内会にも参加いただき運営推進会議を年4回開催していきたいと考えている。

平成 27 年度事業報告書

【事業所名：事務局】【事業所責任者：神田 晃・久保 巨人】

平成 27 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

クムレが社会福祉法人としての使命を追求し、「ともに育ち ともに生きる」理念を実現するために、経営組織のあり方の見直しとして、新たに設置した経営委員会において外部の有識者の意見を取り入れ、中期経営計画の進捗や法人運営状況を把握し、人財育成の観点からは、人財育成PTによる新人事考課制度の検討と導入を進めた。また、事業所の事務作業にかかる時間短縮と経費削減を進めるため、物品一括購入システムの導入やグループウェアの利用対象範囲拡大（正規職員の一部のみから正規職員と嘱託職員 A 全員に導入）により情報共有と各種決裁・申請が迅速に行なえる環境も整備した。

さらに、地域貢献の一環として、隣接する水田を借りて稻作に取り組み、高齢化による後継者難に悩む地域の支援と同時に、関連する行事を地域住民や利用児（者）、保護者とを行い、貴重な交流の場となった。

重点目標	法人活動の見える化
目標（値）	施策及び結果
○財務諸表・事業報告の公開	財務諸表は公開しているが、事業報告の公開についてはホームページ全面リニューアルの予定があり、平成 28 年度に実施予定。
○第三者評価結果の公開	第三者評価の結果報告が平成 28 年度に入ったため公開は平成 28 年度に行なう。
重点目標	事業運営の安定化
目標（値）	施策及び結果
○「経営委員会」の設置・運営	平成 27 年度に全 5 回開催し、第 2 期中期経営計画や法人の課題等について外部の有識者の方の意見を取り入れながら法人経営の適正化に努めた。
○事務局体制の見える化	職員向けに職務分担表を作成し周知した。
○マイナンバー制度への対応	職員に周知するために各グループ会議で説明し、平成 28 年 1 月～個人番号の収集及び行政手続への利用を開始した。

○コスト削減項目の検討、提案	物品一括購入システム導入や携帯電話のキャリア見直しにより年間 100 万円のコスト削減を見込む。
重点目標	働きやすい職場・労働環境の整備
目標（値）	施策及び結果
○各事業所への訪問による意見交換	事務局職員による現場実習を通して事業所責任者とコミュニケーションが図れた。また、クムレの事業を体験できることで事業への理解が深まり、やりがいや課題大変さも合わせて感じることができた。
○「定時退社デー実施状況」の把握と課題の抽出	毎月のグループ会議で取り組み状況を発表する中で、先進的に取り組んでいる事業所に倣い、定時退社デー週 2 日を努力目標に取り組んだ。
○表彰制度の構築	平成 28 年度継続案件となった。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

第 2 期中期経営計画の柱の中で、「法人活動の見える化」「事業運営の安定化」「働きやすい職場・労働環境の整備」を目指し、それぞれ、会計監査の充実や安定した事業運営の強化や「くるみんマーク」の取得に向けた環境整備に取り組んだ。

目標（値）	施策及び結果
法人活動の見える化 ・会計監査の充実	・法人活動の見える化の一環として外部監査の実施に向け、平成 27 年度は法人内月次決算の実施を行うために、グループ会議の実績管理表の見直しや経営会議の実績管理表の見直しを通して、より実態に合った実績が把握できるようになった。
事業運営の安定化 ・安定した事業運営の強化	・グループウェアを見直し、対象を一部の正規職員から正規職員と嘱託職員 A までの全職員に広げ、情報伝達の効率化と各種申請を電子化することで決裁までの時間を短縮し、本来業務への時間を確保した。
働きやすい職場・労働環境の整備 ・「くるみんマーク」の取得に向けた環境整備	・ワークライフバランス推進のための目標として、「くるみんマーク」の取得に向け、対象者への制度説明を実施したが男性の育休取得は未達成。

2. 行事

人材確保が難しくなる中、新採用職員の試験を例年の 2 回から 3 回に増やし、人材確保に努めた。

行事名	実施月	内容
辞令交付式	4月	辞令交付、入社式
第1回経営委員会	4月	趣旨説明等
理事会・評議員会	5月	決算他の審議
法人説明会	6月	新規学卒者向け法人説明会
第1回新採用職員試験（一次）	7月	入職試験
第1回新採用職員試験（二次）	7月	入職試験
第2回経営委員会	8月	第2期中期経営計画進捗把握
理事会・評議員会	8月	一次補正他の審議
第3回経営委員会	10月	第2期中期経営計画進捗把握
内定者交流会	10月	内定者の交流
第2回新採用職員試験	10月	入職試験
第3回新採用職員試験	11月	入職試験
第4回経営委員会	12月	第二次補正等
互例会	1月	新年挨拶、抱負他
内定式	1月	内定証書授与、先輩職員との交流
理事会・評議員会	1月	二次補正他の審議
新採用職員宿泊研修	2月	理念・組織・マナー等の学習
第5回経営委員会	3月	三次補正、新年度事業計画の確認
理事会・評議員会	3月	三次補正、新年度事業計画の審議

3. 職員状況

平成27年度は、6月から総務に1名、1月からコンプライアンス担当として弁護士1名を採用した。12月には財務・経理の職員1名が産休に入り、3月にはコンプライアンス担当職員が退職した。

総務	正職	2
人事・労務		2
財務・経理		2
計		6

4. 保護者（家族）との交流事業

保護者・家族との交流では、平成27年度に開始した稻作作業の中で、田植えと収穫と一緒に取り組んだ。また、収穫後の稻わらを利用した正月飾り作りやとんど焼き、季節の行事を通じた交流を図った。

5. 第三者評価に対する改善

事務局としての受審はなし

6. 地域公益活動

地域の高齢化が進む中で、重労働である農業の担い手が減少しており、耕作放棄地も見られる中で、平成27年度は地域貢献と農業の担い手不足解消を目指す第一歩として隣接地で稻作に取り組んだ。毎回5名程度の職員が参加し、地主に指導を受けながら、土づくりからはじまる一連の作業に取り組み、最終的に収穫まで至ることができた。

7. 事業所研修

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
電話応対等について、社会福祉法人会計について、マイナンバー制度について、事故予防（リスクマネジメント、KYT）	9月	神田・久保・森川・守屋・樋口・内村	新しい制度対応があり知識の幅が広がった。
社会福祉概論、労務について（入退職・管理含む）、年末調整について	11月	神田・久保・森川・守屋・樋口・内村	毎年行なう実務ではあるが確認も含めた内容で認識をあわせる機会になった。

8. 防災・安全・衛生活動

なし

9. 設備工事及び高額什器備品購入

なし

10.その他特記事項

なし

11.次年度の課題

平成28年度以降の「社会福祉等の一部を改正する法律案」を見据えた取り組みを確実に実行していくことが課題。理事会、評議員会の人選を含めた体制作りやHPを活用した情報開示、ワークライフバランスの推進として有給5日取得義務化に向けた取り組み、人材確保に向けた待遇体系の見直し、公益性を担保する財務規律に取り組む。